

財政・租税——昭和九年度縣稅徵收成績概數——昭和十年度三市々稅課率比較

昭和九年は凶作の影響で縣稅徵收成績は概して悪いものと見られて居たが昭和十年四月末日迄に於ける成績を見るに調定額は二百七十二萬八千二百九十一圓その中収入額は二百四十八萬四千七百七十四圓である、然し未収入額は内五月末の納閉期には十六萬二千四百八十八圓の収入見込があるの結局未収入の通り

繰越額は八萬二千二百二十六圓の見込である、即ち今後の収入見込額である十六萬二千四百八十八圓が徵收出來ると假定すれば徵收額は二百六十四萬六千六百五圓となり調定額に比し収入歩合は九割六分九厘となる、而してこれを前年度の収入歩合九割七分に比較しても僅かに一厘の低下に過ぎず杞憂された凶作の影響が殆んど見られない程好成績である、各郡市別の成績は左

郡市	調査額	徵收額	収入歩合
東郡	一、〇五、六〇六	九八、八〇七	九、八一
中郡	一、〇三、五〇七	一五九、九一九	九、八一
南郡	一、〇三、二〇〇	一三、五三四	九、八一
北郡	一、〇三、一六二	一五、三三〇	九、八一
北前郡	九三	六六三	七、〇〇
北前市	七八、一〇八	六七八、五八五	九、〇〇
青森市	九九、七七八	九三、九三〇	九、三〇
弘前市	六四六、三八〇	六三〇、七〇六	九、七〇
計	五、三三七	五、一七七	九、七〇
計	二、八九一、五五九	三、八〇五、四九六	同歩合

郡市	調査額	徵收額
東郡	二、二〇、九四八	三三三、三〇八
中郡	二、五〇、八三四	二四七、一九〇
南郡	二、二七、七八一	二二五、三三三
北郡	四九、九〇四	四三、三三三
北前郡	三六、六六九	三三、三三三
北前市	二七、八三二	二六、二五〇
青森市	一〇六、四二五	九九、三八一
弘前市	三〇、四二五	二九、一三五
計	三三〇、五五六	二二二、〇八一
計	三六〇、六二九	三四九、六四一
計	一五八、四八三	一五三、七八〇
計	二、八八三	二、八五五、四九六

### 昭和九年度縣稅徵收成績概數

昭和九年は凶作の影響で縣稅徵收成績は概して悪いものと見られて居たが昭和十年四月末日迄に於ける成績を見るに調定額は二百七十二萬八千二百九十一圓その中収入額は二百四十八萬四千七百七十四圓である、然し未収入額は内五月末の納閉期には十六萬二千四百八十八圓の収入見込があるの結局未収入の通り

繰越額は八萬二千二百二十六圓の見込である、即ち今後の収入見込額である十六萬二千四百八十八圓が徵收出來ると假定すれば徵收額は二百六十四萬六千六百五圓となり調定額に比し収入歩合は九割六分九厘となる、而してこれを前年度の収入歩合九割七分に比較しても僅かに一厘の低下に過ぎず杞憂された凶作の影響が殆んど見られない程好成績である、各郡市別の成績は左

郡市	調査額	収入済額	今後収入見込額	繰越収入
東郡	一、九三、五九一	一六三、九七四	三三、〇四七	六、九三二
中郡	二、四六、五四六	二五〇、〇四七	四、五五八	七、〇八三
南郡	二、二〇、四九二	三〇五、六四八	一五、四六八	一、九〇八
北郡	三三、五五〇	三九、〇七〇	六、六四六	五、七〇一
北前郡	二二、八五四	一八、九三三	一、四二二	一、四二二
北前市	二〇、四四二	一八、九三三	一、〇六六	一、二八二
青森市	四〇、四九九	三六、三三〇	九、九九三	七、六九九
弘前市	一五、七五八	一四、一八九	一、五六一	一、五六一
計	二〇、八三三	一八、八三三	一、〇〇〇	五、七九〇
計	二、七八三、九二一	二、八四四、〇一七	一、〇〇〇	八三、三三六

### 昭和十年度三市々稅課率比較

市	地稅	地稅附加稅	特別附加稅	計
青森市	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	二一、〇〇
弘前市	八、〇〇	八、〇〇	八、〇〇	二四、〇〇
八戸市	六、〇〇	六、〇〇	六、〇〇	一八、〇〇

### 昭和九年度市町村稅徵收成績

(昭和十年一月末日現在)

市町村	賦課總額	収入總額	収入歩合
東郡	三三、七、四八	二五、〇、九七	〇、七五
中郡	三三、一、六五	二一、九、九三	〇、六五
南郡	二八、一、七八	二二、八、六七	〇、八二
北郡	五、六、三三	四、五、三三	〇、八〇
北前郡	四、一、二七	三、四、九六	〇、八五
北前市	三、三、〇七	二、七、五〇	〇、八三
青森市	四、四、五五	三、八、〇八	〇、八五
弘前市	二、七、七四	二、三、八八	〇、八六
計	四、〇、八、六五四	三、〇、九、一、六四	〇、七五

### 青森市十年度雜稅

青森市では電柱稅が縣管電氣となつた爲になつたのでこの財源を他に求むべく十年度から雜稅中の船稅、櫓稅、漁業稅、演劇興行稅及び車稅を増稅すべく豫算市會に提案した、即ち船稅、櫓稅、漁業稅一圓に付

六十錢を一圓に、又演劇興行稅八十錢、車稅九十錢を一圓にしやうといふのである、何れも各稅は九年度にも船稅、漁業稅三十錢を六十錢に興行稅六十錢を八十錢に車稅七十錢を九十錢に増稅したものであり殊べきもので社會政策的見地からしても當を得ない所から各方面

市町村	昭和九年	昭和十年
東郡	三、九九九	三、九九九
中郡	二、四九七	二、四九七
南郡	三、二一五	三、二一五
北郡	一、〇〇〇	一、〇〇〇
北前郡	一、〇〇〇	一、〇〇〇
北前市	一、〇〇〇	一、〇〇〇
青森市	一、〇〇〇	一、〇〇〇
弘前市	一、〇〇〇	一、〇〇〇
計	一、〇〇〇	一、〇〇〇

△過年度未納調  
△過年度中最も古い未納は下北郡風間浦村の大正八年分十一圓五十九錢で昭和元年(大正十年)以前のもので二萬七千九百九十一圓ありその後の分は

中 郡	三三、八二六	上 郡	二九、九七八	青 森 市	五、四八九
南 郡	三三、九三三	北 郡	二〇、二二五	弘 前 市	一四、〇五三
北 郡	四〇、八八〇	下 郡	一六、九〇九	八 戸 市	七六、九〇七
計					一四八
					八三、六八三

國稅所得稅五十圓以上納稅者

(本表に含まれざる町村は該當者なきものである)

青森市

大坂 金助	五九、九〇九	磯口 藏吉	二四、〇一〇	柴田 忠太	一四、八八〇	杉浦 佐次郎	〇九、四七
渡邊 佐助	五七、三九四	若松 圓太郎	二二、三〇六	高杉 才太郎	一四、八八〇	岩谷 源吉	〇九、〇一九
吹田 銈三郎	五九、〇六八	小館 保次郎	二二、三〇六	齋藤 豐三郎	一四、〇二〇	神野 伊三郎	〇九、〇一九
坂上 五郎兵衛	四八、〇一五	小館 貞一	二二、三〇六	大井 民吾	一四、〇二〇	奥野 慶藏	〇九、〇一九
和 幸吉	四八、〇一五	西尾 三郎	二二、三〇六	阿保 七五郎	一四、〇二〇	早瀬 喜三郎	〇九、〇一九
千葉 傳藏	四八、〇一五	熊倉 圓太郎	二二、三〇六	阿保 定吉	一四、〇二〇	井上 秀夫	〇九、〇一九
成田 文吉	四八、〇一五	宮川 慶十郎	二二、三〇六	高橋 濟二	一四、〇二〇	石塚 泰輔	〇九、〇一九
寺嶋 末太郎	四八、〇一五	板倉 嘉吉	二二、三〇六	阿保 七五郎	一四、〇二〇	蜂谷 豊次	〇九、〇一九
北谷 幸八	四八、〇一五	階上 金四郎	二二、三〇六	佐々木 堅次郎	一四、〇二〇	細井 儀助	〇九、〇一九
鎌田 重吉	四八、〇一五	渡邊 友吉	二二、三〇六	大岡 半右衛門	一四、〇二〇	寺井 俊夫	〇九、〇一九
田中 勇三	四八、〇一五	鈴木 友吉	二二、三〇六	佐々木 堅次郎	一四、〇二〇	梅村 光政	〇九、〇一九
村本 喜四郎	四八、〇一五	田中 敬三	二二、三〇六	岡本 善作	一四、〇二〇	小林 光政	〇九、〇一九
神 祐逸	四八、〇一五	沼田 磯吉	二二、三〇六	根市 兼次郎	一四、〇二〇	丸尾 信一	〇九、〇一九
柏原 彦太郎	四八、〇一五	福岡 政治郎	二二、三〇六	岸 久米三郎	一四、〇二〇	村 光政	〇九、〇一九
加藤 清吉	四八、〇一五	小島 茂寛	二二、三〇六	長谷川 武次郎	一四、〇二〇	横山 俊介	〇九、〇一九
山田 平太郎	四八、〇一五	鈴木 友吉	二二、三〇六	賀山 武次郎	一四、〇二〇	小倉 十次郎	〇九、〇一九
和田 順四郎	四八、〇一五	伊藤 虎雄	二二、三〇六	工藤 善三郎	一四、〇二〇	伊藤 嘉助	〇九、〇一九
和木 彦太郎	四八、〇一五	高坂 多三郎	二二、三〇六	藤 幸一郎	一四、〇二〇	鎌田 盛逸	〇九、〇一九
齋藤 末吉	四八、〇一五	西澤 伊兵衛	二二、三〇六	中村 與助	一四、〇二〇	高田 竹三郎	〇九、〇一九
田村 繁五郎	四八、〇一五	石館 喜久造	二二、三〇六	對馬 千代吉	一四、〇二〇	松森 兼治郎	〇九、〇一九
宮川 初太郎	四八、〇一五	阿保 民之助	二二、三〇六	齋藤 嘉助	一四、〇二〇	武田 貞助	〇九、〇一九
				和 喜左衛門	一四、〇二〇	長尾 健造	〇九、〇一九
				高橋 重藏	一四、〇二〇	仲部 雄一	〇九、〇一九
						建部 一雄	〇九、〇一九
						副島 廉治	〇九、〇一九
						伊藤 直一	〇九、〇一九

弘前市

中嶋 陸一	七三、〇一〇	渡部 ショ	五三、四〇〇	辻 忠八	三三、七三三	石崎 定吉	一七、〇三三
原 耕太	七三、〇一〇	安井 章一	五三、四〇〇	七戸 善之助	三三、七三三	田中 忠五郎	一六、八〇五
角野 七藏	七三、〇一〇	山田 公正	五三、四〇〇	若井 善藏	三三、七三三	今泉 清藏	一六、八〇五
室井 胤次郎	七三、〇一〇	宮川 忠次郎	五三、四〇〇	大島 治三郎	三三、七三三	佐藤 才八	一六、八〇五
川崎 政吉	七三、〇一〇	佐藤 信敬	五三、四〇〇	岡本 重美	三三、七三三	近藤 忠助	一六、八〇五
齋藤 兵太郎	七三、〇一〇	石戸 房治	五三、四〇〇	松原 正治	三三、七三三	野宮 忠吉	一六、八〇五
渡邊 泰助	七三、〇一〇	伊藤 宗三郎	五三、四〇〇	佐野 觀藏	三三、七三三	川嶋 源吉	一六、八〇五
増子 剛一	七三、〇一〇	奥村 平吉	五三、四〇〇			野宮 忠吉	一六、八〇五
成田 彦榮	七三、〇一〇	福井 岩逸	五三、四〇〇			大黒 吉太郎	一六、八〇五
長山 壽雄	七三、〇一〇	葛西 千代治	五三、四〇〇			玉田 忠太郎	一六、八〇五
田村 強	七三、〇一〇	阿部 重吉	五三、四〇〇			兒嶋 武夫	一六、八〇五
高松 藤吉	七三、〇一〇	久保 保壽	五三、四〇〇			齋藤 清太郎	一六、八〇五
池田 徳治	七三、〇一〇	柿崎 善祐	五三、四〇〇			中村 泰知	一六、八〇五
榊澤 十一郎	七三、〇一〇	小館 善治	五三、四〇〇			山形 良太郎	一六、八〇五
小田 岩太郎	七三、〇一〇	齋藤 忠一	五三、四〇〇			千葉 豊次郎	一六、八〇五
ジーン	七三、〇一〇	山崎 常盤	五三、四〇〇			川嶋 實	一六、八〇五
遠藤 周藏	七三、〇一〇	柿崎 守義	五三、四〇〇			宮川 忠三	一六、八〇五
松川 恭佐	七三、〇一〇	福士 新之助	五三、四〇〇			齋藤 金藏	一六、八〇五
三浦 銀之助	七三、〇一〇	砂田 嘉一郎	五三、四〇〇			伊藤 静	一六、八〇五
氣仙 忠治	七三、〇一〇	永倉 常吉	五三、四〇〇			櫻庭 豊輔	一六、八〇五
内山 虎之輔	七三、〇一〇	西澤 忠一	五三、四〇〇			鳴海 順吉	一六、八〇五
高瀬 助三郎	七三、〇一〇	加藤 重孝	五三、四〇〇			木村 元吉	一六、八〇五
島山 源之進	七三、〇一〇	村上 嘉市	五三、四〇〇			天木 順吉	一六、八〇五
小黒 智教	七三、〇一〇	紀 和夫	五三、四〇〇			玉田 秀造	一六、八〇五
對馬 彦太郎	七三、〇一〇	上田 幸兵衛	五三、四〇〇			葛西 右平	一六、八〇五
竹田 松次郎	七三、〇一〇	米田 米藏	五三、四〇〇			前田 久一郎	一六、八〇五
石橋 昇	七三、〇一〇	速水 彦一	五三、四〇〇			今野 伊三郎	一六、八〇五
梅津 忠兵衛	七三、〇一〇	阿部 梅藏	五三、四〇〇			佐藤 慶三郎	一六、八〇五
長内 岩七郎	七三、〇一〇	野呂 義勝	五三、四〇〇			今村 友太郎	一六、八〇五
小林 喜策	七三、〇一〇	角田 堯現	五三、四〇〇			成田 寅之助	一六、八〇五
高橋 忠吉	七三、〇一〇	吉谷 正四	五三、四〇〇			齋藤 東太郎	一六、八〇五
守屋 まさち	七三、〇一〇	大川 隆之	五三、四〇〇			木村 永吉	一六、八〇五
渡邊 安吉	七三、〇一〇						

財政・租税——國稅所得稅五十圓以上納稅者——八戶市

Table listing names and tax amounts for Hachioji City. Columns include names like 太田 秀藏, 木村 俊策, 吉田 健吉, etc., and tax amounts ranging from 73.95 to 188.90.

Table listing names and tax amounts for various districts including 東津輕郡, 油川町, 福井 金治, 西津輕郡, and 中津輕郡. Columns include names like 駒井 五郎, 秋山 熊五郎, 吉田 熊藏, etc., and tax amounts ranging from 33.00 to 63.60.

財政・租税——國稅所得稅五十圓以上納稅者——東津輕郡——西津輕郡——中津輕郡

財政・租税——國稅所得稅五十圓以上納稅者——南津輕郡

Table listing taxpayers in Nanjyōgun with columns for village names (e.g., 西澤三郎, 岩谷貞助), names, and tax amounts.

Table listing taxpayers in other regions (北津輕郡, 上北郡, 野邊地町) with columns for village names, names, and tax amounts.

財政・租税——國稅所得稅五十圓以上納稅者——北津輕郡——上北郡

財政・租税

國稅所得稅五十圓以上納稅者 下北郡 三戸郡

三戸郡

一五四

石田平十郎	盛田達三	柘植一夫	戸館第次郎	堀三梯	山本七五郎	石田末吉	戸館第太郎	加藤精一	石川健	森三郎	遊佐幸平	高橋陸次郎	石川清	益川東太郎	石川敏	杉本馬吉	松本幾造	稻本はる	村木四郎	篠田翠	高橋吉三郎	石川胤氏	米田房五郎	小笠原奥治	江渡寛治	小笠原龜一	小笠原次郎	坂本孝悦	田中實	水梨三太	乘上喜三郎	足澤辰之助	佐藤宇左衛門	大村市太郎	穂積倉藏	穂積重二	小島藤藏	小島憲吾	谷内伊太郎	留目喜一郎	村井權次郎	谷内留吉	久保田庄作	中川原貞樓	工藤幸太郎	小村善太郎	田中實	千葉傳藏	和谷幸吉	北谷幸七	田中勇三	齊藤末吉	和順四郎	菊池長之	宮川忠助	櫻庭秀輔	加藤幸助	竹谷永太郎	藤田久次郎	竹内重夫	大高啓吉	石崎定吉	引田雄輔	榎館彌三郎	北村益	駒井庄三郎	横澤新太郎	鈴木吉十郎	金入文吉	西川龜次郎	南部直道	今淵正太郎	藤井與惣治	川島準藏	關野榮藏	河野末吉	小島政太郎	白濱政太郎	武山秀雄	澤口要次郎	山本八三郎	山本寅吉	山本石太郎	杉山太郎	山本たけ	今泉富吉	千枝三郎	野村和三郎	佐々木綱三	松本幸得	山内與三郎	山内俊一	服部胤一	塚原薫	日野昇一	中島第三	高橋幸喜	佐賀清太郎	八谷理之助	山崎末松	穂積倉藏	徳田兵衛	松尾市兵衛	松尾善太郎	松尾節三	小野寺雄橋	松尾善太郎	志賀治助	田島禎造	山口禎造	三浦善藏	川崎七五郎	竹内宗吉	高橋庄七	小熊謙三郎	高橋恒吉	菊池萬三郎	松尾由雄	高奥喜代治	和田寛次郎	一渡麟兒	奥正四郎	奥空孝	杉谷三郎	熊谷福松	古田直七	工藤定助	村末治	山本又次郎	大村はぎの	荒谷庄次郎	野澤三藏	萩原三郎	桑原市三郎	茨嶋福太郎	南孫吉	木村彦松	地代所清一	荒谷庄次郎	泉山岩次郎	横川貞夫	泉山吉太郎	桐野一文	馬渡又兵衛	大嶋市郎	山内亮	澤口寅吉	出町定男	出町惠男	高橋熊太郎	夏城源太郎	村松松五郎	中村重藏	細越清之助	古館萬之助	古館七治	細越岩吉	壬生八十吉	壬生清吉	橋本幸三	山下萬助	村井太仲
-------	------	------	-------	-----	-------	------	-------	------	-----	-----	------	-------	-----	-------	-----	------	------	------	------	-----	-------	------	-------	-------	------	-------	-------	------	-----	------	-------	-------	--------	-------	------	------	------	------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	-------	------	------	------	------	-------	-----	-------	-------	-------	------	-------	------	-------	-------	------	------	------	-------	-------	------	-------	-------	------	-------	------	------	------	------	-------	-------	------	-------	------	------	-----	------	------	------	-------	-------	------	------	------	-------	-------	------	-------	-------	------	------	------	------	-------	------	------	-------	------	-------	------	-------	-------	------	------	-----	------	------	------	------	-----	-------	-------	-------	------	------	-------	-------	-----	------	-------	-------	-------	------	-------	------	-------	------	-----	------	------	------	-------	-------	-------	------	-------	-------	------	------	-------	------	------	------	------

市町村税戸數割

多額納稅者 (一市町村十名)

青森市	大坂金助	渡邊佐助	吹田銚三郎	三戸郡	藤井與惣治	今淵正太郎	南部直道	西川龜次郎	金入文吉	鈴木吉十郎	横澤新太郎	駒井庄三郎	北村益	榎館彌三郎	八戸市	引田雄輔	石崎定吉	大高啓吉	竹内重夫	藤田久次郎	竹谷永太郎	加藤幸助	櫻庭秀輔	宮川忠助	菊池長之	弘前市	和順四郎	齊藤末吉	田中勇三	北谷幸七	和谷幸吉	千葉傳藏	坂上五郎兵衛	三戸町	穂積倉藏	徳田兵衛	松尾市兵衛	松尾善太郎	松尾節三	小野寺雄橋	松尾善太郎	志賀治助	田島禎造	山口禎造	三浦善藏	川崎七五郎	竹内宗吉	高橋庄七	小熊謙三郎	高橋恒吉	菊池萬三郎	松尾由雄	高奥喜代治	和田寛次郎	田子町	一渡麟兒	奥正四郎	奥空孝	杉谷三郎	熊谷福松	古田直七	工藤定助	村末治	山本又次郎	大村はぎの	是川村	田端善太郎	北城源治郎	中山秀五郎	阿部伊勢	上野淺吉	下館萬吉	田端榮吉	田端辰藏	山下申松	林崎大吉	高橋藤吉	大西榮藏	鷹屋敷松太郎	蟹澤仁太郎	左館辨之助	奥澤五市郎	籠田勝	小山助次郎	館花千松	赤坂徳松	正部家正	萩澤助秋	野澤三藏	荒谷庄次郎	桑原市三郎	茨嶋福太郎	南孫吉	木村彦松	地代所清一	館村	泉山岩次郎	三浦惣次郎	西村倉吉	田村元次郎	上村熊吉	山田源兵衛	佐藤初太郎	山田久米吉	小嶋米龜松	桐野一文	馬渡又兵衛	大嶋市郎	山内亮	小笠原嘉一	馬渡兼吉	寺澤竹吉	大嶋勇太郎	吉田孫兵衛	杉倉萬次郎	清川一喜	下長苗代村	西山助太郎	河原木富次郎	上村石次郎	下村圓次郎	小笠原萬太郎	後村清之丞	田名部右衛門次郎	中村三藏	田名部彦右衛門	河村幸藏	一五五
-----	------	------	-------	-----	-------	-------	------	-------	------	-------	-------	-------	-----	-------	-----	------	------	------	------	-------	-------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	--------	-----	------	------	-------	-------	------	-------	-------	------	------	------	------	-------	------	------	-------	------	-------	------	-------	-------	-----	------	------	-----	------	------	------	------	-----	-------	-------	-----	-------	-------	-------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	--------	-------	-------	-------	-----	-------	------	------	------	------	------	-------	-------	-------	-----	------	-------	----	-------	-------	------	-------	------	-------	-------	-------	-------	------	-------	------	-----	-------	------	------	-------	-------	-------	------	-------	-------	--------	-------	-------	--------	-------	----------	------	---------	------	-----

財政・租税

市町村税戸數割多額納稅者

青森市 弘前市 八戸市 三戸郡

北川村

出町 定 三六・八九  
澤口 寅吉 二五・〇六  
出町 惠男 二七・六六  
川村 亦次郎 一七・六四  
工藤 福藏 一七・〇八  
工藤 右衛門 一五・〇八  
木村 與吉 一四・三三  
川村 清八 一四・〇九  
西塚 三五郎 一三・九〇  
平田 善次郎 一三・七〇

地引村

夏堀 源太郎 一八・九六  
高橋 熊太郎 一五・七一  
八木 田徳太郎 一三・三三  
夏坂 專一郎 九・五五  
梅村 長一郎 八・五五  
庭田 茂平治 七・七三  
庭田 梅太郎 七・六二  
庭田 利助 六・〇七  
夏坂 竹松 五・九七  
山道 金太郎 六・二二

島守村

砂倉 常助 一〇・三三  
村上 藏之丈 六・三〇  
村松 五郎 三・六五  
松坂 由松 一・七五  
高畑 吉次郎 一・四二  
伊藤 吉三郎 一・八六  
谷川 徳治 一・二九  
横町 惣吉 一・二二  
梁瀬 綱藏 一・〇四  
坂本 芳松 一・〇三

名久井村

花澤 和三郎 五二・〇四  
工藤 專吉 二九・〇六  
中村 重藏 二六・三三  
川内 前春松 二〇・八八  
西塚 永八 一八・四四  
名越 忠祥 一四・二六  
工藤 清吉 一四・一三  
工藤 又五郎 一六・〇四  
工藤 徳三郎 一八・〇四  
工藤 茂吉 一三・〇〇

田部村

田中 兵治 五八・六九  
久保 田熊五郎 三二・六二  
岩間 治之三 二八・二五  
間部 與吉 二八・九五  
川井 助三郎 二六・五五  
中里 辨吉 一八・〇一  
田村 太郎右衛門 一四・四二  
佐々木 仁八郎 一七・四一  
田村 衛門次郎 一六・七三  
工藤 徳彌 一六・六六

中澤村

細越 清之助 二九・九六  
古館 萬之助 三〇・五五  
壬生 八十吉 二八・〇〇  
古館 七治 二八・〇〇  
壬生 清吉 二六・五〇  
津村 正文 二六・二一  
岡崎 辰之助 二五・〇一  
市澤 安惠 二〇・二二  
鳥喰 與一 二〇・二二  
壬生 豊吉 一八・二〇

留崎村

山下 萬助 五八・七四  
山下 金藏 二五・四〇  
橋本 幸三 二二・六六  
山田 文治郎 一七・四〇  
梅内 吉之助 一八・八四  
山下 徳太郎 七・二四  
中村 宇吉 八・二四  
田中 八重吉 八・三三  
田中 重吉 四九・九八  
佐々木 源太郎 四〇・〇三

斗川村

村井 太伸 三〇・三三  
田中 實 二六・二四  
佐藤 宇左衛門 二四・八五  
乘上 喜三郎 一五・三九  
水梨 三太郎 二八・八三  
小島 吉太郎 二二・六六  
大村 市太郎 一八・〇一  
足澤 辰之助 一七・四一  
坂本 勘藏 一六・七三  
角澤 丹藏 一六・六六

猿邊村

木林 石松 二〇・三〇  
中澤 鶴 一五・〇五  
前田 太作 二四・七四  
山下 子之松 二五・九九  
藤澤 富太郎 一七・八八  
井畑 喜代 一〇・七四  
米内 口甚作 九・四四  
中澤 源藏 八・六〇  
梶田 初太郎 八・七五  
奥 芳松 八・三二

上郷村

穂積 倉藏 八四・〇〇  
小島 藤藏 七三・八二  
小島 憲吾 七三・六六  
澤口 辰之助 六八・八四  
佐藤 彦吉 六七・八五  
中村 重次郎 五七・七六  
三田 三助 五〇・〇八  
山田 倉松 五〇・〇八  
山美 久助 四三・八八  
佐藤 吉郎 四〇・四〇

向村

留目 喜一郎 一五・九四  
谷内 伊太郎 一四・四一  
留目 福太郎 一〇・八五  
谷内 留吉 九・三六  
村井 權次郎 七・五三  
平野 卜キ 七・五三  
中居 春松 六・五九  
工藤 兼松 五・九一  
村井 源次郎 五・九一  
留目 豊作 四九・五二

平良崎村

馬場 又彦 三三・三三  
中野 徹郎 一六・〇九  
宮野 幸八 一五・八三  
沖野 稻作 一四・七八  
中野 多理 一三・〇二  
工藤 松太郎 九・〇五  
沼畑 歌吉 八・四四  
中野 伊四郎 八・〇九  
松内 助賢 七・九六  
月館 金藏 七・三六

川内村

大山 三太郎 八四・〇〇  
鈴木 源太郎 七三・八二  
佐々木 常三 七三・六六  
中里 兵助 六八・八四  
佐々木 權造 六七・八五  
橋本 右衛門 五七・七六  
若林 兵二郎 五〇・〇八  
佐々木 喜八郎 五〇・〇八  
小保内 耕太郎 四〇・四〇

市川村

鈴木 與兵衛 一五・九四  
野口 幸吉 一四・四一  
鈴木 精一 一〇・八五  
鈴木 市助 九・三六  
濱 榮助 七・五三  
田村 常太郎 六・五九  
久保 正次郎 五・九一  
向谷 地吉 五・九一  
階上 孫藏 五・九一  
谷地 萬治 四九・五二

戸來村

久保 田庄作 三三・三三  
鈴木 多志 一六・〇九  
小坂 甚一郎 一五・八三  
田茂 三郎 一四・七八  
高橋 克衛 一三・〇二  
高橋 喜助 九・〇五  
横田 元松 八・四四  
横田 四郎 八・〇九  
見瀬 益人 七・九六  
山岸 兼松 七・三六

野澤村

太田 長太郎 三九・〇〇  
太田 忠之助 一六・〇〇  
佐藤 晃一 一六・〇〇  
佐藤 久之助 一六・〇〇  
高館 孫太郎 一七・〇〇  
戸賀 孫太郎 一六・〇〇  
川代 勝太郎 一七・〇〇  
川代 菊松 一七・〇〇  
小笠原 佐平二 一七・〇〇  
岡田 宇之馬 一六・〇〇

淺田村

中川 原貞機 五七・五五  
宮 宏 一七・〇三  
角濱 與三郎 一三・二七  
江渡 市太郎 一四・一八  
坂本 萬次郎 一〇・〇七  
角濱 廣治 九・二六  
豐田 浩徳 九・九〇  
中川 原繁雄 八・七三  
角濱 丑松 七・九一  
石田 忠松 五九・〇九

豊崎村

三浦 芳雄 一九・五三  
小泉 惣三郎 一五・八二  
白石 力吉 一五・一三  
赤坂 忠治 七・八四  
田村 次郎 六四・四七  
小泉 幸雄 五〇・四八  
小泉 吉太郎 三九・九元  
永田 由太郎 三〇・八九  
佐々木 榮次郎 三〇・〇四  
小泉 金松 一五・五二

倉石村

小村 善太郎 一〇三・〇〇  
工藤 幸太郎 九三・九二

東津輕郡

窪田 謙吉 二七・九二  
福井 金治 二五・四二  
田中 喜之助 二四・一六  
西田 一三郎 三〇・九三  
伊藤 文一 二七・七六  
島田 泰雄 一三・八五  
西田 金亮 一三・七四  
館田 金鐵 一三・九七  
田中 宇一郎 一三・八八  
佐々木 享太郎 一〇・六五

小湊町

八重 佐一郎 二八・〇八  
畑井 萬造 三三・二一  
楠田 榮吉 一六・一八  
柴田 十郎 一五・三三  
柴田 岩藏 一四・〇五  
木村 喜八 一三・九〇  
福崎 市松 一三・三二  
宮田 久吉 一三・二四  
蛭名 三助 一五・五五  
工藤 源八郎 九・四七

大野村

厚子 量橋 一三・九八  
木村 秀太郎 二七・八七  
高坂 市三郎 一三・八八  
澤谷 静馬 一〇・九八  
工藤 つを 九・九四

荒川村

高坂 久馬一 七六・二六  
風晴 省三 七三・九二  
渡邊 利助 七〇・一九  
木立 勝太郎 六九・七九  
渡邊 嘉市 六五・〇七

高田村

鎌田 彦次郎 一八・〇〇  
長内 榮之進 二二・五五  
新山 秀雄 二二・三〇  
小山 基逸 一三・二二  
奥崎 嘉作 一七・四八  
新山 八太郎 一〇・八五  
相馬 清雄 九・七九  
奥崎 浅吉 九・〇五  
奥崎 作太郎 八・四四  
柴田 重太郎 八・〇五

瀧内村

中村 次五兵衛 二五・三三  
奥崎 菊次郎 一五・五九  
渡邊 金藏 一三・八八  
木村 美根三 一〇・九八  
木村 富彌 八・三二

新坂村

中村 甚作 四三・五五  
川村 常吉 三六・〇九  
竹内 和徳 三三・三三  
吉川 太右衛門 一五・〇四  
佐藤 要吉 一四・九一  
中條 貨俊 一四・三二  
浅利 金五郎 一三・八八  
中村 宮助 一三・五五  
竹内 又七 一三・五五  
增川 喜一郎 一四・七七

奥内村

澤田 子之吉 二六・〇七  
前田 豊 一九・九七  
赤田 豊次郎 一九・九六  
溝江 宗吉 一九・五三  
高森 浅吉 一九・〇一  
金澤 勘兵衛 一八・七九  
澤江 五右衛門 一八・三〇  
市川 謙吉 一八・三〇  
市川 秀一 一八・九五  
大澤 平太郎 一八・四四

後淵村

坂本 吉三郎 八四・八七  
金谷 孫市 九三・五五  
工藤 民治 六九・四四  
森内 丑之助 六八・四四  
村田 禎助 六七・七三

逢田村

木村 喜之 八〇・九四  
工藤 助太郎 七九・七三  
木村 由吉 七六・三二  
工藤 傳吉 七〇・九六  
神田 徳藏 六八・八六

豊田村

柿崎 與次郎 二六・〇七  
木戸 久五郎 一九・九七  
石岡 才次郎 一九・九六  
七尾 豊吉 一九・五三  
山岸 平八郎 一九・〇一  
木戸 己之助 一八・七九  
松尾 三之助 一八・三〇  
鈴木 寅次郎 一八・三〇  
石田 末太郎 一八・九五  
松田 浅吉 一八・四四

平館村

小澤 三太郎 八四・八七  
登坂 金藏 九三・五五  
中島 豊次郎 六九・四四  
前田 清吉 六八・四四  
武田 豊治 六七・七三

財政・租稅——市町村稅戶數割多額納稅者——西津輕郡

**一本木村**  
 堀谷 常雄 四九・〇八  
 堀谷 峰太郎 二〇四・五五  
 田中金兵衛 一六五・九八  
 中田八十八 一六五・九八  
 太田 勇吉 一四九・九二  
 米田 松逸 一四三・六二  
 田中金四郎 一三九・〇一  
 小鹿庄太郎 一四三・三三  
 藤卷 稔吉 一四四・七三  
 中島 榮藏 一四三・五五

**今別村**  
 其田嘉一郎 一六二・〇四  
 中島八五郎 一〇八・五八  
 丸山 幸八 九四・五〇  
 中島 久吉 九四・五〇  
 中島 豐三郎 八七・七八  
 佐藤 勘助 八八・八〇  
 中井 五郎 八三・一三  
 中道 慶吾 七九・五五  
 中島茂右衛門 七四・二〇  
 成田 精次 六〇・三三

**三厩村**  
 東 永次郎 二二八・二四  
 伊藤良之助 二〇〇・四八  
 葛西市太郎 一五五・六六  
 清原 省吾 八四・六三  
 牧野 逸藏 八三・二二

積内村

原別村

**積内村**  
 今 利作 一七六・五二  
 櫻田 東作 一六三・三三  
 今 嘉勝 一三三・一三  
 鳴海 兼藏 一二三・七三  
 木村昇一郎 九七・三三  
 伊香善次郎 九四・四四  
 里村 卯市 九三・二六  
 千葉才太郎 八八・〇三  
 千葉 惣吉 八八・〇一  
 高坂丑太郎 一三三・五八

**原別村**  
 小笠原芳夫 二二三・五九  
 鹿内 英三 一七六・三三  
 鹿内 三洲 一五五・七四  
 小笠原喜三郎 一九九・九二  
 齋藤 勇助 一八七・七四  
 津川 潔 一一一・四八  
 鹿内仁太郎 九八・八七  
 齋藤 金藏 八三・〇七  
 鹿内市三郎 七七・七七  
 齋藤與次郎 七〇・九二

簡井村

東岳村

**簡井村**  
 若松 建作 一三三・九〇  
 竹村 直臣 九八・八五  
 德差繁太郎 六六・六〇  
 佐藤力太郎 九三・三〇  
 佐藤 正一 八七・八五  
 清水 登 八四・八五  
 菱木 重嗣 八三・八〇  
 土田 和吉 一六八・八〇  
 佐藤 重藏 七四・五〇  
 佐々巳之松 七〇・七〇

**東岳村**  
 小笠原吉彌 三三〇・〇三  
 木村貴三郎 一九九・九三  
 佐藤 富吉 一七六・五二  
 今 米作 一三三・〇五  
 太田喜代松 一三三・七〇  
 今 寅太郎 一五五・八八  
 東 米三郎 一〇四・一六  
 佐藤 百瀬 九五・三二  
 今 信一 九四・九二  
 大坂 隆一 九三・九五

野内村

西津輕郡

**野内村**  
 横内 忠作 一六六・三六  
 平田 義造 一四四・二七  
 土屋 八十 七八・七四  
 小川 竹藏 七五・六二  
 澤谷 光一 六七・九〇

**西津輕郡**  
 工藤五郎兵衛 七八六・元  
 内山 慶一 七五八・二二  
 岩谷利三郎 六七九・四〇

大戸瀨村

野内村

柴田村

川除村

館岡村

**大戸瀨村**  
 清野 祐一 二九八・五九  
 成田熊五郎 二八二・一〇  
 野呂米次郎 一九四・四四  
 石田八左衛門 一五五・七一  
 工藤 貞助 一三五・二二  
 小野末九郎 一三三・九〇  
 岩本嘉四郎 一三三・五五  
 八五・八八

**野内村**  
 兼平 運吉 八三三・四二  
 佐藤 周吉 二四八・六四  
 石井健太郎 二七九・九  
 齊藤治郎左衛門 一八二・九四  
 一戸 トシ 一七三・三九  
 瀧澤 健作 一五九・六一  
 齊藤勇太郎 一四〇・六三

**柴田村**  
 石田ミチエ 五二八・六八  
 葛西 兼吉 二五〇・五三  
 三橋富士助 二二二・四三  
 木村啓次郎 一五九・五七  
 三橋 源藏 一五八・四六  
 石田末太郎 一四二・三〇  
 秋田谷三郎 一〇二・九八  
 葛西庄太郎 八九・一五  
 須藤與次郎 八八・〇六  
 杉森秀一郎 八〇・三三

**川除村**  
 葛西小三郎 一八〇・四  
 山内 房 一五九・六  
 小關小十郎 一一一・六七  
 工藤熊五郎 一〇八・八〇  
 澤田忠次郎 一〇六・九二  
 山内 彦忠 六三・九  
 小關 吉彌 六三・三

**館岡村**  
 長谷川一郎 一五〇・七三  
 野呂 忠一 四七九・四一  
 越後谷權八郎 三三〇・〇〇  
 三橋富三郎 一五二・二八  
 成田 三郎 一五二・七五  
 野呂 三郎 一〇三・六三  
 野呂 みつえ 七二・三〇  
 佐藤 公知 七〇・〇〇  
 野呂 友吉 六四・〇一  
 三橋 友吉 六二・二二

岩崎村

鳴瀬村

水元村

出精村

車力村

**岩崎村**  
 大屋重兵衛 一七〇・七五  
 七戸稜七郎 一四六・五六  
 堀内福太郎 一四七・六二  
 七戸 誠吉 一〇二・二六  
 七戸 慶作 七九・七八  
 秋元彌七郎 七二・三〇  
 堀内久三郎 六六・九八  
 堀内 利彌 六三・九三  
 熊谷松太郎 六二・三五  
 齋藤良之助 五八・〇〇

**鳴瀬村**  
 長谷川定市 二四四・四五  
 今 作太郎 二二五・九〇  
 神 甚作 一〇三・八九  
 木村兵次郎 一〇三・三五  
 神子 末作 九八・九二  
 原 鐵太郎 七六・六〇  
 長谷川萬吉 六六・六一  
 今 貞四郎 六一・〇四  
 長谷川兼作 五九・五三  
 今 藤吉 五九・三八

**水元村**  
 長内 忠次 二二九・七四  
 川村 亨 二二七・九二  
 中野 左衛門 一六七・四九  
 齋藤 太郎 一五五・一五  
 瓜田 次郎 一四三・二二  
 山本 徳壽 一四三・八九  
 山本 石太郎 一四一・四四  
 川村 男治 一三三・〇七  
 石村 萬太郎 一〇九・九七

**出精村**  
 太田 山藏 六三・九八  
 高橋 敏文 三三・〇四  
 片山 惣太郎 二四六・七七  
 宮崎 正尙 一九一・〇六  
 藤本 邦夫 一八八・四五  
 木村 義男 一一一・八七  
 乳井 龍一 九六・八九  
 白 戶 九四・九三  
 須藤 源助 八九・八〇  
 高橋 勝太郎 七〇・四六

**車力村**  
 鳴海周次郎 六三・九八  
 毛内 象吉 三三・〇四  
 成田 敏秋 二四六・七七  
 秋田 友三 一九一・〇六  
 村上 秀吉 一八八・四五  
 成田 長助 一一一・八七  
 松橋 與之吉 九六・八九  
 小 寺 嘉四郎 九四・九三  
 松橋 久吉 八九・八〇  
 寺山 健三 七〇・四六

中村

森田村

柏村

稻垣村

十三村

**中村**  
 一戸宇三郎 二、七〇・三〇  
 一戸才門四郎 一、八三・九八  
 田中 勝藏 一、七五・八五

**森田村**  
 原田 藤次郎 五七二・六四  
 原田 女ぼ 二〇五・六八  
 外崎吉右衛門 一九八・二二

**柏村**  
 山内 佐四郎 二二八・六〇  
 平田 勇次郎 二二八・〇五  
 葛西 小四郎 二二二・三〇

**稻垣村**  
 齋藤 豐吉 一、〇一五・八八  
 瓜田 寶壽 六〇八・八〇  
 山口 小市 一七九・九〇

**十三村**  
 小倉 常吉 一、〇一五・八八  
 加福 善藏 六〇八・八〇  
 加福 善藏 一七九・九〇

財政・租稅——市町村戶數割多額納稅者——西津輕郡

中津輕郡

清水村

小倉恭太郎 四〇三・五三  
梶浦三六 三三三・七〇  
中井正一 一八一・三二  
中井直一 一四七・九二  
宮崎五三郎 一四三・四三  
豐島金之丞 一三〇・〇八  
濱田金次郎 一三五・八三  
一三三・九〇  
一〇五・九〇

磯越村

福士貞造 一八五・四九  
福士文敏 一六〇・一〇  
長尾恒光 一四三・五六  
外崎有定 一五九・三三  
柳田保三 一八・三六  
小枝貞作 一三三・二一  
長尾繁廣 一〇六・〇四  
一〇一・〇〇  
九四・七三

岩木村

佐々木勝太郎 三三六・四〇  
佐藤元吉 二二二・七三  
柴田益太郎 二〇八・〇五  
大高榮太郎 一四一・〇四  
玉田惣作 一五八・九〇  
藤田常正 一三三・五二  
村田長吉 一〇一・〇一  
坂本之丞 一〇七・七〇  
一〇三・〇一

西目屋村

三上治郎 三三九・八九  
竹内久一郎 三三九・八四  
田澤嘉助 三〇八・一九  
福澤萬藏 一八四・七六  
三上知足 一八一・五〇  
繁田岩男 一六一・六四  
吉谷のぶ 一四四・六三  
田澤安太郎 一四〇・四二  
坂本市太郎 一三〇・六三

大浦村

奈良治二 三三九・八九  
木村市太郎 三三九・八四  
中田喜久治 三〇八・一九  
對馬貞次郎 一八四・七六  
森峯五郎 一八一・五〇  
三上留 一六一・六四  
成田猶作 一四四・六三  
奈良定吉 一四〇・四二  
下山有造 一三〇・六三

和徳村

成田勇作 一〇三・七一  
山形豐五郎 一五九・三七  
中村末吉 一三三・三四  
田村金作 一〇三・六二  
成田清太郎 一〇一・〇五  
小山内和吉 七四・八四  
今治三郎 七四・六八  
成田豹一 七三・六二  
石岡惣太郎 七〇・九二  
今龜吉 七〇・九二

千年村

古川靜 三〇四・三八  
佐藤文雄 一五八・〇六  
松木純一郎 一四〇・六一  
藤田精一郎 一三六・〇三  
佐藤源一郎 一三三・四三  
生田彌作 九六・一一  
伊藤與次郎 九五・〇五  
古川一英 八八・四三  
相馬梅吉 八五・五五  
佐藤源助 七八・七〇

相馬村

成田重格 六〇六・四〇  
中澤豐吉 四四四・七二  
田中才太郎 一八三・三三  
大場久吉 一七四・〇六  
藤田惣太郎 一一九・九六  
田澤要助 一一二・二二  
福島己之松 八五・五五  
宮川太郎 八二・四〇  
三上重吉 七五・三四  
中沼清十郎 七二・八〇

藤代村

大瀨意津男 六〇六・四〇  
石戸谷高志 四四四・七二  
石戸谷善藏 三〇三・一六  
三浦貞次郎 二五八・四三  
三浦谷治 二二六・九六  
松岡金一 一八〇・六五  
小山秀壽 一四九・九九  
小山榮吉 一四八・〇八  
小山内才吉 一三八・七一  
小山内源太郎 一七五・五一

船越村

高谷英城 四〇五・八五  
對馬忠郷 四四〇・八二  
五十嵐榮四郎 四一四・九四  
對馬兵太郎 三三九・七七  
對馬助太郎 三三九・七七  
成谷兵太郎 三〇五・六五  
佐々木喜代一 二〇五・六九  
藤苗磯司 一九九・九二  
鳴海幸一 一八八・〇七  
一八六・四

豐田村

須藤時彌 三〇〇・三三  
藤田繁文 二八八・四八  
藤田嘉一郎 一九〇・三六  
鳴海規矩男 一四七・九八  
町田孫作 一三九・六四  
川村正義 二〇〇・九八  
外崎敏行 一九二・〇〇  
福士權四郎 一七九・九八  
町田熊吉 一〇三・九八

駒越村

新谷清之助 五一・一八  
佐藤篤二 三三六・八四  
藤本兼太郎 二四七・八四  
阿部與市 二二六・七〇  
福井要三 二四七・四七  
藤本幸一 二二七・六八  
幸田正實 二二七・二五  
藤本豐作 二〇二・一〇  
樋口岩藏 一八七・四二

東目屋村

赤平源逸 四六二・九三  
岩淵政雄 四一八・八四  
岩淵清江 三三一・〇一  
栗林豐作 二二六・七七  
中畑豐吉 二〇六・七六  
阿部惣助 一六九・九七  
大湯藤作 一六八・七三  
對馬彌次郎 一六四・五二  
後藤善三 一四〇・七  
大川兼吉 一四〇・七

新和村

田中藤三郎 二〇三・七一  
前田忠八郎 六四七・〇三  
田中已彌吉 五六・三  
工藤茂久 四四九・二六  
對馬政治郎 三〇七・三三  
奧田圓吉 二五八・八六  
木村廣之助 二四七・一一  
田中健三郎 一四九・九三  
田中武雄 一四四・四六  
工藤定一 一三三・四一

高杉村

長谷川信太郎 二〇三・七一  
鎌田愛太郎 六四七・〇三  
長谷川宗一 五六・三  
鎌田政隆 四四九・二六  
對馬喜代四郎 三〇七・三三  
對馬清作 二五八・八六  
對馬惣太郎 二四七・一一  
對馬惣太郎 一四九・九三  
對馬兼作 一四四・四六  
長谷川忠次郎 一三三・四一

裾野村

須藤時彌 三〇〇・三三  
藤田繁文 二八八・四八  
藤田嘉一郎 一九〇・三六  
鳴海規矩男 一四七・九八  
町田孫作 一三九・六四  
川村正義 二〇〇・九八  
外崎敏行 一九二・〇〇  
福士權四郎 一七九・九八  
町田熊吉 一〇三・九八

石川町

成田忠正 三〇五・四一  
齋藤米次郎 一九〇・三〇  
工藤吉夫 一八五・一四  
成田敦淳 一六一・九二  
成田元吉 一五〇・三三  
阿保寅吉 一三九・一七  
對馬彌作 一三九・一七  
三浦修 一〇一・七九  
笹田健八 九六・五〇  
工藤喜左衛門 九三・四二

女鹿澤村

倉田源助 三〇五・四一  
奈良岡久吾 一九〇・三〇  
西塚富太郎 一八五・一四  
奈良岡忠司 一六一・九二  
成田德治 一五〇・三三  
奈良岡銀藏 一三九・一七  
奈良岡甚八 一三九・一七  
花田直巳 一〇一・七九  
三上善一 九六・五〇  
深堀藤五郎 九三・四二

大杉村

工藤善吾郎 三〇五・四一  
棟方三之助 一九〇・三〇  
佐藤治五郎 一八五・一四  
西村政明 一六一・九二  
古村政衛 一五〇・三三  
工藤捨三郎 一三九・一七  
丸山宇兵衛 一三九・一七  
工藤省吾 一〇一・七九  
加藤彦左衛門 九六・五〇  
石村善五郎 九三・四二

六郷村

宇野勇作 三〇五・四一  
大平正英 一九〇・三〇  
津川喜三郎 一八五・一四  
宇野海作 一六一・九二  
山口佐太郎 一五〇・三三  
宇野要七 一三九・一七  
木立久三郎 一三九・一七  
村元德次郎 一〇一・七九  
宇野善兵衛 九六・五〇  
高木武雄 九三・四二

南津輕郡

黒石町

鳴海文四郎 三、五〇九・五五  
加藤誠八 一、九四四・〇一  
西谷末吉 一、六六六・五五  
西谷茂太郎 一、三〇〇・三三  
宇野善造 一、二九四・六五  
佐藤清十郎 一、一四三・四一  
盛素七 一、一三九・一四  
岩谷貞助 九四九・六九  
鳴海清四郎 七八二・一六  
木村重助 六二二・七〇

大鰐町

前田藏吉 六五五・九〇  
坂本嘉市 三三九・一六  
松岡銀作 二二八・三四  
工藤加賀助 三三三・二四  
油川和作 一八八・九六  
油川忠男 一八〇・六二  
鎌田健治郎 一一〇・九五  
佐藤廣元 一〇三・八七  
二川原節郎 九三・九

富木館村

横山喜佐久 一、九四八・八八  
石澤定四郎 一、三三三・五〇  
三浦毅 八七・五九  
工藤善作 五九三・三三  
齋藤市太郎 五二六・六六  
三上和一郎 四四四・八八  
藤林多平吉 四〇〇・九八  
淺利清茂 四九八・九五  
工藤智行 三三六・九八

湍岡村

猪股幸三 八九七・六六  
山内傳三郎 六九五・七七  
平野松五郎 五七四・七三  
山田兵治郎 三〇四・八四  
平野彌亮 二八八・八四  
山内三助 三二一・〇三  
永井勘四郎 三〇三・四九  
松井市太郎 一六八・八七  
常田健太郎 一四三・五〇  
一六二・七〇

十二里村

清野千代吉 八九七・六六  
成田一郎 六九五・七七  
佐々木金作 五七四・七三  
三上作之丞 三〇四・八四  
木村顯吉 二八八・八四  
工藤又隆 三二一・〇三  
石井藤太郎 三〇三・四九  
福士壽輔 一六八・八七  
木村常三郎 一四三・五〇  
神集明 一六二・七〇



常盤村

三浦多七郎 羽賀 佐市 三浦 孫吉 高木 幸一 古館 虎雄 今井 七兵衛 久保 岡次郎 成田 忠三郎 三浦 善五郎

光田寺村

中山 園次郎 清藤 修一郎 中山 喜代吉 八木 橋左衛門 中村 政弘 鈴木 久雄 福井 辰藏 金枝 作之丞 福士 市太郎

畑岡村

田中 初太郎 田中 英 葛西 又美 葛西 貞作 葛西 貞八 田中 忠次郎 葛西 金太郎 葛西 勝彌 佐藤 秀聰 三浦 重吉

田舎館村

田澤 吉郎 阿保 助一郎 佐藤 源藏 日村 又藏 工藤 治郎 葛原 運次郎 阿保 勇之進 工藤 友太郎 佐藤 眞平

中郷村

齊藤 勇太郎 鈴木 又三郎 工藤 諒一 佐藤 清吉 永井 十九太郎 大館 民藏 山口 靜慶 石澤 助次郎 齋藤 多七 齋藤 佐之

山形村

佐藤 貞助 木村 長助 乘田 傳之助 熊澤 瞭靜 渡邊 與吉 鎌田 清助 佐藤 秀男 佐藤 太吉 渡邊 繁一郎 工藤 角五郎

猿賀村

清藤 盛治 工藤 半三郎 小田 桐半三郎 今井 仁太郎 宮川 治五左衛門 福士 助五郎 小田 桐爲之助 葛西 常吉 白戸 久兵衛 蒲田 久榮

尾上村

西谷 富士彦 田邊 文四郎 工藤 德太郎 正井 理一郎 太田 貞吉 西谷 嘉一 西谷 理三郎 太田 常吉 西谷 金藏 黒浦 慶三郎

金田村

松田 操 森内 茂三郎 福井 治五兵衛 森内 茂左衛門 工藤 長太郎 佐藤 惣左衛門 葛西 秋雄 木村 喜福 小田 村辰五郎 小野 仁八

淺瀬石村

鳴海 濱代 鳴海 直四郎 内山 忠藏 鳴海 甚五郎 北山 長太郎 佐藤 四郎左衛門 櫻田 佐兵衛 森 貞次郎 村上 三助 北山 武藤

大光寺村

菊池 健雄 相馬 義禮 菊池 次郎 相馬 藤榮 今井 仁右衛門 今井 藤右衛門 菊池 雄作 長内 健榮 菊池 武憲 工藤 惣作

竹館村

相馬 貞一 内山 俊英 外川 清司 原田 兵之助 原田 岩次郎 小野 清勝 三浦 康司 桑田 長作 田中 元太郎 三浦 圓次郎

町居村

水木 孫一郎 奈良 初枝 今井 才太郎 今井 清助 大澤 清衛 今井 忠吉 植行 光太郎 葛西 善吉 岩崎 善吉 今井 末太郎

尾崎村

古川 七兵衛 八木 橋八十八 佐藤 仁左衛門 葛西 六郎 齋藤 頼城 工藤 喜代衛 中嶋 嘉吉 葛西 左衛門 古川 清左衛門 佐藤 龜吉

藏館村

菊池 權三郎 今井 榮三郎 藤田 綱吉 成田 哲郎 藤田 守靜 松岡 竹二郎 水木 藤太郎 成田 嘉七 菊池 權左衛門 榎 準三郎

北津輕郡

五所川原町

柴田 彌作 相馬 八十吉 野呂 金助 佐々木 孝一 北川 平吉 柴田 直吉 櫻庭 新助 葛原 大助 佐々木 太郎 秋元 松太郎

板柳町

安田 才助 菊池 仁康 安田 呂藏 竹浪 繁造 安田 元吉 佐々木 健次郎 坂本 元太郎 永澤 靖弘

観ヶ岡村

柴田 彌作 相馬 八十吉 野呂 金助 佐々木 孝一 北川 平吉 柴田 直吉 櫻庭 新助 葛原 大助 佐々木 太郎 秋元 松太郎

金木町

津島 文治 西澤 長一郎 高橋 彌左衛門 長内 忠助 蝦名 元太郎 高橋 良三郎 伊藤 豊吉 高橋 常作 傍島 正通 三上 正通

小阿彌村

長内 幸夫 三戸 藏吉 田澤 豊之助 小枝 多七 石澤 次郎 佐藤 清智 高谷 丑太郎 成田 光穂 安田 多七 田澤 三郎

梅澤村

鈴木 連治 佐藤 一郎 前田 顯三 松江 清平 齋藤 直衛 成田 峯人 淺利 清次郎 鈴木 末太郎

沿川村

齊藤 彦四郎 工藤 源太郎 立田 長吉 山口 俊作 齊藤 俊治 大谷 賢太郎 齊藤 門太郎 小野 清八 小野 大八 小野 幸藏

六郷村

一戸 銀藏 成田 與正 成田 武治 三上 善策 小田 桐慶男 三上 祐助 佐藤 武五郎 須野 千嘉 相川 頸久

鶴田村

澁谷 文男 工藤 五三郎 三浦 徳一 工藤 徳一 下安 太郎 神 健一 坂本 伴藏 高島 徳太郎

中川村

相馬 爲男 八木 橋助三郎 原 榮太郎 山形 孫兵衛 笠井 定市 笠井 長五郎 吉岡 鶴次郎 新谷 次作 秋田 喜十郎 館山 勇 小笠原 茂右衛門 畠山 源司

三好村

工藤 正雄 澤田 峰太郎 乘田 米次郎 一戸 清英 開米 多作 長尾 左衛門 高橋 顯秀 川浪 與市郎 澤田 八郎 小野 藤太郎

七和村

阿部 誠一郎 阿部 千行 阿部 庸一 三上 理平 阿部 健三郎 阿部 和五郎 阿部 保孝 阿部 祥吾

辰橋村

阿部 敏雄 小笠原 峯藏 土岐 禮太郎 須藤 友五郎 石岡 義雄 石岡 正一 工藤 友衛 片岡 作太郎 土岐 泰太郎 横島 嘉四郎 須藤 博司 土岐 嘉太郎

松島村

木村 雅男 寺田 武一 工藤 作一郎 對馬 稱美 山内 辰五郎 木村 勇吉 對馬 雄三郎 高橋 薫太郎 木村 直吉 新井 佐門

嘉瀬村

山中 利雄 鳴海 林藏 澤田 才八 原田 薫次郎 鳴海 民之助 山中 禮一 福間 要市 平川 豐作

財政・租税——市町村戸數割多額納税者——上北郡

喜夏市村	北川 松 六〇〇〇
伊藤 龜吉 七〇〇〇	宮越萬太郎 九〇〇〇
今孝次郎 四一五〇	鎌田長三郎 七〇〇〇
大橋運次郎 二七〇〇	三浦 長吉 五五〇〇
三上堅太郎 二〇〇〇	白川 三吉 二四〇〇
今慶太郎 一五〇〇	柏谷 秀一 二〇〇〇
今幸七郎 一〇〇〇	三和 竹松 一六〇〇
古川竹次郎 一〇〇〇	奈良 惣吉 一五〇〇
古川 卯之 九〇〇	奈良 喜之助 一三〇〇
中村 團太郎 八五〇	藤田 儀八 九七〇
奈良 勝雄 八五〇	柏谷 豐作 八八〇
井沼 豐助 二八〇	下山 慶助 八八〇
古川 政孝 二〇〇	石岡 又四郎 七三〇
大川 丑之助 九〇〇	石岡 岡條助 二五〇
珍田 左兵衛 九〇〇	齋藤 嘉七 二三〇
今豐三郎 六〇〇	村元 永吉 一八〇
松谷 直彦 四〇〇	竹谷 清之丈 一七〇
伏見 義直 三〇〇	和島 敬治 一七〇
毛内 良太郎 二五〇	葛西 彌治 一五〇
大川 金次郎 二五〇	山田 彌一 一九〇
古川 爲藏 二五〇	佐藤 多市郎 二二〇
内淵村	藤田 嘉七 二六〇
古川 與市 六〇〇	齋藤 定五郎 三三〇
佐々木 兼次郎 二五〇	藤田 ヨキ 一八〇
古川 松太郎 二五〇	磯野 金吾 二五〇
木村 福次郎 一八〇	秋元 周藏 一〇〇
宮越 敬治 一四〇	伊藤 清太郎 八〇
古川 三郎 一三〇	齋藤 良一 七五
小山 内權七 一三〇	佐藤 權太郎 七五
鎌田 金藏 七〇	秋元 武四郎 七五
中里村	石岡 又四郎 七三〇
井沼 豐助 二八〇	石岡 岡條助 二五〇
古川 政孝 二〇〇	齋藤 嘉七 二三〇
大川 丑之助 九〇〇	村元 永吉 一八〇
珍田 左兵衛 九〇〇	竹谷 清之丈 一七〇
今豐三郎 六〇〇	和島 敬治 一七〇
松谷 直彦 四〇〇	葛西 彌治 一五〇
伏見 義直 三〇〇	山田 彌一 一九〇
毛内 良太郎 二五〇	大川 金次郎 二五〇
大川 爲藏 二五〇	古川 爲藏 二五〇
内淵村	古川 與市 六〇〇
佐々木 兼次郎 二五〇	古川 松太郎 二五〇
木村 福次郎 一八〇	宮越 敬治 一四〇
古川 三郎 一三〇	小山 内權七 一三〇
鎌田 金藏 七〇	

財政・租税——市町村戸數割多額納税者——下北郡

附田 俊東 一〇〇〇	田嶋 長助 二六〇
井置 榮一 九六〇	福澤 晋吉 二四〇
花松 福太郎 九六〇	大下内 直志 一〇六〇
漆戸 吉太郎 九六〇	中野 渡鐵太郎 九四〇
岡山 牧夫 一八一〇	小笠原 貞治 六二〇
甲地 德一郎 四四〇	江渡 寛治 三三〇
駒井 長太郎 五八〇	小笠原 松次郎 二七〇
白石 安太郎 三九五	小笠原 寅吉 二七一
沼山 隆治 二五〇	小笠原 末吉 二六六
向井 健治 一五八〇	坂本 孝悦 二五五
濱田 鐵之助 一五一〇	高淵 岩太郎 二四四
乙供 要助 一四二〇	目時 乾三 二二二
沼田 要一郎 一四〇〇	小笠原 圓吉 二〇〇
浅葉 知義 一三五〇	
瀨川 金之丞 七〇〇	藤坂村
新館 宏 二七〇	苦米地 正雄 四六二
高松 三右衛門 一八九〇	伊東 正隆 一一一
姥名 治三郎 一六六	須田 山清高 二二一
工藤 半治 一七〇	竹ヶ原 專太郎 九二一
竹内 多次郎 七〇〇	竹浦 市太郎 八五五
阿部 秀雄 三三〇	苦米地 常助 八三二
和野 寅八 六六〇	佐藤 良春 七五五
竹内 治三郎 六二〇	竹ヶ原 伊七 六六〇
立崎 助定 六六〇	白山 虎藏 六四一
宮本 長松 一〇〇〇	布施 小平治 一七八
田島 稔 一八〇	工藤 良太郎 二六三
石井 春治 一六四	竹内 重雄 六三三
田中 仁助 一六四	高屋 茂八郎 六三三
中野 渡孫兵衛 一六三	木村 喜一 七三六
	力石 末治 三〇三
	田嶋 長助 二六〇
	福澤 晋吉 二四〇
	大下内 直志 一〇六〇
	中野 渡鐵太郎 九四〇
	小笠原 貞治 六二〇
	江渡 寛治 三三〇
	小笠原 松次郎 二七〇
	小笠原 寅吉 二七一
	小笠原 末吉 二六六
	坂本 孝悦 二五五
	高淵 岩太郎 二四四
	目時 乾三 二二二
	小笠原 圓吉 二〇〇
	石川 健 六八四
	石橋 次郎 六二〇
	吉田 稔巳 五七三
	吉田 定吉 五七三
	千浦 廿次郎 五〇六
	工藤 久助 四六〇
	久保 福松 四六〇
	吉田 庭橋 四〇一
	佐藤 象之助 四〇一
	柏崎 市太郎 八四二
	姥名 英一 七〇七
	木村 市郎 六九八
	村越 平太郎 六九八
	目黒 悦子 六九八
	袴田 健三 五〇七
	袴田 安太郎 四四三
	村井 萬吉 四四三
	馬場 四茂 三五〇
	八重恒 太助 三五〇
	廣澤 春彦 三三二
	佐久 乙吉 三二〇
	伊藤 祐紀 二二〇
	小比類 卷要人 二二〇
	林 直枝 一七三
	浪岡 英三 一五〇
	鈴木 元 一四九
	野々宮 龜三 一四〇
	山本 重助 一三三
	濱中 久太郎 九七〇
	氣田 親信 四〇八
	木村 寅之丞 一八六
	高村 太助 一八六
	橋本 九明治 一七〇
	中野 謙誌 一八〇
	川上 正昭 一四〇
	橋本 勝太郎 一三六
	橋本 松太郎 一三六
	高村 常太郎 一三三
	中島 清助 二九〇
	河野 榮藏 九〇〇
	川島 準藏 九〇〇
	小島 末吉 八〇〇
	白濱 政太郎 七九〇
	山木 半治 七九〇
	關 勇造 七九〇
	杉山 彌之助 七九〇
	中村 寅吉 七九〇
	山本 九吉 六四〇
	福田 孫右衛門 三三九
	松本 七藏 三三九
	大山 治三郎 一九〇
	今泉 富吉 一九〇
	岡田 小八郎 一五〇
	菊池 與太郎 一四九
	布施 幾太郎 一四〇
	松山 久太郎 一三三
	千枝 三郎 一三三
	千原 右膳 一三三
	野村 和三郎 一八〇
	辻 廣太 一八〇
	野村 理三郎 一八〇
	佐々木 卜七 一四〇
	井上 肇治 一三六
	祐川 德次郎 一三三
	山内 與三郎 一三三
	本山 直治 一三三
	佐倉 武夫 一一四
	室館 久四郎 二九〇
	宮川 文次郎 九〇〇
	山中 房次郎 九〇〇
	和氣 眞 八〇〇
	二本 柳常吉 七九〇
	坂本 千代松 七九〇
	向井 武三郎 七九〇
	永井 武三郎 七九〇
	野坂 岩三郎 七九〇
	上路 里次郎 六四〇
	三上 安藏 三三九
	工藤 善五郎 三三九
	館村 善五郎 一九〇
	西川 鍊三 一九〇
	杉本 馬吉 五三〇
	松橋 幸一郎 五三〇
	齋下 松次郎 五三〇
	村木 四郎 五三〇
	川口 新八郎 二九〇
	川口 房松 二九〇
	西館 三郎 二九〇
	村井 松三郎 二九〇
	山田 剛 二九〇
	相坂 定馬 二九〇
	風穴 嘉藏 二九〇
	昆久 米太郎 二九〇
	川口 嘉吉 二九〇
	川口 金兵衛 二九〇
	田中 泰藏 二九〇
	川口 泰藏 二九〇
	大關 佐吉 一八〇
	寺島 鶴次郎 一八〇
	柏谷 運次郎 一八〇
	清水 三三郎 一八〇
	杉山 重治 一八〇
	宮守 兼吉 一八〇
	小川 寅之助 一八〇
	川崎 長八 一八〇
	川崎 久治 一八〇
	白濱 源太郎 一八〇
	工藤 德治 一八〇
	附田 友次郎 一八〇
	高松 元治郎 一八〇
	澤田 榮八 一八〇
	木村 吉雄 一八〇
	中島 信 一八〇

經濟

經濟界展望

昭和九年度國庫豫算は二十億四千二百萬圓を前年度比千三百十八萬八千圓の増加となつて居る、赤字公債發行額は前年度比九千二百萬圓減少したと言へ、尙九億一千萬圓の巨額に達し、九年財界は引續きインフレーションの中に終始したのが金融界について見るに、最も目立つた傾向として、低金利の普通化と預金増、貸出減の結果有價証券の投資が旺盛を極めたこと、二點である。即ち大藏省調査によれば、全國銀行の六月末預金勘定は百二十二億五千萬圓で昭和四年末以來の最高記録を示して居る。尙前年同期に比較して六億七千萬圓の増加である、預金の増加に對して、貸出は百一億三千九百萬圓で前年同期に比較すれば四億五千六百萬圓の激減振り、大正七年以來の最低記録である。かく預金増加、貸出減少の結果餘裕資金が激増し、財界の發展が尙新規需要喚起するに至

經濟——經濟界展望

らぬためその餘利資金の大部分は有價証券に投資せられた。即ち昭和九年六月末の全國銀行の有價証券所有高は六十三萬四千九百圓と未曾有の巨額に達し、預金比率約五割二分に當つて居り、有價証券の投資が如何に熾烈であつたかを雄辯に物語つて居る。年々巨額に發行する政府の赤字公債が順調に消化されたのも、かゝる原因に基づくのである。かゝる緩慢状態は必然的に預金利率の引下げを誘致し、昭和八年六月廿七日東西協定銀行は預金利率を甲種三分七厘乙種四分二厘に引下げ、七月一日から實施したが、乙種銀行は九月六月廿二日實行利率引下げの形式を以て定期年四分特別當座日歩七厘に引下げを行つた。而もこの傾向は全國的に普通化し、地方銀行の利下げが相次いで行はれた。下半期に及んで前述の傾向が漸次鈍化し、九年度下期末から十年三月にかけて短期資金は引張り、預金増加の頭打ち、低金利の一

底入れ等の議論が擡頭したが、四月底には金融界の大勢は再び緩漫の常道に返つた。三月末全國銀行勘定を見れば、次の通りで前年同期比預金は五億六百萬圓増加、貸出は二億二千二百萬圓減少、有價証券は六億二千七百萬圓の増加となつて居る。(單位百萬圓△印減)

項目	十年三月	前年同期比
預金	11,566	5,066
貸出	10,101	△3,333
有價証券	6,821	6,777

膨大なる財政豫算は、内國重要工業を萬遍なく潤はし、殊に軍需工業は八年に引續き活況を續けた。三菱經濟研究所調査の本邦重要工業生産指數を見るに、九年平均總指數は一五三・九で八年平均に比較して一七・九の増加を示し、生産額の著増を物語つて居る。銑鐵、鋼材の増加率は特に目立ち、八年平均比銑鐵は八〇・三、鋼材は四七の激増を示して居る。

三菱經濟研究所調 (一九三五)

項目	九年平均	八年平均
本邦重要工業生産指數	153.9	136.0
總指數	137.2	133.5
糸	128.6	129.3
布	137.2	133.5

生糸、絹織物、石炭、銅、洋紙、洋灰、粉、晒、鋼材、鐵材、國內工業の發展と共に外國貿易不況當時苦節を重ね技術の進歩生産費の切下げに苦心した結果、低爲替の波に乗つて、漸く激化し、始めた世界各國の鎖國主義的防遏關稅障壁を乗り越えて世界各國に進出した。(單位千圓全國合計)

項目	九年計	八年計
輸出	2,384,080	1,933,069
輸入	2,400,432	2,017,033
輸出超過	4,684,533	916,036

而も注目すべきことは九年の輸出は從來綿糸生糸が主要な地位を占めたに反し、雜品輸出が素晴らしい躍進を示したこと、並に輸出相手國が非常に廣範圍に互つたこと、即ち新市場を獲得したことである。尙財政インフレーションの中にあつても、尙財政インフレーションの狂騰は前年の日銀マーケットオペレーション

財政・租稅——市町村戸數割多額納稅者——下北郡

Table listing names and amounts for various municipalities in the lower Aomori Prefecture, including categories like 大奥村, 佐井村, 風間浦村, 鷗野澤村, and 種目別.

Table listing various types of taxes and fees (種目別) such as 町村稅, 地租附加稅, 特別地租稅, 營業稅, etc., with their respective amounts.

Table listing various types of subsidies and grants (補助金) such as 國庫補助金, 縣補助金, 市補助金, etc., with their respective amounts.

イン並に生産の激増とによりよ  
く制御され健康な推移を辿り藤  
井蔵相在任當時は同オベレーシ  
ヨンの強行によつて物價漸落の  
兆さへ見へたのであつた、日銀  
調査の卸商物價指數を見るに一  
九一三年を基準として九年一月  
は一三九・六、七月の一三八・  
四を底として漸騰し十年一月に  
は五・九高の一四四・三に躍進  
し二月には一四六・四と健實な  
歩みを續けた。

全國的に見て前述の通り九年  
財界は健康な推移を辿つてゐる  
が農村經濟については見るに滿  
並に米價の暴落による打撃のた  
め尙不況の域を脱し得なかつた  
即ち春蒔相場は一貫二圓前後の  
安値に崩落して養蠶地方の疲弊  
は極度に達した。又米穀は昭和  
八年の産額七千八百四十萬石の未  
曾有の豊作である上に朝鮮臺灣  
何れも豊作であつたため米穀は  
米會の過剰となり米價は最低  
公定價格二十三圓三十錢を下廻  
る慘狀であつた。従つて最低價  
格による政府の賣渡申込が殺到  
し、政府の買上額千二十七萬石  
季節調節買上二百萬石、粗貯蔵  
數量内外地合計九百萬石に達し  
貧農の大部分はこの安値で手持  
米を賣放つたのである、然るに  
端境期に於ては政府買上の反動

で飯米の有ガスの現象を展開  
し米價は躍進につぐ奔騰を以て  
し最高價格を上廻るに至つた、  
かくて、安値に米を賣放つた貧  
農は高い米を買はなければなら  
ぬことになつたためこの窮狀は  
極度に達した。殊に九年度の米  
作柄は冷害風水害のため全國的  
の大凶作に襲はれ生産高は五千  
百八十四萬石で前年比一千九百  
萬石の減收である。米價は一石  
當り七圓前後の高値にあるため  
減收による打撃は相當緩和され  
たるも、その米價高の利益は地  
主に厚く、小作人に薄いの手  
持米が重く地主に多い關係上當  
然なことである。その上に農家  
の購買品殊に工業品の昂騰率は  
農産物價よりも高く、殊に肥料  
は近年稀に見る高値を示現した  
ため農村經濟の逼迫は依然深刻  
なるものがあつた。尤も政府は  
農村の救済策として諸種の施設  
を施したため餘程緩和されたこ  
とは否まれない。

縣下經濟界概要

全國的には以上の如く明朗な  
推移を辿つたにも拘らず農漁村  
である青森縣はその影響は極く  
一部に止まり全般的には農産物  
實收高並にその販賣價格に左右

される農村經濟の消長に追隨し  
て終始するの外はなかつた。  
昭和八年度實收高は百四十一萬  
八千石で未曾有の大豊作であつ  
たので農村收入は當然増加する  
ものと思はれたが增收による利  
益は米價の大暴落によつて殺減  
されたのみか端境期には寧ろ農  
村は豊作飢饉の皮肉な窮境に立  
たなければならなかつた。即  
ち、出廻最盛期の八年十二月、九  
年一月頃の米價は平格四等玄米  
素俵一俵八圓を割り鐵道から  
遠隔の地に於ては七圓五十錢で  
も手放さなければならぬ状態  
であつた。従つて最低價格により  
政府賣渡申込は殺到し縣内へ倉  
入した賣渡米が約卅五萬俵縣外  
倉入分十五萬俵合計五十萬俵に  
達したのである。これがため米  
價は最低價格以上止まること  
が出来たがこの大量買上の效果  
は端境期に於て適確に現はれ十  
月頃の米價は躍進に次ぐ狂騰を  
續け、一時は黒石、弘前方面産  
米は一俵十二圓から十二圓五十  
錢迄賣買される有様となつた。  
待望の米價昂騰が示現されたこ  
分の農家は少數の地主を除いて大  
部つて高い米を購しなければな

らぬ状態であるためこの米價の  
躍進は農村を驚す所か反つて、  
窮境を一段と促進し何等の恩惠  
をも與へなかつたのである。  
かく、農作飢饉米價昂騰によ  
る打撃に喘ぐ農村は昭和九年末  
には米穀實收高が冷風水害の影  
響を受けて稀有の凶作に見舞は  
れ農村の疲弊は最大限迄、押し  
すめられた、大凶作の宣傳は著  
しく不利に導かれ、中小商工業  
者はその仕入に當り、多大な不  
利益を蒙り甚だしきに至つては  
賣渡代金の決済をすら迫らるる  
の状態であつた、以上農村の悲  
觀的觀察を行つたが、この反面  
には幾多の好材料があることを  
見逃がすことは出来ない先づ九  
年産米實收高五十九萬八千石は  
縣當局が發表に當り、救済事業  
諸施設の關係上相當手加減を加  
へ過少に見積つた様に見受けら  
れたので本誌が單獨に各町村に  
照會調査した所によれば八十一  
萬四千三百九十一石となり縣發  
表實收高に比較すれば二十一萬  
五千九百七十八石の誤差が生れ  
ることになる、本誌調査の實收  
高を平年作に比較すれば三十萬  
一千九百四十九石の減收に止ま  
つて居る。従つて一石廿五圓に  
換算すれば七百五十四萬八千七

百二十五圓の損害となる。

前五年實收平均 一、二六、三四〇石  
八年實收高 一、四九、三〇〇石  
縣調査九年實收高 五九、四三三石  
本社調査實收高 八四、三九二石  
只下級田を多く有する南郡方面  
だけは、その作柄が非常に悪か  
つたことは事實で、従つて打撃  
も深刻であつた様に思はれる、又  
畑作物の主たる大豆、馬鈴薯、  
麥、蕎麥、種類の作柄も縣發表に  
依れば平年に比し夥しく減收と  
なり縣當局では減收數量の換算  
金額は三百九萬八千圓となつて  
居る、實際の數字は突き止め難  
いが恐らく米作と同様の見解を  
下し得るのではないかと思はれ  
る。

更に米穀と共に農産物の主要  
な地位を占むる林檎の實收高は  
六百八十九萬六千五百五十六箱  
で平年作に倍加して居る上に賣  
渡價格は增收にも拘らず比較的  
終始好調を持続したため收益増  
加額は素晴らしいものがある。  
前三年平均實收高 三、四二、二〇〇箱  
前三年平均實收高 六、八六、五五箱  
既往三年元卸平均値は一圓二十  
錢であるが今年は一圓十錢を保  
つて居るので增收益は  
前三年平均實收額 四、〇三、三三圓  
今年實收額 七、五六、二二

經濟——縣下金融界

三百四十九萬二千八百七十九圓  
の增收となる以上大略農産物の  
實收入増減を見るに次の如く  
米作減收金額 七、五八、七五圓  
畑作物減收金額 三、〇三、〇〇〇圓  
林檎増益 三、四三、八七圓  
差引收入減 七、二五、八八圓  
差引七百五十五萬三千八百四十六  
圓の減收となる。  
然し縣當局はあらゆる方法に  
よつて凶作宣傳に奔走したため  
救済事業費義捐金の寄附額多額  
に達し、更に政府交付米等の應  
急配付される等その金額は莫大  
なるものがあり結局損失實際額  
は二三百萬圓の程度にすぎない  
のである。更に縣經濟界を明朗  
化するものとして縣電燈會社  
の買収である、即ち九年四月第  
一次買収代金千七百五十八萬圓  
流入したことによつて電燈株式  
は盡く資金化され、更に十年四  
月第二次買収代金百八十三萬圓  
の流入を見たことによつて縣下  
の資金は相當豊富となり、他面  
償還益も相當の額に達する等財  
界に活力を注入する所甚大なる  
ものがあつた。  
事業界活況についてはさして  
見るべきものがないが木材界は  
函館大火關西風水害等によつて  
需要急増し、八年に引續き不景  
氣知らずの状況であつた。

縣下金融界

米穀大豊作の明朗な序幕に明  
け大凶作の苦惱に幕を閉ぢた昭  
和九年は凡ての方面に互つて多  
事な一年であつたがこの間に於  
て縣下金融界も一般財界と歩調

を共にし明暗兩様の序幕と閉幕  
との明け暮れた。即ち縣電資金  
本格的に立直り金融界は緩慢狀  
態となつたが下半年以後には新  
規資金の需要起らぬため反つて  
資金の運用難に悩まされ業績低  
下防止に懸命とならざるを得な  
かつた。  
先づ貸出について見るに九年  
四月縣電第一次買収資金千七百  
五十八萬圓の巨資が流入したた  
め、青電、弘電、八電株式擔保  
貸出が返済されると共に不動産  
擔保貸出の返済も促進されたの  
である。日銀秋田支店調査青森  
縣普通銀行割引、貸付金額を擔  
保別に見るに次の通りである。  
(單位千圓△印減少)  
九年末 前年比  
有價證券 三、九三三 △ 二、九六六  
不動產 一、七九六 △ 八三三  
商 品 一、三三四 △ 二  
保證及信用 八、二四四 △ 一、〇五三  
預金證書 一、〇一一 △ 三三九  
其他 八八 △ 一〇三  
合計 三、三三八 △ 四、六三三  
即ち九年末貸付額計三千二百三  
十二萬八千圓で前年末比四百六  
十二萬二千圓の減少で特に目立  
つた減少振りを示して居るのは  
有價證券擔保の二百九十六萬六  
千圓の減であるが、これは電燈

株式擔保貸出が返済されたため... 縣下金融界の現状を詳しく説明する文章。資金の流動性、貸出の状況、返済の進捗などについて述べられている。

弘前銀行は六月末新株拂込... 弘前銀行の業績と株主への対応について説明する文章。株主への還元策や銀行の経営方針が述べられている。

居る弘前手形交換日数二百九十... 手形交換の状況と金融界の安定について説明する文章。手形交換の効率化や金融界の健全化がテーマとなっている。

以上九年縣下金融界はエホク... 縣下金融界の長期的な動向と今後の展望について説明する文章。経済環境の変化に対する金融界の対応が述べられている。

増加は至つて不振であると言は... 縣下金融界の現状を詳しく説明する文章。資金の流動性、貸出の状況、返済の進捗などについて述べられている。

Table with columns for years (七年度 to 九年度) and financial metrics (貯金, 貸付, 貸付, 貸付). It shows trends in savings and lending over a three-year period.

青森手形交換所は大正十二年... 青森手形交換所の設立と活動について説明する文章。地域の金融流通を促進する役割が述べられている。

Table with columns for years (七年度 to 九年度) and financial metrics (貯金, 貸付, 貸付, 貸付). It shows trends in savings and lending over a three-year period.

大正五年以降縣下本店銀行下半期貸借対照表

Large table showing balance sheet data for various banks (大正, 昭元, 昭五) across different years. Columns include assets (資本金, 預金) and liabilities (負債, 貸付).

青森手形交換高累年表

Table showing the cumulative exchange volume of Aomori hand bills from 1923 to 1930. Columns include exchange date, number of bills, and exchange amount.

昭元 昭五 昭六 昭七 昭八 昭九 昭十 昭十一 昭十二 昭十三 昭十四 昭十五 昭十六 昭十七 昭十八 昭十九 昭二十

經濟——大正五年以降縣下本店銀行下半年貸借對照表

Table of bank loan and borrowing statistics for the latter half of the year 25th year of the Taisho era, categorized by month and quarter.

青森手形交換所不渡手形暴年表 (單位圓)

Table showing the annual statistics of non-transferable promissory notes at the Aomori Handshape Exchange.

弘前手形交換所
弘前手形交換所は昭和四年六月の銀行茶話會で開設の議が出...

弘前手形交換所不渡手形
小切手 約束手形 爲替手形

Table of exchange statistics for the Aomori Handshape Exchange, including dates, quantities, and amounts.

Table of exchange statistics for the Aomori Handshape Exchange, including dates, quantities, and amounts.

縣外銀行支店 勸業銀行青森支店 青森農工銀行

勸業銀行青森支店
青森農工銀行
月末には千八百四十八萬一千圓...

經濟——縣下郵便貯金——縣下無盡業

銀行に貸出した不動産資金は殆んど返済となる一方、一般の貸出も減少した、同行では貸出の積極的振興策として八戸市に毎月十日定時出張相談所を開設するの外、各所に臨時出張所を設けるため中間据置償還年限の延長に應ずると共に凶作地特別貸付利率を適用し田畑擔保貸付利率は六分五厘から六分五厘引下げ、以て低利な資金の融通に努力して居る戸田組請負の下に、十二萬圓餘を投じたモダンホテルツサンズ(近世復興式)式建築新行舎は一年二月の月日を要し四月二十六日竣工落成し五月廿日から新行舎に於て事務開始した。

縣下郵便貯金

青森縣下に於ける昭和十年三月末現在の郵便貯金は人員三十八萬四千二百八十八人、貯金額二千四百八十八萬六千三百七十七圓、一人當貯金額六十四圓五十六錢、昭和元年に比較すれば貯金額に於て一千九百八十一萬三千六百八十八圓、一人當り四十四圓四十四錢の激増で僅か十ヶ月の増加を月に於て二千萬圓近くの増加を示し實に素晴らしいものがある、之が原因は昭和六年末の縣下金融界動搖によつて銀行への預金を引出し郵便貯金に振替へたものと新規の預入れは殆んど郵貯に値するものは一人當り貯金額の多い事である、昭和十年三月末現在の仙臺貯金支局管内の分を掲記すると

Table with columns for location (宮城, 岩手, 山形, 平均), person count (一人當), and amount (圓). Includes data for various branches like 青森, 弘前, 津輕, etc.

縣下無盡業

本縣には五社の無盡業社の設立となつてゐるが、東奥、盛融の兩社は數年來より休業、現在は左記の青森、弘前、津輕の三社が營業してゐる、二社の休業に依つて無盡業社の信用が著しく低下し殊に昭和六年下半年に於ける縣下金融界パニック以來無盡業契約者は非常に減少し一方貸付金の不回収となつて、社中には給付金の支拂にも窮してゐるが、しかし最近に至り漸次内容も改善されて業績も向上しつつある。

Table with columns for company name (青森無盡, 弘前無盡, 津輕無盡), year (昭和五年, 六年, 七年, 八年, 九年), and amount (圓).

縣下質屋業

本縣に於ける質屋業は公益質屋十二を加へて八十二店(昭和八年末現在)であるが八年中の実績を見れば左の通りである。

Table with columns for category (綠越, 貸出, 受戻, 流高, 年末現在) and amount (圓).

青森縣の富力

昭和九年十二月刊行の内閣統計局調査に依る昭和五年國富報告書より見ると日本の物的財貨の總価格は一千九百九十九億九千六百四十一萬二千圓で、内地對外國間の債權債務差額は一億九千五百九十九萬二千圓の債權超過となつてゐる、この兩者を合した國富は一千八百八十八萬四千圓となつてゐるが、この内東北六縣の富力は九十一億二千四百

Table with columns for location (青森, 岩手, 宮城, 秋田, 山形, 福島) and amount (圓).

Table with columns for category (貯蓄, 事業未収入, 預金, 現預金, 社内貸付, 株主勘定, 株主勘定, 株主勘定) and amount (圓).

縣下會社數

Large table with columns for year (大正元年, 昭和元年, 昭和六年, 昭和七年, 昭和八年, 昭和九年) and various categories (合名, 合資, 株式, 合計) and amounts.

縣下五十萬圓以上會社貸借對照表及株主名簿

Table with columns for category (貸借對照表, 株主名簿) and amount (圓).

經濟——縣下五十萬圓以上會社貸借對照表

Table with multiple columns for financial data, including '七戸水電株式會社' and '西海電氣株式會社'. It lists assets, liabilities, and shareholder names like '白濱政太郎' and '盛田喜平治'.

(昭和九年十二月末現在)

Main financial table for '青森製氷株式會社' and '青森臨港倉庫株式會社'. It details assets (e.g., '土地', '建物'), liabilities (e.g., '借入金'), and shareholder information.

經濟——縣下五十萬圓以上會社貸借對照表



經濟——縣下五十萬圓以上會社貸借對照表

Table with multiple columns for financial data, including '資本金', '負債', and '貸借對照表' for various companies like '青森信託株式會社' and '東北商船株式會社'.

經濟——縣下五十萬圓以上會社貸借對照表

Table with multiple columns for financial data, including '資本金', '負債', and '貸借對照表' for various companies like '大瀨興業株式會社' and '大瀨木材株式會社'.

經濟——縣下五十萬圓以上會社貸借對照表

Table with multiple columns for financial data, including '資本金', '負債', and '貸借對照表' for various companies like '大瀨木材株式會社' and '大瀨興業株式會社'.

經濟——縣下五十萬圓以上會社貸借對照表

Table with multiple columns for financial data, including '資本金', '負債', and '貸借對照表' for various companies like '大瀨興業株式會社' and '大瀨木材株式會社'.

經濟——縣下五十萬圓以上會社貸借對照表

Table with columns for company names (e.g., 大家七兵衛, 川崎甲子男), financial categories (e.g., 貸借對照表, 貸借對照表), and numerical values. Includes sub-headers for '弘南鐵道株式會社' and '津輕鐵道株式會社'.

Table with columns for names (e.g., 栗林三郎, 小芳賀), financial categories, and numerical values. This appears to be a continuation or a separate list of names and amounts.

五戸電氣鐵道株式會社

Table with columns for financial categories (e.g., 未拂込資本, 預收金) and numerical values for 五戸電氣鐵道株式會社.

支拂手形

Table with columns for names (e.g., 三浦善藏, 高橋庄七) and numerical values, likely representing payments or receivables.

(昭和九年十二月三十一日現在)

Table with columns for financial categories (e.g., 五所川原金木間, 津輕鐵道株式會社) and numerical values, dated December 31, 1934.

株數

Table with columns for names (e.g., 津島文治, 古川政孝) and numerical values, likely representing share counts.

經濟——縣下五十萬圓以上會社貸借對照表

Main table on the left page with columns for various financial categories (e.g., 借入金, 貸借對照表) and numerical values, including sub-headers for '津輕鐵道株式會社' and '五戸電氣鐵道株式會社'.

經濟——縣下五十萬圓以上會社貸借對照表

Table with multiple columns for financial data, including '貸借對照表' (Balance Sheet) and '貸借對照表' (Balance Sheet) for various companies like '大澤冷蔵株式會社' and '株式會社東北タンク商會'. It lists assets, liabilities, and shareholder names with corresponding amounts.

經濟——縣下五十萬圓以上會社貸借對照表

Table with multiple columns for financial data, including '貸借對照表' (Balance Sheet) and '貸借對照表' (Balance Sheet) for various companies like '十和田醬油株式會社' and '福島醸造株式會社'. It lists assets, liabilities, and shareholder names with corresponding amounts.

縣下銀行貸借對照表及株主名簿

Table with columns for bank name (e.g., 東興無盡株式會社), location (所在地), establishment year (設立年), and various financial metrics like assets (資産) and liabilities (負債).

縣下銀行貸借對照表及株主名簿

Table for 青森銀行 (Aomori Bank) with columns for location (所在地), establishment year (設立年), and financial details.

青森市親貝町

Main table for 青森市親貝町 (Aomori City) with columns for asset types (現金預金, 有價証券, etc.), liability types (定期預金, 未拂過利息, etc.), and branch locations (支店).

經濟——縣下銀行貸借對照表及株主名簿

青森商業銀行

Table for 青森商業銀行 (Aomori Commercial Bank) with columns for location (所在地) and establishment year (設立年).

經濟——縣下銀行貸借對照表及株主名簿

Table with columns for '資産(借方)', '負債(貸方)', and '株主名簿'. It lists various financial items and names with corresponding amounts.

經濟——縣下銀行貸借對照表及株主名簿

Table with columns for '株主名簿' and '貸借對照表'. It lists names and amounts, organized into sections for different banks or institutions.



經濟——縣下銀行貸借對照表及株主名簿

Table with multiple columns listing bank branches (e.g., 須々田, 石井, 今野), asset types (e.g., 預金, 有價證券), and shareholder names (e.g., 須々田孫右衛門, 石井宗一). Includes sub-sections for '弘前商業銀行' and '株主名簿'.

Table with multiple columns listing bank branches (e.g., 須々田, 石井, 今野), asset types (e.g., 預金, 有價證券), and shareholder names (e.g., 須々田孫右衛門, 石井宗一). Includes sub-sections for '弘前銀行' and '株主名簿'.

現金預ケ金勘定 二、一七九  
經濟——縣下銀行貸借對照表及株主名簿

一九一

一九〇

經濟——縣下銀行貸借對照表及株主名簿

Table with multiple columns: 津輕銀行 (Bank Name), 所在地 (Location), 支店所在地 (Branch Location), 貸借對照表 (Balance Sheet) including 現金預金 (Cash), 預金 (Savings), 負債 (Liabilities), and 株主名簿 (Shareholder Register) with names and amounts.

經濟——縣下銀行貸借對照表及株式名簿

Table with multiple columns: 宮川光純 (Bank Name), 所在地 (Location), 支店所在地 (Branch Location), 貸借對照表 (Balance Sheet) including 現金預金 (Cash), 預金 (Savings), 負債 (Liabilities), and 株式名簿 (Shareholder Register) with names and amounts.



縣下銀行貸借對照表及株式名簿

Table with columns for '別段預金', '定期預金', '借用金', '他店借入金', '假受勘當', '未拂配當金', '未拂配當引料', '未拂利息其ノ他', '預金利息諸稅', '株主勘當', '資本勘當', '法定準備金', '株主名簿', '合計', '昭和九年十二月末現在'. Includes names like 田尻重藏, 帶川市太郎, 鶴谷清志, etc.

Table with columns for '負債(貸方)', '預金勘當', '當座預金', '特別當座預金', '定期預金', '他店借入金', '未拂配當金', '未拂利息其ノ他', '未拂過引料', '未拂過引諸稅', '預金利息諸稅', '株主勘當', '資本勘當', '法定準備金', '別途準備金', '當期利益金', '株主名簿', '合計', '昭和九年十二月末現在'. Includes names like 山内佐四郎, 永澤友吉, 菊池仁康, etc.

縣下銀行貸借對照表及株式名簿

Table with columns for '負債(貸方)', '預金勘當', '當座預金', '特別當座預金', '定期預金', '借用金', '他店借入金', '假受勘當', '未拂利息其ノ他', '未拂過引料', '未拂過引諸稅', '預金利息諸稅', '株主勘當', '資本勘當', '法定準備金', '別途準備金', '當期利益金', '株主名簿', '合計', '昭和九年十二月末現在'. Includes names like 尾上銀行, 安田宗三郎, 安田啓造, etc.

經濟——縣下銀行貸借對照表及株式名簿

Table with multiple columns listing financial data for various banks and companies. Includes categories like '營業用土地', '建物什器', '所有動產不動產', and '負債(貸方)'. Lists names like 西谷富士, 西谷徳太郎, 西谷文四郎, etc.

Table with multiple columns listing financial data for various banks and companies. Includes categories like '現金預金', '貸借對照表', '株式名簿', and '貸借對照表及株式名簿'. Lists names like 長内忠助, 古川政孝, 古川丑之助, etc.

縣下銀行貸借對照表及株式名簿

Table with multiple columns listing financial data for various banks and companies, including categories like '所有動産不動産', '株主', '貸借對照表', and '株式名簿'. It includes names of individuals and their respective shares or assets.

Table for '青森貯蓄銀行' (Aomori Savings Bank) showing financial details as of December 31, 1929. It lists assets like '現金預金', '銀行預金', and liabilities like '貸付金', '借入金'.

Table for '青森貯蓄銀行' (Aomori Savings Bank) showing financial details as of December 31, 1929. It lists assets like '現金預金', '銀行預金', and liabilities like '貸付金', '借入金'.

縣下銀行貸借對照表及株式名簿

經濟——縣下銀行貸借對照表及株式名簿——資本金五十萬圓未滿株式會社一覽

Table of financial data for companies with capital under 500,000 yen. Columns include company name, address, establishment year, and financial figures such as assets, liabilities, and equity.

資本五十萬圓未滿株式會社一覽

Table listing companies in Aomori Prefecture (青森市) and Aomori City (青森市), including their names, addresses, and financial details.

弘前市

Table listing companies in Hiogo Prefecture (弘前市), including their names, addresses, and financial details.

資本金五十萬圓未滿株式會社一覽

經濟——資本金五十萬圓未滿株式會社一覽

南部 桐工業 窪 昭和一 和井田 喜一郎 五〇〇〇  
東北 新報社 番 昭和一 小山田 義郎 二〇〇〇  
東 南 新 報 社 番 昭和一 小山田 義郎 二〇〇〇

東 郡

上 磯 湯 電 氣 三 既 村 昭 和 二 八 久 野 之 藏 一 五〇〇〇  
上 磯 湯 電 氣 三 既 村 昭 和 二 八 久 野 之 藏 一 五〇〇〇  
上 磯 湯 電 氣 三 既 村 昭 和 二 八 久 野 之 藏 一 五〇〇〇

西 郡

常 盤 興 業 木 造 町 大 十 一 松 川 浪 莊 之 輔 助 三 五〇〇〇  
常 盤 興 業 木 造 町 大 十 一 松 川 浪 莊 之 輔 助 三 五〇〇〇  
常 盤 興 業 木 造 町 大 十 一 松 川 浪 莊 之 輔 助 三 五〇〇〇

中 郡

弘 前 合 同 運 送 和 德 村 昭 和 二 加 藤 幸 助 二 〇〇〇〇〇  
弘 前 合 同 運 送 和 德 村 昭 和 二 加 藤 幸 助 二 〇〇〇〇〇  
弘 前 合 同 運 送 和 德 村 昭 和 二 加 藤 幸 助 二 〇〇〇〇〇

上 北 郡

十 和 田 鐵 道 三 本 木 町 大 三 三 篠 田 龍 吾 夫 四 〇〇〇〇〇  
十 和 田 鐵 道 三 本 木 町 大 三 三 篠 田 龍 吾 夫 四 〇〇〇〇〇  
十 和 田 鐵 道 三 本 木 町 大 三 三 篠 田 龍 吾 夫 四 〇〇〇〇〇

下 北 郡

田 名 部 町 大 七 十 川 島 準 藏 二 六〇〇〇〇  
田 名 部 町 大 七 十 川 島 準 藏 二 六〇〇〇〇  
田 名 部 町 大 七 十 川 島 準 藏 二 六〇〇〇〇

南 郡

弘 前 合 同 自 動 車 和 德 村 昭 和 五 小 山 內 德 進 六 〇〇〇〇  
弘 前 合 同 自 動 車 和 德 村 昭 和 五 小 山 內 德 進 六 〇〇〇〇  
弘 前 合 同 自 動 車 和 德 村 昭 和 五 小 山 內 德 進 六 〇〇〇〇

北 郡

津 輕 木 酒 造 五 所 川 原 町 大 十 一 平 山 爲 之 助 四 〇〇〇〇〇  
津 輕 木 酒 造 五 所 川 原 町 大 十 一 平 山 爲 之 助 四 〇〇〇〇〇  
津 輕 木 酒 造 五 所 川 原 町 大 十 一 平 山 爲 之 助 四 〇〇〇〇〇

三 戸 郡

大 奧 大 下 大 川 內 林 運 送 店 田 名 部 町 昭 和 二 二 佐 々 木 盤 夫 五 〇〇〇〇〇  
大 奧 大 下 大 川 內 林 運 送 店 田 名 部 町 昭 和 二 二 佐 々 木 盤 夫 五 〇〇〇〇〇  
大 奧 大 下 大 川 內 林 運 送 店 田 名 部 町 昭 和 二 二 佐 々 木 盤 夫 五 〇〇〇〇〇

昭和九年本縣五十萬圓未滿銀行會社異動 (株式會社のみ)

Table with columns for company name, location, establishment date, representative, and capital. Includes entries like 青森商會, 青森重油販賣, 青森銀行, etc.

經濟——資本金五十萬圓未滿株式會社一覽——昭和九年本縣五十萬圓未滿銀行會社異動

Table listing various companies and their financial movements in 1932, including names like 衛生, 津輕, 黒石, etc., and their respective amounts.

昭和七年以降五十萬圓以上會社異動

減資及び解散會社

Text describing the financial status and dissolution of companies, mentioning capital reduction and liquidation.

本縣簡易生命保險

電氣事業

本縣郵便年金

Table containing financial data for the county's life insurance, electricity industry, and postal pension fund, including income, expenses, and assets.

電氣局一ケ年業績

Text detailing the performance of the electric utility bureau over a year, covering revenue, expenses, and operational statistics.

Table showing financial metrics for the electric utility bureau, such as electricity sales, fuel costs, and interest expenses.

青森縣電氣事業概要

Summary table of the electricity industry in Aomori Prefecture, including sections for business operators, power supply, and other relevant statistics.

經濟——電氣事業——青森縣電氣事業概要

△上半期純益金 三千九百七十圓 配當年四分	△供給區域 赤石、大戸瀨、岩崎中各村、深浦町、舞戸、鳴澤、森田、水元村	△電燈 取付燈數一一、九八五燈、需要家數六七五三	△電力 取付臺數二七臺、八七、一馬力、電熱裝置一戶、六、七馬力	△上半期純益金 千四百五十七圓、無配當	△大湊水電株式會社 △供給區域 青森縣及大湊冷蔵會社、大畑町、關根橋自家用電氣組合に電力を供給して居るのみである	△電力 晝間二五三キロワット 夜間四〇三キロワット	△純利益 九年上半年一萬六千六百六十七圓、配當年五分、下半年一萬四千四百圓、配當年五分	△分、尙現在發電所出力に不足を生ずる時は將來に於て正津川に一地點、大畑川に三地點に發電所を建設する豫定である	△上磯電氣株式會社 △供給區域 今別、三厩、一本木各村	△電燈 需要家數約一千三百戶	△九年度(九年三月—十年二月)			
△西海電氣株式會社	△同 七戸營業所 (舊七戸水電)	△同 七戸營業所 (舊奧入瀨電氣)	△同 七戸營業所 (舊川内電氣)	△同 田名部營業所 (舊大湊電燈)	△同 田名部營業所 (舊大湊電燈)	△同 西海電氣	△同 大湊水電	△同 上北電氣	△同 上磯電氣	△同 大湊水電	△同 西海電氣	△同 大湊水電	△同 上北電氣	△同 上磯電氣
大正元年	大正二年	大正九年	大正六年	大正二年	大正二年	大正八年	大正二年	大正九年	大正三年	大正二年	大正八年	大正二年	大正九年	大正三年
同 二年	同 二年	同 二年	同 八年	同 五年	同 五年	同 八年	同 五年	同 三年	同 十四年	同 五年	同 八年	同 五年	同 三年	同 十四年
七戸水電	田茂川	陸奥電力	安部城嶺山	田中鑛業	大湊水電	大湊水電	大湊水電	大湊水電	大湊水電	大湊水電	大湊水電	大湊水電	大湊水電	大湊水電
二〇三	二〇七	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二
七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓
七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓
常時	常時	常時	常時	常時	常時	常時	常時	常時	常時	常時	常時	常時	常時	常時

純損金五千八百五圓で前期末迄の繰越損金は二萬八千六百二十二圓あつた。  
備考 被買収會社たる川内電氣大湊電燈、奧入瀨電氣、七戸水電の四社は九年四月一日から縣電氣局として業務を開始したので除く。

馬淵川電氣	大湊	陸奥電力	陸奥電力
三、八四三	一、五〇	一、五〇	一、五〇
三、三三四	一、七八五	一、七八五	一、七八五
夜間 四三〇	夜間 四三〇	夜間 四三〇	夜間 四三〇
常時 四四九	常時 四四九	常時 四四九	常時 四四九

縣營電氣供給料金表

△屋内燈		△一キロワット時ニ付		△晝間一ヶ月一馬力ニ付		△一キロワット時ニ付	
五 燭光	四錢	百キロワット時迄 一六錢	一馬力以上	六圓一八錢	二千キロワット迄	四錢	二錢五厘
十 燭光	七錢	二百キロワット時迄 一五	四馬力以上	五圓五一錢	三千キロワット迄	三錢	三錢五厘
廿 燭光	九錢	三百キロワット時迄 一四	十馬力以上	五圓二二錢	四千キロワット迄	三錢	三錢五厘
五 燭光	三錢	四百キロワット時迄 一二	十五馬力以上	四圓七五錢	五千キロワット迄	二錢	二錢七厘
十 燭光	七錢	五百キロワット時迄 一七	三十馬力以上	四圓七五錢	六千キロワット迄	二錢	二錢七厘
廿 燭光	九錢	六千キロワット時迄 一四	一馬力以上	三圓三〇錢	七千キロワット迄	三錢	三錢五厘
五 燭光	三錢	七千キロワット時迄 一六	一馬力以上	五圓九九錢	八千キロワット迄	三錢	三錢五厘
十 燭光	七錢	八千キロワット時迄 一五	五馬力以上	五圓五一錢	九千キロワット迄	三錢	三錢五厘
廿 燭光	九錢	九千キロワット時迄 一四	七馬力以上	五圓〇四錢	一萬キロワット迄	二錢	二錢五厘
五 燭光	三錢	超過 二〇	十馬力以上	七圓一三錢	超過 二〇	三錢	三錢五厘
十 燭光	七錢	超過 三〇	十五馬力以上	七圓四〇錢	超過 三〇	三錢	三錢五厘
廿 燭光	九錢	超過 四〇	二十馬力以上	七圓四〇錢	超過 四〇	三錢	三錢五厘
五 燭光	三錢	超過 五〇	三十馬力以上	七圓四〇錢	超過 五〇	三錢	三錢五厘
十 燭光	七錢	超過 六〇	四十馬力以上	七圓四〇錢	超過 六〇	三錢	三錢五厘
廿 燭光	九錢	超過 七〇	五十馬力以上	七圓四〇錢	超過 七〇	三錢	三錢五厘
五 燭光	三錢	超過 八〇	六十馬力以上	七圓四〇錢	超過 八〇	三錢	三錢五厘
十 燭光	七錢	超過 九〇	七十馬力以上	七圓四〇錢	超過 九〇	三錢	三錢五厘
廿 燭光	九錢	超過 一〇〇	八十馬力以上	七圓四〇錢	超過 一〇〇	三錢	三錢五厘

經濟——縣營電氣供給料金表

丙 八戸營業所區域

十六燭光 八  
廿四燭光 一〇

七キロワット時迄  
七キロワット時迄

一八 十馬力 五七圓〇〇錢  
一七 廿馬力 九五圓〇〇錢

(廿馬力以上ハ一馬力ヲ増ス毎ニ五圓ヲ増徴)

丁 三本木、七戸、百區

五燭光 七戸區 五  
十燭光 七戸區 充

四キロワット時迄  
五キロワット時迄

二〇 一馬力以上 七圓一三錢  
一八 十馬力以上 六圓六五錢

一キロワット時迄  
四キロワット時迄  
五キロワット時迄

戊 田名部、大畑、大湊川内各町、東通(白糠ヲ除ク)

五燭光 大湊區 三  
十燭光 大湊區 八

四キロワット時迄  
五キロワット時迄

一七 一馬力 九圓五〇錢  
一六 二馬力 一九圓〇〇錢

△總額  
一七 一馬力 九圓五〇錢

己 田名部營業所區域

廿四燭光 川内區 二四

超五キロワット時迄

一五 五馬力 四二圓七五錢  
一四 十馬力 七六圓〇〇錢

庚 田名部營業所區域

十六燭光 川内區 九

超四キロワット時迄

一九 二十馬力 一三三圓〇〇錢

辛 田名部營業所區域

廿四燭光 川内區 二四

超五キロワット時迄

一七 一馬力 九圓五〇錢

縣下營業倉庫及冷蔵庫

本縣に於ける營業倉庫は青森市の青森臨港倉庫、弘前市の弘前倉庫及び五所川原町の佐々木倉庫の三ヶ所を以て本縣に於ては勿論東北地方倉庫界の雄たる青森臨港倉庫の貨物總延坪数は二千八百四十一坪で、弘前倉庫は六百七十坪、佐々木倉庫は四百六十二坪である。右の内佐々木倉庫は縣販聯との間に契約を結び縣販聯に貸貸してある。右の外八戸港の躍進につれて八戸臨港倉庫建設問題が起り十年二月頃八戸港運輸會社幹部連が之が建設の對策について種々協議の結果八戸港の將來の躍進に對應すべく資本金十萬圓程度で港頭に臨港倉庫を建設する事となつた。

今昭和九年中の青森臨港倉庫に於ける一ヶ年を通じた業績を見るに九月中旬頃には同倉庫は満庫状態となり金額に於ては創業以來の好成績を示した。其後漸次在庫減退を見せ來たが結局一ヶ年を通じて在庫高は五十五萬八千四百四十六個、七百五十五萬八千四百四十六個、六百七十七萬九千六百二十三個、六百七十七萬九千六百二十三個、之を八年中

Table with columns for storage types (e.g., 酒及飲料水, 雜品, 穀類), capacity (e.g., 入庫高, 出庫高), and location (e.g., 青森製氷株式會社冷蔵庫, 大湊冷蔵庫株式會社冷蔵庫).

本縣經濟日誌 九年五月  
▲函館市青森縣村木商共同販賣所閉鎖。共同販賣所加入者は五日午後二時から濱町木村會館に



十一日鷹巢農林學校長植六郎氏を招聘して各種山菜の罐詰製造の講習を同局俱樂部に於て行つた。

▲弘前銀行整理案成立 十一日の大株主懇談會で新株二萬七千七百五十株に對し一株につき二圓五十錢宛合計六萬九千三百七十五圓拂込むこと、拂込期日は六月三十日預金年賦金支拂は六月二十二年二回七分五厘宛支拂ふことに決定した。

▲港灣協會總會 十七日から廣島市に於て開催され、青森市からは北山前市長、藤林青商會頭が出席し、青森港修築年限の五ヶ年短縮と北防波堤の延長問題を提出可決となつた。

▲八戸土地株式會社解散 八戸銀行からの信託が終了となつたので九月四日の株主總會で愈々解散に決定。

▲木炭農事實行組合 青森營林局では木炭農事實行組合の組織を促してゐたが四月二十八日に蟹田營林署管内の現地協議會を開催し、縣局、署及現地關係者が集合し農事實行組合設立について種々協議する所があつた。尙引續き各地で協議を開いてゐる。

六月

▲早生林檢査 本年度産早生林檢査紅魁二十五箱初檢査は九日行はれ札幌へ移出されたが前年比八日早かつた。

▲青森市第一回オール賣出 本社主催第一回青森市内オール賣出しは七月一日から十日間に亘つて行はれた。

▲農林省七月一日在米發表 同在米は十二日三千五百四十七萬五千石と農林省から發表されたが縣在米高は五十二萬一千二百一石であつた。

▲海軍省林檢査 軍需品として青森林檢査加工組合から林檢査を買上げた。

▲八戸陳列窓裝飾競技會 十三日から三日間行はれた。  
▲大東食品會社魚糧工場 十五日試運轉八月始から操業開始。  
▲林檢査商組合不足對策 林檢査箱不足對策協議會を十八日濱町木村會館で開き協議したが結局形勢觀望することに決定した。  
▲林檢査統制會紛擾 青森縣林檢査統制會は其の構成分子たる縣購聯と縣林檢査同業組合との融和をかき新年度事業方針確立につき議論沸騰して一致を見なかつたが田中會長諒解に

▲地方株式暴騰振り。縣電資金の流入によつて縣下銀行株式、事業株式は軒並に昂騰した、青森市浦町丸二株式店が六月一日日銀秋田支店へ報告した相場表により二月十六日現在と比較すれば五十九銀行親四圓五十錢津輕四圓弘商六圓青商三圓青貯五圓五十錢小館木材二圓五十錢高等が特に目につく。

▲青森縣銀行協會第二十八回定時總會 三日八戸尋常小學校講堂で開催。  
▲青森電燈會社清算分配金 青電買收清算第一回分配金四百六十五萬圓は八日午前九時から青電局青森營業所で拂渡された。

▲昭和新生部落建築材供給 昭和新生部落建築材供給會は八日營林局と協議の上可及的安價に供給することに決定した。

▲奧羽糖粉組合聯合總會 九日青森市公會堂で開催されたが、出席當業者は福島縣七名、宮城縣七名、岩手縣六名、山形縣二名、秋田縣十名であつた。

▲八戸水電會社清算分配金 同會社買收清算金二百六十萬圓は十一日午前九時から八戸銀行で行はれた。  
▲縣下鐵道豫定線實地踏査 十ヶ年以内に完成する建設豫定線十北半島田名部大間間津輕半島

力めた結果漸く妥協がつき十九日午後二時から産業會館に於ける總會で理事四名を増員し無事解決を見た。

▲漁業貿易第一船 二十七日日魯漁業所有船棧名丸が東カムサツカから新巻鮭一萬四千函を積んで漁業貿易第一船として入港した。

▲陸奥銀行支店廢止 三十一日午後一時から本社に於て第十二期總會を開催し、青森、弘前、鯉ヶ澤、田名部の各支店を廢止する事に決した。

▲十和田省營バス開通 一日から開通二日三日は休屋世界公園館一聯合協賛祝賀會を開催した五日から開業。

▲八戸港保税倉庫認可 保税倉庫は二日付設置認可となつた。  
▲小麥査定會十日に延期 縣農産物檢査所小麥査定會は一日の豫定の所、天候不順で標準品發芽のため延期され十日に行つた。  
▲蓬來米大量入荷 八月十一日近海郵船長野丸は臺灣米二萬一千二百俵積載入港した。  
▲木材特割運賃責任應數突破 十四日をもつて遂に責任應數たる七千五百應を突破し七千五百七十四應となつた。

青森三既間、五所川原三既間の實地踏査のため鐵道省建設局計畫課員が數名宛十二日兩半島の實地踏査を行つた。

▲青森モリス金融會社營業停止 十九日大藏省から正式に營業停止を命ぜられると共に辨濟方法につき具體案を縣商工課經由大藏省へ提出する様嚴命された。

▲鐵道省並枕木四萬挺ヒバ材協納入。鐵道省では九年度枕木納入として長五萬九千挺並六萬挺の納入をなして居るが今回追加として並枕木約四萬挺購入申込をなして來た。

▲産米檢査等級繰上げ 北海道東北、北陸地方産米檢査部會は六月二十一日から三日間山形市で行はれたが檢査等級を昭和九年度産米から一、二、三、四等及外として標準の程度は現在の一、二、三、四等とし、三、四等を二等に四等を三等に五等を四等とした。

▲九年度麥收穫高豫想 縣統計課發表による九年度麥豫想收穫高は大麥一萬八千十石、裸麥七千石、小麥六萬一千九百二十石合計八萬石と二十三日發表された。  
▲ヒバ製品臺灣輸出 小館木材では臺灣製糖會社へヒバ枕木、同地商人へは同製品杉製品同丸

▲縣下十五銘柄株式値上額 地方株式の騰勢尙熾まず八月十五日九二株式店調査値上り額は二月十五日比百五十萬圓に達した。

▲有價證券投資額激増 日銀秋田支店調査縣内普通銀行資金移動調べによれば一月から七月迄に約三百廿萬圓の買入超過である。

▲預金部資金の貸付簡易化 預金部では昭和九年度の普通事業資金貸付に當り借入手續を簡易化し預金部資金供給稟請書提出を省略することに二十四日決定した。

▲林檢査種初入荷 青森市への初入荷は前年より廿日早く十五日見せたが産地相場は一圓五十錢から一圓六十錢位で前年比十錢高見當であつた。

▲縣工業試驗場の營業研究 縣商工課では工業試驗場と連絡を取り企業調査を進めて居るが工業試驗場から營業企業の有望であるとの報に接し研究費として一萬圓以上の新規豫算を要求に決定した。  
▲營林局ヒバ材公賣 九年度最初のヒバ材公賣は七月二十五日青森營林署入札場で行はれたが資材不足の折柄近年にない盛況で豫定價格よりも三割位高いものさへある位であつた、尙營林

大約三千石二十五日元明丸積移出した。  
▲五十九銀行三分配當復活 三分配當復活は大藏省當局の諒解する所となり二十七日重役會に於て決定。  
▲商工省主催商業組合聯合協議會 二十八日午前九時から縣會議事堂で行はれた。

▲壽屋日本シヤムパン會社買取 日本シヤムパン會社(資本金二千萬圓)は大坂壽屋と合體して新に資本金五萬圓を以て壽シヤムパン製造株式會社を設立した。  
▲縣信聯利下 七月一日から貯金並に貸出利率を引下げた、定期預金は一ヶ年率五分六ヶ月率四分八厘と三厘方の引下げであるが他は預金貸出共一厘下げ。

▲罐詰積取第一船入港 九年度産罐詰第一船として英國船プロスチチウラス號は三日入港した積取荷物は大東食品會社英國向け紅鮭罐詰四千函であつたが八年に比較すれば二十日早かつた。

▲製材の縣營檢査 製材の縣營檢査は業界に多大のショックを與へたが規格統一、正量取引を與へたが規格統一、正量取引はヒバ材協會製材業組合が十年この方銳意努力し來つた所で

局では資材難緩和のため公賣豫定日を繰上げ二十八日にヒバ丸太潤葉樹の公賣を行つた。

九月

▲移出米色繩統一 縣農産物檢査所では監督會議に於て一日から移出米包裝色繩を統一することとし九月一日から實施。

▲縣製材業組合製材檢査實施 二十八日の公賣で組合員が多數に臨時總會を開き九月一日から製材檢査を實施に決し一日から實施。

▲縣下の政府米賣却 農林省仙臺米穀事務所保管米五萬俵拂下げの下見は二十八、九兩日三十日入札一日落札決定その數量は僅かに二十俵。

▲八戸大連定期航路 五日岩手縣松尾鐵山から大連化學工業株式會社に輸出する硫化鐵卅四トンを積載大連汽船がトツプを切つた。  
▲勸銀青森支店八戸定時相談所 毎月十日午前九時から八戸市役所裏木炭同業組合事務所を開設することになつた。  
▲勸銀支店擔保物件範圍擴大 黒石五所川原その他の宅地も擔保に取ることとし更に雜木林に

も貸出すこととなつた。  
 ▲上磯鐵道の經濟調査。十六日鐵道省建設局計畫員三名來青實地調査を行つた。  
 ▲中央金庫木炭資金貸付。縣信聯經由木炭原木購入資金、炭電構築資金木炭販賣假受渡及保管木炭に對する貸付資金を日歩一錢二厘で組合に貸出した。  
 ▲縣産新一等白米御祝儀商内。新潟縣新米の走りが前年より五日遅く七日前より十一日五錢高の石井園で出来たが縣産米は十九日青森市大里商店から函館丸善管谷株式會社に對し新一等白米三俵の御祝儀商内が行はれた値段は一等檢乗値の一石卅六圓替原料米は西郡館岡村小山内惣五郎氏生産品積は北海早稲重量は十六貫八百匁等級は四等檢、一俵十二圓四十錢であつた。  
 ▲埼玉縣物産宣傳會。同會は廿日午前九時から午後三時迄青森驛前産業會館で行はれた。  
 ▲石灰窒素特殊地域撤廢。特殊地域撤廢により青森縣へ石灰窒素は全國各地から自由に賣買出来ることになつた。これにつれて縣肥料商業組合では配給中止することに二十日決定した。  
 ▲京阪地方へ低價木材供給。縣ヒバ材協會では二十五日濱町木材會館に幹事會を開き京阪地方

の風水害に對する供給方針を協議低廉な價格を以て希望に應じ供給することに決定。  
 ▲鋼材木材暴騰。關西風水害のため鋼材への買氣熾烈となり又鋼材も工場崩壊の報に供給不足を懸念され木材鋼材は暴騰した。  
 ▲三油販賣株式會社支店。八戸港を中心として活躍する事となり鮫に支店を開設した。  
 ▲暴風落果林檎。廿一日の暴風によつて落ちた林檎數量は縣農産物検査所が各支所に命じて調査した所卅萬箱と二十五日判明した。  
 ▲基本通數低下を陳情。青森縣林檎統制會では九月二十一日の暴風に依り落果四十九萬三千箱と推算されたので林檎鐵道運賃特別割戻繼續實施方に關し基本通數及び責任應數低下方を提出した。  
 ▲クリンカーの印度直輸出。日本郵船島海丸は九月廿六日クリンカー六千トンを八戸港から積取り印度へ始めて直輸出した。  
 ▲木材特別契約は繼續。青森浦町兩驛發達の鐵道運賃特別契約は二十六日をもつて満期となつたが二十七日より向ふ一ヶ年間更に契約を繼續する事に鐵道公報で發表された。

陸軍糧秣本廠から本縣へ註文。滿洲派遣軍追送食料品として陸軍糧秣本廠から縣廳に對し千梅二萬キロ千うどん六千五百キロの註文が来た。  
 ▲縣米第一回豫想收穫高。廿日現在に於ける豫想收穫高は二十九日縣統計課から六十四萬三千六百二十石と發表された。  
 ▲砂糖運賃引下げ要望。十月一日酒田市に開催された第六回東北商工會議所聯合會に青森商工會所は砂糖運賃の引下げ要望の件を提出した。  
 ▲移出米六十キロ採用。北海道の十月一日から移入米に對して法制的に單位重量六〇キロを採用する事になつたので縣産米もこれに刺戟され重量取引の傾向を濃厚にして来た。  
 ▲落果林檎處分。縣購聯では落果被害甚大なる浪岡統制會支部處屬二十組合と打合せ落果五萬箱を北海へ向けて五日賣却處分した。  
 ▲火工廠即賣會。十日青森、秋田、山形、岩手四縣特産品即賣會は三日王子市で行はれ縣産昆布は好評を博した。  
 ▲八木橋文平氏巴里サロンへ出品。弘前市山道町あけび葛細工

輸出商八木橋文平氏は商工省輸出工藝展覽會に出品したが、九日巴里陳列會出品選定委員會から無鑑査推薦と十九日決定出品中、果物入婦人手提、仕事籠等十六點巴里向け發送される旨商工省貿易局長から通報があつた。  
 ▲移出米検査料撤廢。青森市米商は縣内仕向け米に對する検査撤廢方縣當局に十一日陳情した。  
 ▲青森縣工藝品技藝展覽會。縣工藝品協會主催で九月から三日間弘前公會堂で開催された。  
 ▲日本製網後援で粗製麻生産企畫。油川町長岸井榮知雄氏は津輕地方殊に西郡に一萬五千町歩に互り密生するアイコを原料として久原系日本製網と提携して大規模の粗製麻生産を企畫し、試験的の施設を爲し各方面の注目を惹いた。  
 ▲第三回煙草販賣獎勵表彰式。十五日青森驛前産業會館階上で行はれた。  
 ▲荷物愛護週間。青運事では輸送の繁忙期を目前に控へる時期となつたので十月十五日から二十一日まで荷物愛護週間を催した。  
 ▲奥羽北海道工産物共進會。同會は十三日から十九日迄一週間に亘つて弘前市で開催第一會場時敏小學校第二會場は物産陳列

館で行はれた。  
 ▲勸銀支店の期限延長中間据置因作對策として貸付金の償還期限の延長並に中間据置をなすことに決定。  
 ▲縣信聯の凶作對策。肥料資金償還期限を二ヶ年延長し應急的貯金拂戻又は貸出資金融通することに決定。  
 ▲縣信聯の貸付限度擴大。二十日の役員會に於て縣購聯の信用貸付限度十五萬圓を卅萬圓に各組合の五萬圓を十萬圓に擴大することに決定。  
 ▲林檎列車設定。鐵道で初めて試みられた林檎列車は十月二十一日より實施せられた。  
 ▲縣産林檎の直輸出。青森市木村商店では十月廿七日英國P・O會社のブータン號を利用して香港へ五十箱ペナンへ五十箱シガポールへ三百五十箱直輸出した。  
 ▲縣販聯米穀農工品販賣統制協議會。三十一日産業會館に開催米穀の販賣は全販聯へ二十萬俵小樽出張所へ三十萬俵鐵道購買消費團體十萬俵合計六十萬俵農工品は六十萬圓の目標と決定した。

工産物共進會。同會は縣商工聯合會、八戸市八戸商會、八戸市水産會共同主催の下に二日から十日迄午前九時から會場八戸尋常小學校で行はれた。  
 ▲青森縣清酒品評會。一日から五日間青森市公會堂で行はれた。  
 ▲浦町中央市場開場。浦町中央市場は五日開場、場長は飛内稔副場長三上幸吉、三上萬太郎氏以下組合員卅四名。  
 ▲八戸商工業者宮古方面視察。商權確保並に販路開拓のため七八兩日に亘り同方面視察に赴いた。  
 ▲本縣米第二回豫想收穫高。第二回發表は十二日縣統計課から五十九萬五千三百二十石と發表された。  
 ▲青運事管内貨物發送量新設。青運事では貨車不足を緩和すべく五日から十一日迄貨車使用効率を向上する方法を講じたが十一月上旬の出荷最盛期には貨車要求額は増すばかりで林檎セメントの出貨には當局は全く困惑した、従つて青運事管内貨車収入も新記録を造つた。  
 ▲郵便局の國債證券保管。十五日から逓信省では證券保管事務取扱規則の一部を改正し貯金預け人の所持して居る國債證券

(勸業債券復興貯蓄債券等の社債は取扱はぬ)の保管事務を各郵便局で取扱ふことになつた。  
 ▲青森米穀事務所開設。十一月一日設置七日事務開始縣産米七萬五千俵買替は同事務所の初商内となつたが落札數量は一萬四千四百六俵であつた。  
 ▲青森市製函協會創立。同協會創立總會は十七日午後二時青森市木村會館に於て行はれた。  
 ▲縣信聯漁業組合融資。産業組合定款改正により漁業組合が産業組合員たる事が出来ることになつたので縣信聯では産組經由資金を貸出すことになつた。  
 ▲縣産米政府買替格差。縣産米格差は二等を基準とし三等は十六錢下げ一等十二錢上げに決定尚黒石、弘前米は各十二錢上、上北三戸各郡産米十二錢下げ。  
 ▲苹果販賣統制制。縣産苹果販賣統制に對する縣の方針が販購聯中心に行ふ事となつたので林檎統制會を縣販購聯聯合流に決定した。  
 ▲森永製品東北販賣會社青森支店工場落成式。森永製品東北販賣會社では青森市舊浦町驛跡に數萬圓の經費を以て工場を設立し十一月から操業開始十七日正午から青森公會堂で落成記念式

▲フイシエミール直輸出。廿日罐詰積取のため入港の英國船スダン號を利用して青森市中村千代治商店では一千十六袋ハンブルグ向け直輸出した。  
 ▲第十四回全國酒類品評會。同會は廿一日東京市王子醸造試驗場で行はれた。  
 ▲縣購聯補助金増額。縣購聯では林檎販賣統制補助會一萬五千圓は前年同様交付せらる、櫻二日産業會館に於ける縣購聯役員會で縣當局並に縣會議員へ陳情することに決定。  
 ▲縣實業協會設立。同協會は二十三日産業會館に於て設立總會を開催。  
 ▲船運賃暴騰。年末の繁忙期を控へて船運賃は非常に暴騰し船運賃は十月始から昂騰し始め十一月末には大暴騰となつたが、青森回漕業者としては荷主と運賃高を楯に頑張つて居る船主側の態度に板ばさみとなつて居るがこれが青森北海道間運賃に波及する時は更に苦痛を増す譯で、海運界の好況の反面にはこの苦痛を見逃がすことは出来ない。  
 ▲鶴田村農會、米共同販賣。北郡鶴田村農會主催米品評會は二十四日午前九時から鶴田驛前倉庫で開催。  
 ▲青森ダクシー料金値上げ。青

森市タクシ業者は廿六日正午から柿源に臨時總會を開き十二月一日から四月末迄七十銭に値上げに決定した。

▲移出米検査料値上げ反対。検査料二銭値上げの報に接した青森輸出米穀商組合は緊急大會を開き對策を練り二十一日には青森正米市場に縣下移出米穀商が集合し縣會、知事その他關係方面に反對陳情した。

▲柳町廉賣市場開場。柳町大通り東側国道寄りに二十七軒の大量商店を抱擁する廉賣市場が出現二十六日開場した。

▲ひば村處分協議。二十七日秋田營林局職員數名來縣し青森營林局官並に當業者と營林局に於て秋田ひばの處分について種々協議する所があつた。

▲印刷料の値上げ。青森市印刷業者は金屬並に紙價暴騰したため印刷料二割見當引上げを二十七日協議決定した尤も名刺並に年賀狀は据置。

▲責任應數突破。七月二十七日をもつて第一責任應數たる一萬三千五百應を突破し一萬三千五百四十九應となつた。

▲炭材資金の融通。凶作救済施設として縣では三萬圓炭材資金を融通する豫定であつたが中央市場に於ける木炭の値下り甚だ

しく、それを防止するため貸出を中止に決定した。

▲青運事の年末貨物輸送混亂防止。歳末輸送繁忙期を控へ殊に列車時刻改正の直後でもあり十二月中は特に不定期列車を臨時運行して備へることに決定した。

▲重油タンク設立計畫。三井系三油商會では八戸港に縣埋立地二百坪を買収して一萬トン級の重油タンクを設立すべく三井物産本社から社員を特派し神田八戸市長を介して二十九日縣と交渉を進め注目を集めた。

▲縣工業試験場の銘酒風味會。全國酒類品評會に入賞した優等酒第一位大平山以下卅餘點を購入し廿九日午後一時から同試験場で風味會を開催した。

十二月

▲貨物の受託時間の制限撤廢。十二月一日より實施の列車運轉時刻改正に伴つて從來は貨物受託時間の制限があつたが鮮魚等の輸送に不便があつたものが斷然受託時間の制限を撤廢する事にした。

▲列車時刻改正。十二月一日から旅客並に貨物列車運轉時刻改正されそれに應じて各私設鐵道線の時刻も改正された。

▲青函航送九運航。青函貨車航

送は昨今年末繁忙期に入つて来たのと一般物資の出廻りが多くなつて来たので三日から九運航を開始した。

▲農工品特割運賃繼續。四日付鐵道公報を以て繼續することに決定した。

▲凶作地運賃割引に商工團體も認める。凶作地罹災者用物資輸送鐵道運賃五割引は荷受人が市町村農會產業組合の外商工團體をも認めることに四日付鐵道公報に發表された。

▲九年度農産物標準品決定。産米苹果(國光)雜穀標準品決定會は五日產業會館で行はれた。

▲名古屋市苹果宣傳會。縣當局では縣購聯と提携して名古屋市公會堂で、十九日二日に互り、苹果宣傳會を開催した。

▲經濟更生審議會設置。青森營林局では同局遠藤事務官を中心として十二月農山村經濟更生審議會を農林省の趣旨にもとづいて設置し目下盛に活躍中である。

▲縣肥料商業組合過燐酸統制販賣中止。四日同事務所に理事會を開き過燐酸の販賣統制につき協議したが南部方面の組合員が大半反對であるため結局中止することに決定した。

▲對佛輸出鮭鱒罐詰割當決定。本年度割當額は十二萬八千箱となつた。

なつたが、青森市割當額は五日東奥丸の内日本鮭鱒罐詰業水産組合臨時總會で決定された大體五萬箱内外で二十日英國P・O汽船バードワン號は青森市から二萬箱積載し對佛輸出罐詰の第一船として出帆した。

▲青森縣林業加工株式會社設立。十日弘前市小堀旅館に於て創立總會を開いた。

▲罹災地中小工業復興資金融資決定。政府では米作五分以上の被害を受けた府縣に對し中小商工資金再補償なすことに決定本縣割當額百萬元(政府二割縣二割損失補償)。

▲驛構内物産陳列料撤廢陳情。青森弘前兩商工會議所連名で各驛構内待合室に陳列する地方特産物の陳列料を撤廢せられた旨十三日鐵道大臣、仙臺鐵道局長、運輸事務所長に陳情した。

▲大戸瀬深浦間三驛開業。五所川原線轟木、追良瀬、深浦三驛は十三日より開業した尙十四日深浦小學校で開通祝賀式を開催した。

▲十米穀年度新公定價格決定。十七日午後四時から農相官邸に於て決定。

▲東青米穀商聯合會設定。自治管理案反對運動のため、青森市油川町米穀商は十八日青森正米

針を定め東北案を一括して十四日の日本商工會議所臨時總會に臨むことに決定し弘前商工會議所では販賣權を米穀業者に附與することを條件として賛成することになり同日同會議所に於ける商業部會で決定。

▲砂糖船第一船入港。六日近海郵船馬來丸は臺灣高尾港から大日本製糖七千三百袋、臺灣製糖三千五百袋、明治製糖一千三百七十袋計一萬二千七百七十袋積んで入港。

▲八戸臨港倉庫建設決定。八戸港運輸株式會社では協議の結果資本金十萬圓程度で港頭に鐵筋コンクリート建築物建設に決定した。

▲歳入缺陷補填資金。大藏省預金部では昭和九年の災害市町村に對して歳入缺陷補填資金を申込期間一月三十一日限りをもつて借入申込を受ける事となつたが青森縣下の申込借入額は縣及五十八ヶ市町村で九十四萬四千三百圓であつた。

▲これに對し政府は今別村を除く縣及五十七ヶ市町村に對し九日四十二萬八千二百圓を割當決定した。

▲陸軍糧秣廠へ縣商工課回答。同省から將來在滿部隊への追送用糧食品買上参考のため縣物産

市場に集合し、東青米穀商聯合會を設立。

▲ヒバ村協會引受枕木。今年に入つてから十九日迄の引受枕木は三十一萬八千四百挺に達し業者は木村景氣に惠まれた。

▲陸軍糧秣廠で縣産米一千石買上げ。農村救済の意味で縣販購聯を通じて縣下の産業組合から縣産米一千石買上げた。

▲商權擁護聯盟陣容整ふ。全日本商權擁護聯盟では陣容を立直すべく青森商工會議所へ産業組合の中小商工業者を壓迫する事實を報告せられたい旨書面到着。

▲東青米商聯合會北海道業者に蹴起を促す。二十日役員會を正米市場で開催二十一日北海道全道同業者に管理案實施反對蹴起を促がすべく勸誘文を送付するに決定二十二日送付した。

▲北山前市長滿鮮視察旅行。六日出發二十六日歸青した。

▲本縣郵便貯金九年末在高。人員三十七萬四千九百九十八名、貯金額二千三百九十一萬二千六百七十七圓で金融梗塞直前の六千三百圓の増加であつた。

鐵詰協定に關し輸入税を百二十法とする大統領及同鐵詰協定に關し爲替保證稅廢止令を公布した。

▲本縣米實收高。九年米實收高は十八日縣統計課から五十九萬八千四百三十三石と發表された。

▲林業斂劑賣藥免許。青森市沖館元營林局屬大湯豪氏並東北帝大助手遠藤欣義氏は林業を主成分とする斂劑が二十一日警視廳から斂劑紅玉と言ふ名稱で賣藥免許となつたので、同氏は直ちに販賣準備に取りかゝつたが青森市に工場を設ける見込みである。

▲繭絲聯合會組織。三戸上北兩郡繭絲業者代表聯合協議會を廿三日三戸町旗亭梅月に開催、意見交換の結果全縣内當業者を糾合繭絲聯合會を組織し産繭處理統制法案絕對反對陳情書作成し反對運動に邁進することに決定した。

▲八戸魚市場資金融通。市當局保證で不漁對策資金五萬圓を柔魚釣船に對して融通することに二十四日決定した。

▲青森米穀商業組合認可。二十四日附商工省から認可。二十日商工會議所經費賦課率引上げ。經費賦課率は從來の廿二から廿四に引上げること廿五日會議所議員總會で決議。

二月

▲勸銀凶作地貸付利率五厘引下げ。東北六縣並びに山梨縣、長野縣に於ける田畑、鹽田、擔保貸出、組合、十人連帯自己資金貸出實行利率年六分五厘を五厘引下げて年六分の特別利率を二月一日から適用。

▲縣米穀商聯合會設立。自治管理案反對運動に縣米穀商一一致邁進すべく縣下米商組合代表は二十五日正米市場に集合創立總會を開催。

▲縣產業組合強化に乗出す。産業組合の未設町村の現在数は僅か三十數ヶ町村に過ぎないが縣では縣下全町村に設置を積極的に勵獎することになつた。

▲鮑罐詰初輸出。青森市安方町根市商店では龍飛附近産出の鮑に加工して鮑罐詰を製造しボルネオ方面へ初輸出した。

▲國有林貸付地料金低減。青森營林局では昭和九年の凶作減收率に應じて低減する事にしたが減收率三十%以上の分は貸付料金の總額の多寡に拘らず低減する事にした事を一月三十一日發表した。

▲縣下商工會議所の管理案に對する態度決定。青森商工會議所では東北會議所聯合會で一應方

なつたが、青森市割當額は五日東奥丸の内日本鮭鱒罐詰業水産組合臨時總會で決定された大體五萬箱内外で二十日英國P・O汽船バードワン號は青森市から二萬箱積載し對佛輸出罐詰の第一船として出帆した。

▲青森縣林業加工株式會社設立。十日弘前市小堀旅館に於て創立總會を開いた。

▲罹災地中小工業復興資金融資決定。政府では米作五分以上の被害を受けた府縣に對し中小商工資金再補償なすことに決定本縣割當額百萬元(政府二割縣二割損失補償)。

▲驛構内物産陳列料撤廢陳情。青森弘前兩商工會議所連名で各驛構内待合室に陳列する地方特産物の陳列料を撤廢せられた旨十三日鐵道大臣、仙臺鐵道局長、運輸事務所長に陳情した。

▲大戸瀬深浦間三驛開業。五所川原線轟木、追良瀬、深浦三驛は十三日より開業した尙十四日深浦小學校で開通祝賀式を開催した。

▲十米穀年度新公定價格決定。十七日午後四時から農相官邸に於て決定。

▲東青米穀商聯合會設定。自治管理案反對運動のため、青森市油川町米穀商は十八日青森正米

を縣商工課に照會して居たが商工課では九日回答した。  
 ▲春肥積載第一船入港。鳥谷汽船日本丸は十二日に大連から耐火煉瓦二千五百個、骨粉六百袋、赤小豆二百袋、小豆四百五十袋、脱穀落花生百廿袋、穀付落花生四百袋、白眉大豆千五百二十五袋で骨粉及び混合肥料の輸入はこれが最初である。  
 ▲林輪輸送に木毛使用。粗穀代用として木毛を使用することに成り林輪移出組合弘前支部では木毛二十車買入れ十四日東京、大阪へ試験輸送した。  
 ▲縣實業協會臨時副業品販賣幹事部委員決定。十三日縣農務課内に設置された幹事部は各地作業場の竣工を待ち五千圓の豫算を計上して計畫を進めて居るが十五日會長から委員四十二名任命した。  
 ▲縣米穀商業組合聯合會全國緊急大會開催督促。縣米商聯では十五日正米市場に役員會を開催全國米商第二回大會開催を全米聯宛督促することを決議。  
 ▲若井善藏鐵詰工場設置。青森市安方町若井善藏氏は大倉組の後援を得て青森市に工場設置に内定したと共に太平洋漁業から北海道紋別の鐵詰工場を十二萬圓で買取り六月上旬女工百五十

名男工五十名を傭入れて製造に着手した。  
 ▲林輪輸出。青森市堀内民次郎氏は一函二打入三ポンド罐、二打、價格一打七圓の林輪罐詰一函を見本として三井物産經由十六日P・O汽船バンガロア號にてシンガポール行初輸出した。  
 ▲青森米穀商藤林青商會頭の自治管理案賛成に憤慨。藤林青商會頭が十四日の日商臨時總會に臨席のため上京に先立ち十三日非公式に管理案賛成を表明したのに對して米穀商は極度に憤慨し辭任勧告の形勢にまで至り注目を集めたが十六日會議所に兩者の懇談會を開き漸く諒解するに至つた。  
 ▲第五十九銀行新町出張所開設。青森市新町角の陸奥銀行支店を買収十八日から新町出張所を開設。  
 ▲産業組合自治管理案促進運動。産組中央縣支會では十九日産業組合會館に役員會を開き縣支會の名を以て促進陳情書を貴衆兩院議長縣選出政民代議士宛發送した。  
 ▲林輪輸出組合。同組合設立協議會は二十日度量衡検査所で行はれ出席全員設立に賛成したが區域は縣下とするか全國にする

かには縣商工課の研究に待つこととして散會した商工課では縣下を區域とする意向で、更に協議會を開いて審議研究し決定することになつた。  
 ▲八戸銀行減資。廿三日臨時株主總會を開き資本金二分の一に減資を決議、重役は株式五萬株を最高舊八圓新二圓以内で最低價格から買入れることとした。  
 ▲縣聯標米小賣。一月十七日札幌に於ける北海道米穀商大會で標米の不買同盟が論議されたので縣聯標ではこれが實施の際には道販聯と連絡をとり小賣取行することに決定しその成行は注目を集めた。  
 ▲縣實業協會の明年度事業。同協會では明年度施行事業として東京、大阪、北海道販路開拓見本市開催等の宣傳事業計畫を十日幹事會で決定。  
 ▲横濱復興博本縣出品。三月廿六日から五月廿四日迄五十日間催されたが縣産出品陳列場所は實業協會の希望通り二十小間(一小間は半坪)に決定出品點數は千七百二十九點である。  
 ▲商工資金四割補償に振替。縣では商工資金組合へ貸付する商工資金五十萬圓も復興資金の四割

補償に振替へる旨興銀へ傳へたので該資金も貸出と同時に四割補償することに決定。  
 ▲本縣田畑總價格。勤銀調査九三年三月現在縣内田畑價格は、二億三千五百萬圓である。  
 ▲鐵興工場設置。東京市に本社を置く鐵興社では青森浦町工場設立、三月上旬着工し五月下旬完成五月三十日から操業開始した。  
 ▲北海道樺太青森食料品業者取引懇談會。北海道卸賣市場協會樺太市場協會九名と本縣の食料品市場關係者は商品取引について六月青森商工會議所に於て懇談會を開催種々意見を交換して一時閉會。  
 ▲縣農工品聯合會寄附。縣内農工品の原料不足を緩和するため縣外から五百車購入、百車を寄付、四百車を低廉販賣を計畫し七日縣當局の諒解を求め先づ五十車を無料寄付した。  
 ▲八戸港開港指定促進運動。神田八戸市長は大久保市會副議長金澤、山浦兩縣議等と共に十日上京し議會へ八戸港開港指定實現促進の運動を行つた。  
 ▲米材入津。十二日米國ステーツ汽船ベーターカー一號が一千八百石の米材を積んで來たがこれは青森市小館木村、大湊木村が

引受ける事となつた。  
 ▲赤松青錆防止。青森營森局では青錆病の防止を林業試驗場に依頼中の所、十二日同試驗場北島技師が來縣し試験を行つた。  
 ▲三月一日現在在米發表。内地に於ける在米は四千六百四十八萬七千三十一石、その中縣在米五十三萬八千四百七十四石と十五日最終發表があつた。  
 ▲罹災地商工資金貸付規程承認。資金貸付規定は十四日付商工省で承認二割損失補償する旨縣へ十五日入電あつた。  
 ▲林業商店冷蔵庫建設。安方町大東食品冷蔵庫裏手に百二十坪平家コンクリート建の冷蔵庫を經費八萬圓で建設、八月には竣工の見込である。  
 ▲板籠試驗輸送。十六日青森秋葉原間一車(八トン)行はれ十九日秋葉原驛前市場で結果發表批評會が行はれたが結果林輪箱と大差ないことが判明した。  
 ▲馬鈴薯検査料値上反對。南部馬鈴薯同業組合では検査料五厘値上げし二錢五厘として四月一日から實施することになつたが生産者、移出業者、仲買業者の大半は二十日古間木驛前劇場福丸座で生産者大會を開催し値上反對決議をなし代表者を送つて縣當局に陳情した。

▲縣電第二次買収認可。十九日逓信省から認可決裁を経た旨上京中の二宮業務課長から縣へ入電。  
 ▲第一次縣營電氣買収起債低利債借替。小林知事は現在の四分五厘を四分三厘に借替へるため上京内務、大藏兩省と交渉したが、兩省では頗る好意を示して居るので實現も近いものと見られる。  
 ▲縣商工業聯合協會總會。同總會は三十一日縣度量衡検査所で開催市長村低利資金借入申込額は三月末日現在で件數二十一一件金額百十三萬三千七百圓である。  
 ▲低利資金融通。豫金部では三月三十一日限りをもつて公共團體普通事業低利資金を市町村に對して毎年融通してあるが本年度の縣下の申込は件數二十五件金額百十八萬七千九百圓であつた。

四月

▲第二次縣電營業所。第二次買収により新營業所を七戸、田名部二ヶ所に設け四月一日から營業開始。  
 ▲縣營電氣一周年祝賀式。同祝賀式は四月一日午後一時から縣會議事堂で行はれた。  
 ▲縣の黨無償交付。凶作義捐金で縣外黨二十七萬圓を無償交付することになり郡別消費量を基準として割當額を二日決定した。尚石川、富山兩縣から購入黨は三月末迄十二萬五千圓配給済となつた。  
 ▲中小商工資金貸出。興銀では縣下商工業組合への割當額は十萬一千圓と決定、二日各組合宛直接通知があつた。  
 ▲青豌豆種子無償交付。東洋製罐會社では播種用種子反當り三升の割合で希望者に無償交付し生産した英豌豆を一升十八錢で買上げることとを縣に申込んで來たので縣では之を各郡農會に通知し無償交付を受けた。  
 ▲特種資金借入期限延長金利引下。農村の資金難緩和策としての特種資金の貸出期限二年延長の特種資金の貸出利率は四厘も議會を通過し更に金利は四厘大藏省で七厘下げの五分二厘と決定したので縣信聯ではこれを機會に積極的に貸出を勧奨するべく五月上旬縣下各地に貸出懇談會を開催した。  
 ▲凶作地肥料割當。期限が七月迄延長となり配給追加數量本縣割當額は三萬六千噸の中肥料配給組合へ二萬五千噸産業組合へ千七百五十噸に五日決定し

た。  
 ▲樹實の食料化。青森營森局では樹實を加工して代用食とするため林業試驗場に對し、その研究を依頼してゐた所四月五日同試驗場からとちの實に加工したとち諸越が送られて來た。  
 ▲縣聯林輪取引指定問題。縣聯では東京市に於ける取引指定引會社は從來通り七社と契約する事に決定した。  
 ▲罹災地中小商工復興資金割當決定。縣では同資金の金融機關は十三日勤銀、興銀外九銀行、青森信託合計十二行を指定し割當額を決定した。  
 ▲第二次縣電買収資金。同資金百八十四萬圓の起債は三月十九日許可となり四月十五日簡易保險局引受、同日安田銀行青森支店宛振替送金の通知があつた。  
 ▲苹果試驗場新工場。同試驗場では加工部業務が増加したので三千圓の豫算で新工場を設けることに決定十年中に竣工豫定。  
 ▲青森市火災保險料金低減運動。青森市火災保險料金は火災報知機完備常備消防の完備等により火災が近年著しく減少したので加賀市長、藤林青商會頭、大阪消防組頭が仙臺保險協會へ低減陳情の低減は困難と見られて居る。

# 商工業

## 凶作と商工業の影響

昭和六年の凶作の創痍未だ癒ざる中に引續いて昭和九年には近年稀有の米穀凶作のため農村の疲弊極度に達し、これが救済の叫びは常に縣内に止まらず全國的となり輿論は期せずして東北農村救済の急務を認むるに至つた。従つて政府は之が對策として幾多の施設を爲した。政府の米の交付、救恤品の支給、低利資金の融通、凶作地配給物資運賃の減免等。他方全国的に醸成された同情の結果は幾多の義捐金となつて現はれ、それによつて農村を潤したのであるが此間にあつて中小商工業者は、ひた向きに窮乏の道を歩んで居たことは見逃がすことは出来ない。平年に於ては中小商工業者の救済として、種々對策を考慮されて居り、業者としての苦痛の叫びは百貨店に對する商權擁護運動となり、又は反産運動となり自己の商權擁護のため運動を續け

て居たのである。本縣に於ては百貨店の發達尙幼稚であるため百貨店との對立は未だ注目を集むるに至つては居らないが、産業組合の進出によつて絶えず脅やかされて居たとは等しく認むる所である、即ち縣下中小商工業者として、中小都市住民の購買力の消長に繁榮を左右され、と共に更に多くの關係を農村の購買力を持つて居るものである。購買力減退は直ちに商工業者の經營に響いたことは論を俟たぬ所であらう。次に業者に取つて決定的打撃を與へたことは、政府の前述諸對策の實行の中心を産業組合に置いてなしたため、さらぬだに窮乏せる農村の購買力が産業組合に奪ひ去られるの結果を招致し業者の經營悪化に一段の拍車をかけたのである。他方産業組合は凶作を契機としてその活動が一段と擴大し、その擴充に當つて凶作は大なる役割を果すの結果となつた、翻つ

て都市住民にしても米穀凶作の大々の宣傳を見ては實質的に購買力が減少して居らぬとして、自然買氣萎縮するは人情として當然の事であり、商店が年末年始を指しての賣出しも例年に比較して實に閑散であつたことはこの間の事情が明確に反映されたものと見るべきであらう。最後に局部的ではあるが凶作宣傳の犠牲となつたものに呉服、雜貨、洋品店等、主としてその仕入を縣外殊に東京、大阪等の大都市生産家の供給に待たなければならぬ商店がある。即ち凶作宣傳は農村の救済を主眼として居ただけに農村には相當の役立ちを以て其反面に青森縣の經濟力に對する他府縣の認識が極端に低下した必然の結果として、縣内商店に對する物資供給が警戒されるとなり、品切れを口實として註文に應ぜぬとか註文した丈の品物を満足に送荷せぬとか、又は送荷するとしても割高な値段を以て供給する等甚だしきに至つては口實を設けて懸代金の返済を迫るの事實が散見される等縣内商業者の有形無形に受けた打撃は甚大な見込である。年末の回收に當つては凶作の影響と見るべき同收の不成績は見受けられなかつ

## 營業稅營業收益稅と縣下商工業の消長

たが、舊節季前後に及んで漸く現はれ始めた、商工業者では凶作地に於ける中小商工業者を救済すべく罹災地中小商工業復興資金を政府二割、縣二割合計四割の損失補償の下に五十萬圓の融資をなしたため中小商工業者の資金難が幾分緩和されたが尙前記の損失を補うて餘りありとは思はれない。

千十五人を最高として連年減少し八年度は四千六百人に減少して居る、これは個人營業成績の不振を物語ると共に他個人營業者が苦境打開策として合名合資會社に組織替する傾向があるためである、稅額について見るも四年度の十六萬二千四百圓を峠として七年度には十萬三千六百九十七圓に減少し、八年度には十萬四千二百八十圓と微増して居る。即ち昭和四年以來縣商工業界は不況の一本道を走り、八年に至つて僅かに好轉したことを示して居る、然し九年に至つては營業人員は四千八百四十五人に急増し稅額は十一萬二千五百九十一圓に増加して居るが、これは縣商工業界が軍需インフレの間接的影響により物價が漸騰したため營業状態が幾分乍ら好轉したことを示して居る、即ち縣下商工業界は七年度以降幾分好轉したことを示して居る。

法人組織經營は概して大規模なるを普通とするが縣下の現状としては中小商工業と殆んど選ぶ所ないものが大部分であるため法人營業收益稅の消長も同じく中小商工業業績の歸趨を示す一の指針たるを失はぬ。即ち四年度營業人員三百六十六人から六年度二百八十四人に減少したが七年度から漸増し八年度には四百卅三人に増加した。これは前述の如く個人經營から法人組織に轉向したことに基くもので景氣好轉による會社設立數の増加ではない、稅額から見ても四年度十二萬九千六百三十圓から漸減し七年度には六萬五千五百八十八圓と増加したと言へば七年度は八千四百二十三圓に過ぎず會社の増加に照して業績が非常に低下して居ることを示して居る。

業收益金を果年別に見れば營業人員並に純益金は四年度を最高として漸減して七年度には底をつき八年度から漸増歩調を辿つて居る。

年度	營業人員	純益金額
四年度	366	129,630
五年度	357	114,194
六年度	335	107,174
七年度	485	108,080
八年度	484	114,194
九年度	4,845	112,500

年度	營業人員	稅額
四年度	366	160,204
五年度	357	150,856
六年度	335	133,366
七年度	485	136,697
八年度	484	140,280
九年度	4,845	123,591

年度	營業人員	稅額
四年度	366	1,263
五年度	357	1,037
六年度	335	683
七年度	485	6,433
八年度	484	6,433
九年度	4,845	11,440

年度	營業人員	純益金額	稅額
四年度	366	129,630	160,204
五年度	357	114,194	150,856
六年度	335	107,174	133,366
七年度	485	108,080	136,697
八年度	484	114,194	140,280
九年度	4,845	112,500	123,591

項目	九年度	八年度	七年度
營業人員	4,845	4,844	485
純益金額	112,500	114,194	108,080
稅額	123,591	140,280	136,697

中商工業—營業稅營業收益稅と縣下商工業の消長



方並に同驛より直通列車運行相成度件に關し、鐵道大臣仙臺鐵道局長宛請願書を提出せり。△九年七月三十一日、地方文化と産業開發の爲め曩に陳情せし弘前驛を中心として、ガソリンカー運轉方を鐵道大臣、仙臺鐵道局長宛重ねて陳情せり。△九年九月十二日、縣立工業學校へ新に電氣科設置方に關し、縣知事宛請願書を提出せり。△十年二月一日、弘前驛貨物專用道路鋪裝に關し關係官廳に陳情書を提出せり。△十年二月二十日、國立公園に十和田湖を指定上、設備並に道路完成の目的を以て津輕商工聯合會及び關係町村長と提携の上縣知事宛請願書を提出せり。△十年三月三十一日、同日午後二時四十分御來弘中の李王殿下には地方産業御獎勵の御恩召を以て當物産陳列館へ御成り特産品を御覽覽特に御獎勵の御言葉を賜りたり。

△職員 理事成田弘、書記田村新、竹内宗、對馬寛、佐藤齊一、土田與惣市、松宮重輔、能登谷寅五郎、成田豊助、川村東一郎、竹内榮七、山形良太郎、石岡定次郎、木村榮吉、大塚多三郎、福士忠吉、近藤東助、雨森良太、山崎峯次郎、菊地長之、鹿俣徳四郎、三上新太郎、平田貞之丞、堀内喜代治、原田健藏、宮川忠助、野宮忠吉、山本善藏、福永忠助、大高千代吉、辻井幸次郎、齋藤吉六、原吉、徳太郎、長谷川與助、清藤唯七、館田角藏

△役員 顧問 弘前市長石郷岡文吉、縣立工

八戸商工會議所設置運動經過

八戸商工會議所設立運動は市制實施と港灣施設と相俟つて一般商工業の進歩に伴ひ市當局並に商工業者有志によつて唱導され昭和四年六月第一回準備會を開き吉田委員長外實行委員を擧げて具體的運動を見るに至つた先づ市役所に創立事務所を置き江口、武藤、三浦、吉田、橋本各氏が夫々先進地視察を行ひ設立手續を調査すると共に創立費立替、有権者名簿作成、定款作成に當り更に縣當局の盡力を仰ぎ商工省に設立認可促進の運動を試み翌五年二月には本省から山口、鳥峯兩屬官が來八調査し久保助役も上京運動をしたので好轉化するものと見られてゐたが八銀休業による地方の財界に一大衝動を齎らしたので全く頓挫するの止むなきに至つた其後茲に漸定的に八戸商工會を起し當業者の統制聯絡と業界向上躍進に努めて來た、然るに昭和九年に至るや八戸港の商港機能は磐城セメント、松尾鑛山疏化鐵鑛等の對滿貿易の開始實現によつて著しく増進され八戸港を中心として各種新規工業が勃

聯合會、弘前市、弘前商工會議所と聯合主催の下に、奥羽工業物共進會を開催した。會場時敏小學校(第一會場)弘前物産陳列館(第二會場)出品人員 一、二〇〇人 出品點數 一七、七八一點 受賞數 三六〇人 其の他津輕商工聯合會發會、産業視察等、弘前市商工業の發展に多大の努力をなした、尙事務所は弘前商工會議所内に置く。

弘前商工會

年中行事の主なるものは觀櫻會と、物産共進會で觀櫻會は七年開始以來、昭和九年で十回に及んで居る九年度觀櫻會は五月四日より同月十三日迄十日間開催したが年々觀光客の數増加し國鐵各驛長主催團體觀光者及大工場會社商店等の團體觀光者連日數萬人に達した。又九年十月十三日より一週間縣商工

興し、又商業方面では郡山市と相並んで躍進して來たので再び有志間に商工會議所設置問題が拾頭したが經費其他の問題の爲に容易實現の可能性も無いので先づ業者の内容の充實を期し實現を圖るべしとの意見があり、先づ業者の積極的指導向上の爲に商工會に業別支會を設けたが商工會議所設置實現は早急には至難の模様である。

各地商工會

九年度の主なる事業の内容は左の通り 一、營業上の進歩、改善を圖るため講習、講話座談會開催 一、優良商工都市の視察 一、營業收益税及其他稅務調査 一、火災保險料低下企圖 一、盆踊獎勵 一、東公園觀櫻會開催 一、黒石、十和田線一帯の開発運動 一、黒石驛擴張運動 一、國立園藝試驗場及縣立高等女學校設立實現運動 一、役員氏名 會長佐藤清吉、副會長中村芳一、顧問中山泰秀加

△職員 顧問 弘前市長、市助役、市産業課長、市會議長、工業學校長、縣立試驗場長、郵便局長、稅務署長、營林署長、警察署長、内山覺彌、縣商工聯合會代議員 清藤唯七、武藤米太郎

八戸商工會

八戸商工會は新たに調査部會を設け更に業別支會をも設けて

△役員氏名 會長佐々木直代、△副會長神伊三郎、中村定吉、△幹事成田篤彌、鶴谷龜吉、佐々木新吉、佐々木基二、大谷八十吉、△會計佐々木傳三郎、△評議員齋藤徳右衛門、下山友太郎、奥谷平太郎外十五名 △重要な事業 五所川原青森間直通鐵道の布設方陳情、五所川原區裁判所の支部昇格陳情、五所川原町立公園設立運動、五所川原原町立公園移轉新築陳情。

金木商工會

設立 昭和四年十二月 事務所 金木町大字金木十七 會員數 百五十名 △役員 會長高橋常作、副會長新岡守一、伊藤正逸、會計新岡年一 主なる事業 九年度觀櫻會を盛大に催し費用二千圓を要した、若野公園に假事務所演藝場等建設五百圓の工費を要し尙櫻苗木三千本を買入れ若野公園地内に植付けた。 青森縣商工聯合會 大正十四年設立されたもので

△職員 顧問 弘前市長、市助役、市産業課長、市會議長、工業學校長、縣立試驗場長、郵便局長、稅務署長、營林署長、警察署長、内山覺彌、縣商工聯合會代議員 清藤唯七、武藤米太郎

青森縣實業協會

あるが昭和九年には青森縣實業協會、青森縣商工業商業組合聯合會等の設立等で事務が重複する事にもなつたので九年三月同會は解散となつた、尙縣出品協會も解散となつた。

△職員 顧問 弘前市長、市助役、市産業課長、市會議長、工業學校長、縣立試驗場長、郵便局長、稅務署長、營林署長、警察署長、内山覺彌、縣商工聯合會代議員 清藤唯七、武藤米太郎

青森縣食品市場協會

本縣に於ける食品市場が團結して販賣、取引方法の研究、商品管理、處分方法の研究、手数料の使用料保管料及保證金等の料率協定、歩戻獎勵金交付の協定會員中の諸般の事故解決並紛議調停等で市場の機能を發揮しやうと言ふ目的から青森縣食品市場協會は昭和十年一月十六日設立されたが、事務所は縣商工課に置かれてある、役員は左の通り △會長千葉傳藏、△副會長夏堀源三郎、福士永一郎、△評議員田中吉松、須々田孫九郎、武田

方並に同驛より直通列車運行相成度件に關し、鐵道大臣仙臺鐵道局長宛請願書を提出せり。△九年七月三十一日 地方文化と産業開發の爲め曩に陳情せし弘前驛を中心として、カソリンカー運轉方を鐵道大臣、仙臺鐵道局長宛重ねて陳情せり。△九年九月十二日 縣立工業學校へ新に電氣科設置方に關し、縣知事宛請願書を提出せり。△十年二月一日 弘前驛貨物專用道路鋪裝に關し關係官廳に陳情書を提出せり。△十年二月二十日 國立公園に十和田湖を指定上、設備並に道路完成の目的を以て津輕商工聯合會及び關係町村長と提携の上縣知事宛請願書を提出せり。△十年三月三十一日 同日午後二時四十八分御來弘中の李王殿下には地方産業御獎勵の御恩召を以て當物産陳列館へ御成り特産品を御覽覽特に御獎勵の御言葉を賜りたり。

△顧問 弘前市長石郷岡文吉、縣立工

業試驗場長高橋眞理、縣立工業學校長藤江乙次郎、辯護士竹田藤吉、會社重役宮川久一郎、同櫻庭秀輔  
△職員 理事成田弘、書記田村新、竹内宗、對馬寛  
△職員 佐藤齊一、土田與惣市、松宮重輔、能登谷寅五郎、成田豐助、川村東一郎、竹内榮七、山形良太郎、石岡定次郎、木村榮吉、大塚多三郎、福士忠吉、近藤東助、雨森良太、山崎峯次郎、菊地長之、鹿俣徳四郎、三上新太郎、平田貞之、堀内喜代治、原田健藏、宮川忠助、野宮忠吉、山本善藏、福永忠助、大高千代吉、辻井幸次郎、齋藤吉六、原七、館田角藏

弘前商工會

年中行事の主なるものは觀櫻會と、物産共進會で觀櫻會は大正七年開始以來、昭和九年で十回に及んで居る九年度觀櫻會は五月四日より同月十三日迄十日間開催したが年々觀光客の數増加し國鐵各驛長主催團體觀光者及大工場會社商店等の團體觀光者連日數萬人に達した。又九

聯合會、弘前市、弘前商工會議所と聯合主催の下に、奥羽工業物共進會を開催した。  
會場時敏小學校(第一會場)  
弘前物産陳列館(第二會場)  
出品人員 一、二〇〇人  
出品點數 一七、七八一點  
受賞數 三六〇人  
其の他津輕商工聯合會發會、産業視察等、弘前市商工業の發展に多大の努力をなした、尙事務所は弘前商工會議所内に置く。  
△顧問役員  
會長宮川忠助、△副會長近藤東助、雨森良太、△理事成田弘、幹事西澤衛守、清藤唯七、三崎島久、福士忠吉、工藤豐吉、松宮重輔、大高千代吉、今谷喜兵衛、堀内喜代治、佐々木清次郎、武藤米太郎、登島權作、平田貞之、近藤敬藏、土田與惣市  
△顧問、弘前市長、市助役、市産業課長、市會議長、工業學校長、縣立試驗場長、郵便局長、稅務署長、警林署長、警察署長、内山覺彌  
△縣商工聯合會代議員 清藤唯七、武藤米太郎

八戸商工會

八戸商工會は新たに調査部會を設け更に業別支會をも設けて

和言 藤井庄三郎

八戸商工會議所設置運動經過

八戸商工會議所設立運動は市制實施と港灣施設と相俟つて一般商工業の進歩に伴ひ市當局並に商工業者有志によつて唱導され昭和四年六月第一回準備會を開き吉田委員長外實行委員を擧げて具體的運動を見るに至つた先づ市役所に創立事務所を置き江口、武藤、三浦、吉田、橋本各氏が夫々先進地視察を行ひ設立手續を調査すると共に創立費立替、有権者名簿作成、定款作成に當り更に縣當局の盡力を仰ぎ商工省に設立認可促進の運動を試み翌五年二月には本省から山口、鳥峯兩屬官が來八調査し久保助役も上京運動をしたので好轉化するものと見られてゐたが八銀休業による地方の財界に一大衝動を齎らしたので全く頓挫するの止むなきに立至つた其後茲に漸定的に八戸商工會を起し當業者の統制聯絡と業界向上躍進に努めて來た、然るに昭和九年に至るや八戸港の商港機能は磐城セメント、松尾鑛山硫化鐵鑛等の對滿貿易の開始實現によつて著しく増進され八戸港を中心として各種新規工業が勃

商工—各地商工會

興し、又商業方面では郡山市と相並んで躍進して來たので再び有志間に商工會議所設置問題が拾頭したが經費其他の問題の爲に容易實現の可能性も無いので先づ業者の内容の充實を期し實現を圖るべしとの意見があり、先づ業者の積極的指導向上の爲に商工會に業別支會を設けたが商工會議所設置實現は早急には至難の模様である。

各地商工會

- 一、營業上の進歩、改善を圖るため講習、講話座談會開催
- 一、優良商工都市の視察
- 一、營業收益稅及其の他稅務調査
- 一、火災保險料低下企圖
- 一、益踰獎勵
- 一、東公園觀櫻會開催
- 一、黒石、十和田線一帯の開發運動
- 一、黒石驛擴張運動
- 一、國立園藝試驗場及縣立高等女學校設立實現運動
- △役員氏名 會長佐藤清吉、副會長中村芳一、顧問中山泰秀加

五所川原商工會

會長佐々木直代、△副會長神伊三郎、中村定吉、△幹事成田篤彌、鶴谷龜吉、佐々木新吉、佐々木基二、大谷八十吉、△會計佐々木傳三郎、△評議員齋藤徳右衛門、下山友太郎、奥谷平太郎外十五名  
△重なる事業 五所川原青森間直通鐵道の布設方陳情、五所川原區裁判所の支部昇格陳情、五所川原町立公園設立運動、五所川原原草販賣所移轉新築陳情。

金木商工會

設立 昭和四年十二月  
事務所 金木町大字金木十七  
會員數 百五十名  
△役員 會長高橋常作、副會長新岡守一、伊藤正逸、會計新岡新一  
主なる事業 九年度觀櫻會を盛大に催し費用二千圓を要した、芦野公園に假事務所演藝場等建設五百圓の工費を要し尙櫻苗木三千本を買入れ芦野公園地内に植付けた。  
青森縣商工聯合會  
大正十四年設立されたもので

あるが昭和九年には青森縣實業協會、青森縣商工業商業組合聯合會等の設立等で事務が重複する事にもなつたので九年三月同會は解散となつた、尙縣出品協會も解散となつた。

青森縣實業協會

縣下生産品の宣傳、紹介、販路の擴張、生産品の改善並に研究調査を目的として各種團體、會社、個人等を以て九年十一月二十三日創立されたが十年に入りつては目的に向つて眞剣に乗り出すべく、積極的なる具體案を樹てゐる、尙役員は左の通り  
總裁小林縣知事、會長中村經濟部長、副會長藤林青森、宮川弘前兩商工會議所會頭。

青森縣食品市場協會

本縣に於ける食品市場が團結して販賣、取引方法の研究、商品管理、處分方法の研究、手數料の使用料保管料及保證金等の料率協定、歩戻獎勵金交付の協定會員中の諸般の事故解決並紛議調停等で市場の機能を發揮しやうと言ふ目的から青森縣食品市場協會は昭和十年一月十六日設立されたが、事務所は縣商工課に置かれてゐる、役員は左の通り  
會長千葉傳藏、△副會長夏堀源三郎、福士永一郎、△評議員田中吉松、須々田孫九郎、武田



慶三郎、鶴谷竹五郎、工藤清吾、若井由五郎、中村清次郎、△幹事長奥寺商工課長、常任幹事今主事、書記樋口猛彦、尚同協會加入の食品市場は左の通りである。

青森安方魚介市場(所在地青森市、管理者千葉傳藏)、青森規貝町魚菜市場(青森市、須々田孫九郎)、板柳市場組合(板柳町、伊藤藤太郎)、弘前魚市場(弘前市、武田慶三郎)、弘前魚貝市場(弘前市、蛇名慶藏)、五所川原魚貝野菜果物市場(五所川原町、鶴谷竹五郎)、八戸魚市場(八戸市、夏堀源三郎)、黒石魚市場(黒石町、福士永一郎)、青物市場(八戸市、柴田幾松)、六日町魚市場(八戸市、長谷春松)、野菜果物市場(三戸町、狩野尾逢三)、南部果菜市場(平良崎村、村木常春)、三戸果菜市場(向村、馬場他郎)、八戸農産市場(八戸市、工藤清吾)、青森青果市場(青森市、田中吉松)、名久井農産市場(名久井村、高木多平)、留崎村物産公益市場(留崎村、山下萬助)、餘ヶ澤魚市場(餘ヶ澤町、中村清次郎)。

縣物産紹介所

青森縣物産紹介所は十年四月一日より開所されたが、事務所は四月二十

として氣を吐いて来た。名釀地

優等賞 △勝岡弘前今泉清藏△男山八戸駒井庄三郎△八鶴同橋本合名會社△桃川上北村井酒造店

特選賞 △白藤弘前藤田久次郎△一洋同川村東一郎△掬水同佐藤元吉△玉川同玉田秀造△玉垂黒石中村龜吉△菊の井同鳴海文四郎△福牡丹八戸市八戸酒造會社△山櫻同高橋藤吉△稻川同福井酒造店△陸鶴野邊地川村福三郎

青森縣清酒品評會

青森縣清酒品評會は第九十月五日青森市公會堂に開催されたが、出品二百九十七點、この内優等及び特選は次の通り決定。

優等 △陸鶴野邊地川村福三郎△八鶴八號八戸橋本合名會社△福牡丹一號八戸酒造會社△島口號駒越佐藤元吉△清の松八號橋藤吉△陸奥男山三號八戸駒井庄三郎△黒松桃川イ號百石村井酒造店△玉垂八號黒石中村龜吉△菊の井り號黒石鳴海文四郎△

商工—各地商工會

日に青森警察署向に見本陳列所を設け、開館し、將來は青森縣實業協會と協力して、大いに縣産品の紹介に努める事になつた。尚物産紹介所長は中村經濟部長、副所長奥寺商工課長、中西農務課長、主事補小笠原武一、岡本重規、技手鈴木達藏

奥羽北海道工産物共進會

奥羽北海道工産物共進會は十月十三日より一週間弘前市に於て第一、第二會場を設けて開催出品數約二萬點、優等賞は次の通り

△筆筒。川村文作(弘前)、丸山武夫(同)△家具。須藤熊五郎(弘前)△織物。東北織物株式會社(弘前)△漆器。前澤英雄(弘前)△中正雄(同)及川林三(宮城)△水産。中村用助(弘前)△酒類。川村東一郎(弘前)、今泉清藏(同)△金物。島内市三郎(青森)△相馬健三郎(弘前)△竹細工。八木橋文之助(弘前市外)△醬油。竹内重夫(弘前)、中田合資會社(同)

縣工藝品競技展

青森縣工藝協會主催第三回青森縣工藝品競技展會は十月九日より三日間弘前市公會堂に開催出品數三百三十六點、知事賞及び淺田男賞受賞者は左の通り

新玉イ號大鶴中村隆平△勝岡二號弘前今泉清藏△白藤り號弘前藤田久次郎△金泉△號野邊地野坂元太郎△關の井イ號田名部關勇造△玉川ト號弘前玉田秀造△正泉イ號尾上正井理一郎△遊天△號弘前弘前銘會社△奥入瀬△號三本木稻本はな

オール青森大賣出デー

統制經濟の強化につれて中小商業者は大資本經營の上からの壓迫と産業組合進出による下からの打撃と二つの重壓下にあつて中小業者の商權は漸次蠲食されて時日の経過と共に中小業者の救済の叫び、商權擁護運動は漸次熾烈となつたが商權擁護の必要は別として中小商業經營組織自體に持つ幾多の缺陷あることも輿論の等しく認むる所である。即ち販賣技術の改善、廣告方法の研究、更に根本的な問題として、統制たる濫立状態から秩序ある、統制されたる團體的經營組織への進展である、本縣商店街に於ても近年漸くこの點に着目し始めたと言へ尙その統制力全しとはせぬ状態である、本社ではこの時代の流れに着目すると共にその重大性に鑑み、時恰も本紙一萬五千號紙齡に達した意義ある機會に於て

漆器の部 △知事賞 テーブル 神田松太郎 △淺田男賞 棚 丹代末治 △家具の部 △知事賞 應接セット 八重樫喜代二 △淺田男賞 同 鳴海五郎

八戸市制五周年記念 工産物共進會

八戸市制五周年記念の青森縣工産物共進會は十一月二日より五日間、八戸市八戸尋常小學校に開催、出品數一萬點、青森、岩手、秋田三縣に互る出品で盛況、併催の全國副業品展示即賣會出品十七縣に互り二千六百七十六點、賣上高は一萬三千圓に上つた、共進會の産業獎勵賞(知事賞)受賞者は次の通り

△長しの錫(八戸)泉山熊太郎、△鯛油(同)石橋要吉△醬油龜甲長口號(弘前)佐藤哲造△佛事用品(弘前)石橋榮太郎△化粧引菓子(八戸)石橋榮太郎△化粧臺付婦人洋服筆筒(同)松川秀雄△桐柱目下駄(弘前)葛西邦助△まぐろ切り出刃庖丁(八戸)中村匡雄

ホームズパン共進會

大阪市三越に開催の富民協會主催のホームズパン(綿羊手織服地)の共進會で本縣より出品した中郡駒越村木村みき氏のものが、先進縣を歴して最高賞たる金牌を授與された。

復興記念博覽會 博覽會は十年三月二十六日より五月二十四日の期間で開催されたが、本縣よりは青森縣實業協會が幹旋し、貿易品宣傳を目標としてひば村、海産物、繅詰桐製品、葛細工、津輕塗、林檎及昆布を原料とする菓子、鐵瓶竹細工、趣味玩具、味噌醬油其他總計二百點を出品したが、第四本館に陳列し、相當の効果を挙げた、尙林檎即賣所に於ける本縣林檎の賣行は約二萬七千圓に上り頗る好成绩であつた。 長崎市主催國産産業 觀光博覽會 九年三月廿三日より五月二十三日迄の期間で長崎に開催されたが、本縣より二千四十一點出品、賣上高三百圓、優良國産賞を授與された者は左の通りである。 △千葉千代三(リンゴ繅詰)△對馬德之進(トロロ昆布)△近藤善吉(海産物)△青森縣ひば村協會(ひば村)△視館門藏(北寄貝繅詰) 全國酒類品評會 九年十一月二十一日東京市王子醸造試驗所に開催の第十四回全國酒類品評會に出品して優等

總念事業として市内小賣商を糾合しオール青森大賣出デーの壯舉を敢行したのである。たゞに大賣出ばかりでなく、廣告技術の進歩に貢献するため大賣出しデー初日に廣告祭をも併せ行ひ、大賣出の壯舉に一段の光彩を加へた、第一回大賣出デーは昭和九年七月一日から十日間に亘つて行つたが、その齎した効果と中小業者への貢獻の偉大さに鑑み昭和十年には第二回オール青森大賣出デーを陽春櫻花に魁けて四月二十日から十日間開催したが前日は廣告祭を行つた、次に第一回第二回オール青森大賣出デーの経過を見る。 △第一回オール青森大賣出デー 華々しい前風景の中に九月一日初日を迎へ十日迄自熱的人氣裡に經過し、参加店の相當の賣上高を獲得したが参加店は青森市内の各方面の商店を網羅し次の如く百三十七店の多きに達した

- ◆新 町 傳 果 子 物 店 中 浦 菓 子 物 店 三 井 菓 子 物 店 カフエー ランマン 永 井 菓 子 物 店 小 林 菓 子 物 店 東 京 菓 子 物 店
- ◆博 勞 町 津 吳 服 店 室 小 間 物 店 中 傳 果 物 店 大 傳 果 物 店 吉 福 小 間 物 店 西 田 絲 綫 店 豐 橋 化 粧 品 店 町 橋 化 粧 品 店 愛 陶 セトモノ 店 白 戸 寫 眞 館 谷 藤 酒 店 カフエー パリジヤン 甲 須 雜 貨 店 須 藤 雜 貨 店 井 上 帽 子 店 高 橋 靴 店 今 村 洋 品 店 野 口 寫 眞 館 不 二 食 堂 カフエー スズラン 伊 藤 茶 店 中 藤 茶 店 工 藤 萬 年 堂 平 澤 洋 品 店 カフエー 銀座會館
- ◆寺 町 橋 化 粧 品 店 吉 福 小 間 物 店 中 傳 果 物 店 大 傳 果 物 店 町 津 吳 服 店 室 小 間 物 店 中 浦 菓 子 物 店 三 井 菓 子 物 店 カフエー ランマン 永 井 菓 子 物 店 小 林 菓 子 物 店 東 京 菓 子 物 店

◇大

商工—各地商工會
町 戸百貨店
大 戸百貨店
一 戸百貨店
大 戸百貨店
一 戸百貨店

◇古川

山洋品店
須藤洋品店
須藤洋品店
須藤洋品店
須藤洋品店

◇長島

文華堂
文華堂
文華堂
文華堂
文華堂

◇安方

今泉既製洋服店
西澤量衡店
西澤量衡店
西澤量衡店
西澤量衡店

◇榮

一等(大文字)
二等(人氣者ベテイ嬢のお化粧行進)
三等(辨慶)
四等(軍艦乗組員)

◇米

山吳服店
甘泉菓子店
甘泉菓子店
甘泉菓子店
甘泉菓子店

◇米

山吳服店
甘泉菓子店
甘泉菓子店
甘泉菓子店
甘泉菓子店

◇米

山吳服店
甘泉菓子店
甘泉菓子店
甘泉菓子店
甘泉菓子店

商工—各地商工會

二二七

商工—各地商工會

員左の諸氏であつた。

- 青森縣商工課長 奧寺 雄一氏
- 青森商工會議所理事 齊藤 謙之助氏
- 青森商業學校教諭 菊池 節郎氏
- 本社事業部長 竹内 俊吉氏
- 審査の結果次の諸氏が入賞し善知鳥神社で賞状及びカップ授與式を行つた。
- 一等(エビアンミール) 大町 西田洋品店
- 二等(御嬢様の御風呂行き) 國道 弘前 屋
- 三等(タンク印パラルソル廣告) 大町 簡野洋品店
- 四等(コロンビアレコード) 柳町 カクセイ堂
- 五等(カバンと靴) 新町 高橋靴店
- 六等(花見衣裳) 柳町 小松屋 吳服店
- 七等(ネクタイと帽子) 大町 松岡洋品店
- 八等(桃太郎) 新町 小林履物店
- 九等(子供乗物) 大町 日の丸屋
- 十等(傘山車) 柳町 根深傘店

特に青森縣商工課杯を一等に授與された。

- 一等一人 東奥日報杯
- 二等一人 青森市長杯
- 三等一人 青森商工會議所會頭
- 四等一人 東奥日報杯
- 五等一人 同
- 六等一人 同
- 七等一人 同
- 八等一人 同
- 九等一人 同

本縣の商工業組合  
昭和七年九月商工業組合法が實施されてより窮境を切り抜けんとする本縣商工業者間に商工業組合を設立せんとするもの續出し既に認可済みの組合は商業組合十二、工業組合一を數へるの狀態となつて居り、出資總額二十四萬九千九百五十圓となつてゐる、斯くの如き状態にあつて九年二月青森縣商工業組合聯合會を設立したが、縣を單位とする聯合會の所在する他の十六縣と協力し、全國商工業組合聯合會を創設すべく準備中で、問題となつてゐる中央金庫も設けられ、抗して頽勢を挽回すべく期待されてゐる、尙本縣商工業組合に

貸付くべく内定してゐる低利資金は各商業組合に對して十一萬六千圓、工業組合に對して六千圓が内定してゐる、尙九年六月二十八日には縣會議事堂に於て秋田、山形、青森三縣商業組合聯合協議會を商工省主催で開催された。

青森縣商工業組合聯合協會  
昭和九年二月に縣下商工業組合を一丸とする青森縣商工業組合聯合協會が設立されたが、現在に於ける役員は總裁小林縣知事、會長中村經濟部長、副會長安田産業統制課長、奧寺商工課長、評議員各組合理事長、顧問藤林青森商工會議所會頭、宮川弘前商工會議所會頭、常任幹事及び書記は次の通りである。

常任幹事 商工主事今慶吉△幹事 商工主事楠岡本重規△書記 縣雇小山内尙四郎、専任書記櫻屋敷正晴。

既に認可済みの商業  
青森市農工品移出商業組合 △設立認可 昭和八年四月十日 △事務所 青森市△地區 青森市、東郡一圓 △組合員 十二名 △理事長 島津圓太郎 △出資 總額二萬五千圓(拂込濟六千二百五十圓)、一口五十圓 △業種 資

弘前打刃物工業組合  
△設立認可 昭和九年三月七日 △事務所 弘前市 △地區 弘前市 △組合員 二十名 △理事長 刃物工業。

本縣の同業組合

組名	設立年	事務所	組合員數	組合長
東青森農工品同業組合	大正十年	青森市	一七〇	島津圓太郎
中弘農工品同業組合	同 八年	弘前市	一〇〇	成田 彦一
南郡農工品同業組合	明治四十年	黒石町	三七〇	内山久二郎
青森縣南部馬鈴薯同業組合	大正十一年	五所川原町	二二	一戸千代竹
青森縣林檎移出同業組合	昭和二年	下田村	七	橋本眞輔
青森縣林檎同業組合	大正十五年	弘前市	一八	前田 靜賢
青森縣醬油同業組合	大正十年	板柳町	一〇〇	古關 吉彌
青森縣三戸郡木炭同業組合	昭和二年	弘前市	七〇	和田寛次郎
青森縣木炭同業組合	大正十二年	八戸市	一、六	志賀 治助
青森縣木炭同業組合	同 十三年	七戸町	一、二七	濱中 源七
青森縣木炭同業組合	同 十二年	田名部町	一、五	高清水富四郎
青森縣木炭同業組合	同 四年	鯉ヶ澤町	一、四六	北村 誠一
青森縣炭製造同業組合	同 六年	大鰐町	三三	渡邊 守基
青森縣炭製造同業組合	大正十五年	青森市	一四	千葉 傳藏

三市準則組合

組名	設立年月	組合員數	組合長
青森菓子營業組合	明治三十五年五月	六十八名	吉澤巳之助
青森木履職組合	同 三十二年七月	八十名	須藤才次郎
青森地方桶職組合	同 二十六年九月	三十五名	佐藤平十郎
青森左組	同 三十三年三月	百十三名	三上 幸吉

(拂込濟九千九百七圓) 一口五百圓 △業種各種商業  
南部馬鈴薯移出商業組合  
△設立認可 昭和八年十二月十日  
一日 △事務所 六戸村古間木  
△地區 上北郡、三戸郡、八戸市 △組合員 三十六名 △理事長 橋本眞輔 △出資總額六千六十圓(拂込濟二千圓)、一口三十圓 △業種馬鈴薯移出業。  
津輕中部農工品移出商業組合  
△設立認可 昭和九年二月十日  
△事務所 弘前市 △地區 弘前市、南郡、中郡一圓 △組合員 四十二名 △理事長 成田彦一 △出資 總額二萬一千六百五十圓(拂込濟五千四百二十圓)五十圓) 一口五十圓 △業種農工品移出業。  
津輕西北農工品移出商業組合  
△設立認可 昭和九年二月十四日  
△事務所 五所川原町 △地區 西郡、北郡一圓 △組合員 二十一名 △理事長 一戸千代竹 △出資 總額一萬圓(拂込濟二千五百圓)、一口二十圓 △業種農工品移出業。  
五所川原商業組合  
△設立認可 昭和九年六月八日  
△事務所 五所川原町 △地區 五所川原町 △組合員 二百八十八名 △理事長 佐々木直代 △出資 總額一萬圓(拂込濟二千

西北米穀移出商業組合  
△設立認可 昭和九年十一月八日 △事務所 五所川原町 △地區 西郡、北郡 △組合員 十六名 △理事長 新岡小太郎 △出資 總額一萬圓(拂込濟二千五百圓)、一口二十圓 △業種米穀移出業。  
青森米穀商業組合  
△設立認可 昭和十年一月二十日 △事務所 青森市 △地區 青森市及近接村 △組合員 百二十一名 △理事長 窪田清次郎 △出資 總額六千三百四十圓(拂込濟五千八百五圓)、一口二十圓 △業種米穀販賣業。  
青森縣林檎箱商業組合  
△設立認可 昭和八年十二月二十二日 △事務所 青森市 △地區 青森縣一圓 △組合員 二十二名 △理事長 平野善次郎 △出資 總額七萬二千圓(拂込濟三萬六千圓)、一口二百圓 △業種 內地松、林檎包裝箱、其他各種包裝箱の共同販賣、組合員營業資金の貸付(昭和九年度共同販賣數量百三十七萬箱、價格三十四萬五千圓、昭和九年十二月末現在貸付金三萬二千四百圓、組合共同施設として製品の保管倉庫五棟を建設)。

商工—本縣の同業組合—三市準則組合

商工—本縣の移出米—近年の移出米検査數

Table with multiple columns listing various industrial and commercial groups (e.g., 青森製靴工業組合, 青森綿織工業組合) and their corresponding rice export inspection numbers for different years.

Table titled '近年の移出米検査數' (Recent Rice Export Inspection Numbers) showing data for various groups like 弘前製靴工業組合 and 弘前石綿工業組合 across different years.

Table titled '仕向地別内譯' (Domestic Destinations) showing rice export data for various regions like 中津輕郡, 南津輕郡, and 北津輕郡, including 9-year and 8-year comparison data.

九年度本縣集散地別米價 (Rice prices by collection and distribution area in the 9th year). This section includes a detailed text explanation of the price fluctuations and a table of prices for various collection areas like 弘前市, 青森市, and 下北郡.

△計四十二錢 (Total price 42 ryo). A concluding note or summary of the price data.

二 一 十 十 九 八 七 六 五 四  
月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

旬	中	上	下	中	上	下	中	上	下	中	上	下	中	上	下	中	上	下	中	上	下
青森市	三三、三	三三、七	三三、八	三三、四	三三、六	三三、九	三三、二	三三、五	三三、八	三三、一	三三、四	三三、七	三三、〇	三三、三	三三、六	三三、九	三三、二	三三、五	三三、八	三三、一	三三、四
五所川原	三三、四	三三、七	三三、八	三三、〇	三三、三	三三、六	三三、九	三三、二	三三、五	三三、八	三三、一	三三、四	三三、七	三三、〇	三三、三	三三、六	三三、九	三三、二	三三、五	三三、八	三三、一
弘前市	三三、五	三三、八	三三、九	三三、一	三三、四	三三、七	三三、〇	三三、三	三三、六	三三、九	三三、二	三三、五	三三、八	三三、一	三三、四	三三、七	三三、〇	三三、三	三三、六	三三、九	三三、二
陸羽	三三、六	三三、九	三三、〇	三三、二	三三、五	三三、八	三三、一	三三、四	三三、七	三三、〇	三三、三	三三、六	三三、九	三三、二	三三、五	三三、八	三三、一	三三、四	三三、七	三三、〇	三三、三
黒石町	三三、七	三三、〇	三三、一	三三、三	三三、六	三三、九	三三、二	三三、五	三三、八	三三、一	三三、四	三三、七	三三、〇	三三、三	三三、六	三三、九	三三、二	三三、五	三三、八	三三、一	三三、四
八戸市	三三、八	三三、一	三三、二	三三、四	三三、七	三三、〇	三三、三	三三、六	三三、九	三三、二	三三、五	三三、八	三三、一	三三、四	三三、七	三三、〇	三三、三	三三、六	三三、九	三三、二	三三、五
鶴の尾	三三、九	三三、二	三三、三	三三、五	三三、八	三三、一	三三、四	三三、七	三三、〇	三三、三	三三、六	三三、九	三三、二	三三、五	三三、八	三三、一	三三、四	三三、七	三三、〇	三三、三	三三、六

政府米の拂下  
(米穀事務所開設)  
百四十萬石と言ふ未曾有の大豊作に明けた昭和九年始の米價は最低價格を下廻り政府への賣渡申込が殺到し、その結果端境期近くなると共に民間在米高は極端に不足し、販米有ガヌレの現象を呈し、米價は奔騰に次ぐ躍進を重ね最高價格を上廻るの狀態であつた、縣下の米穀事情もこの例に洩れず、縣下米商は玄米の供給難を緩和すべく縣外米の買漁りに没頭したが八月初め、政府米百萬石の第一次拂下發表に當り酒田に赴き入札を行つた、全國の拂下豫定數量百萬石の内落札決定したもののは九十五萬八千六百六十石であつたがその中酒田米穀事務所關係は次の通りである。

第一次拂下  
下見 八月十一日  
入札 八月十三日  
落札決定 八月十五日  
賣却豫定數量 六萬石  
賣却落札數量 六萬石  
六萬石の中、青森市米商の落

札數量は一萬七千俵見當であつたがこの中殆んど全部が縣内で消化された。  
第二次拂下米三十萬石の賣却は引續き八月下旬に行はれたが縣米穀商の入札は殆んど全部仙臺米穀事務所管内、殊に縣内保管米に集中された、政府買上げ本縣産米が地元にて拂下げられるのは今回が始めてであるだけに拂下値は各方面から注目されたが、縣政府米は品傷みを慮られ居ただけに一般の入札値は意外に安かつたためかその落札成績は極端に悪く縣内倉庫保管賣却米二萬七千四百七十九俵の申購聯の入札が僅かに廿俵落札したに過ぎず米商關係の落札は皆無であつた内譯は次の通り  
下見 八月二十八、九日  
入札 八月卅日  
決定 九月一日  
賣却豫定數量  
仙臺米穀事務所  
△昭和七年産米(單位俵)  
青森一、二等無  
三等 九、九八七  
四等 六六三

計一〇、六五〇  
三等 一、四二〇  
四等 一、八二九

の他詳細は次の通りである。  
△賣却豫定數量(單位俵)  
(八年産)  
三等米 二、五二六  
四等米 五、四七四  
計 七、〇〇〇

第二次拂下げに次いで政府は百萬石買替を發表した、時、恰も農林省では本縣の凶作對策の一つとして突如十一月一日青森市に岩手、青森二縣を管轄區域とする米穀事務所を開設した、同所開設によつて、従來酒田又は仙臺の米穀事務所へ赴き、入札その他の手續を行はなければならなかつた米穀商は居ながらにして、政府との賣買に應ずることが出来ることになつた、かくて百萬石買替は同所の初商内となつた譯である。  
尙十月廿七日米穀格差委員會に於て決定せる縣産米格差は次の如く平格三等は茨城二等の一圓十錢下げとなつた。  
△青森(茨城二等玄米を標準として)  
二等 七十錢下  
一等 三十錢上  
三等 四十錢下  
黒石米、弘前米は各三十錢上、上北、三戸、各郡産米三十錢下)

△賣却豫定數量(單位俵)  
右内譯  
平格三等 一四、九五一  
同四等 四、九三三  
同三等 六、四一五  
同二等 一、〇〇〇  
同一等 一、五九一  
計 二、一七九  
上北四等 三、七五  
三戸四等 八、二一  
計 七、〇〇〇

米各々十二錢上げ上北、三戸各郡産米十二錢下げで四等は買上應募不可能となつた。  
△下見 十二月三日  
△申込 十二月四日  
△落札決定 六月  
△落札數量 八二四俵  
今回の申込數量は大體三萬五千俵見當であつたが落札數量は八百二十四俵と申込數量の三分の一と言ふ甚だしい不成績であつた、これは全部當市米商の手に歸したが、かゝる不成績は單に青森米穀事務所に限らず全國的に見ても買上豫定數量七十萬石中僅かに十八萬二千石であつた、かゝる不成績は政府の買上標準價格が安かつたためもあるが、米穀十年度の公定價格の一般の豫想が一般に高過ぎたために入札値が高過ぎた點にも起因する。  
次に前述買上豫定數量に充たなかつた五十九萬石の買上は十一月早々行はれた。  
△下見 一月七日  
△入札 一月八日  
△落札決定 一月十日  
△落札數量 八、八三〇俵  
今回の落札數量は八千八百三十俵で前回の比較すれば相當の好成績であつた、これは大半青森縣販購聯に落札となり米商關

係は千二百二十俵に過ぎなかつた。  
これだけの成績を挙げ得たのは新公定價格が決定して大體於て買上標準價格の見透しがつたためと前回の不成績に鑑みて入札値が低位なものが多かつたためである、尙今回の落札最低價段は平格二等玄米十一圓十錢前後と見られた。  
十米穀年度公定價格と縣産米價の高低限度  
十米穀年度公定價格は十二月十七日の農相官邸に開催された米穀統制委員會に於て次の如く決定された。  
最高 三十一圓五十錢  
最低 二十四圓卅錢  
九米穀年度公定價格に比較すれば最高最低各々一圓高である。尙各銘柄等級別茨城二等は公定價格より二錢格上げである。縣産米公定價格  
最高價格 卅圓八十二錢  
最低價格 廿三圓六十二錢  
尙縣産米の買上又は拂下に應ずる場合の諸經費は次の通りである。  
△最低價格 七、七  
運賃 四、〇〇  
三價格下げ 一、〇〇  
検査料諸掛 二、三三

又青森米穀事務所賣却數量を

政府米の拂下

商工——移出検査料の値上げ

合計	二、一七
差引平格三等最低価格	二、四五
一俵最低価格	八、五八
△最高価格	七、七
運賃	四、〇七
三等格下げ	一、一七
計	一、一七
差引平格三等	二、九、六五
最低価格	一、八、六
右一俵値段	一、八、六

移出検査料の値上げ

縣産米の食味は相當良好であるにも拘らず軟質米であるため長期間の貯蔵に堪へず縣外移出に當つて甚しく不利な條件に置かれ現在に於てはその販路は主として北海市場に限られて居る状態である、これは氣候の關係もあるが他面乾燥設備の不備に基く所大なることも見逃す譯には行かず、縣當局では昭和六年から奨励費を交付して棒架乾燥を奨励して来たのであるがその成績は遅々として振はず昭和六

年度に於ける棒架耕作地は五百九十九町九、七年度には二千四百六十六町、九年度は三千五百四十四町歩と漸増傾向を辿つて居るが尙全耕地面積の五分一に過ぎない有様である、縣當局では産米改良の必要を痛感し、昭和十年には棒架乾燥を積極的進め、進捗として二萬四千圓を計上し、その財源を捻出すべく移出検査料を一俵につき二錢引上げることとし昭和十年四月十三日から實施した。

これに對しては各方面から猛烈な反對が起つた、殊に米穀移出業者は検査料問題に對しては從前數回互つて引下げの陳情をなして居つた。殊に昭和八年の移出検査料は平均百二十七萬三千圓に達し、一ヶ年平均百二十萬圓に達し、又八年産米は未曾有の大豊作で、是又増収が確實となつて検査料値下げ運動に拍車をかけた。然るに然るに當業者の要求が何等容れられなかつたばかりか反對に二錢の値上げとなつたのであるから業者の値上げ反對運動は熾烈を極め、縣下同業者大會を開催して對策を協議し、縣會に働きかけること

共に、知事に陳情に押しかけたが結局大した効も奏せず値上げが可決されたのである、次に反對理由を掲記する。

一、検査料値上げは農家の負擔増となること

即ち検査料の徴收は直移出業者からするのであるから外見は検査料の値上料金だけに見えるが業者の損失であるかに見えるが事實は業者が農家から玄米を仕入れるに當つてそれだけ安く仕入れるて棒架乾燥費二萬四千圓は結局農家が米を安く賣つて據出すことになり、農村救済を目的として行はれた産米改め農村を搾取することになり、尤も前述の見解に對しては検査料の増徴された分だけ米を安く賣つても棒架乾燥に依つて品質が向上し一俵につき二十錢なり三十錢なり高く賣ればそれだけ利益になる計算であるから、農家は検査料増徴分の議論も成立するが今度の豫算に現はれた計畫からすれば棒架乾燥による品質向上の恩恵に浴す農民が何程あるかを見るに耕作全面積六萬八千町歩の内僅ち二千二百町歩の耕作農家のた

め六萬六千町歩の農家が犠牲に供される譯である。假りにこの案を以て進んで行くならば十年経つても全農民が恩恵に浴することが出来ず却つて間接に不當な經費を負担することになるのではないか、右手に農村救済の旗を持ち左手に農村搾取をやるやうな不合理な點を持つ該案は更に検討を要する。

二、検査料値上げは他縣産米との競争上縣産米の地位を不利ならしむる

縣産米の移出先は主として北海道であるが同市場に於ては玄米は越中越後秋田蓬米と激烈な競争を續け一石につき僅かに五錢位の所で商談の成立不成立が分れて居る状態である、かかる状態にあるから検査料の値上は縣産米の北海市場への進出を阻害すること大なるものありその結果、縣産米を沈衰に導びくものである。

反對の理由は大體前述の通りであるが米穀商の反對運動は時日の経過と共に漸次反産運動の色彩が濃化し始め、値上げが若し不可避であるならば、農倉(産業組合關係)の検査料を業者と同額とせよとの叫びが高くなつて来た、即ち米穀商の移出検査料は一俵につき八錢徴收される

に對して、農倉側は六錢に止まつて居る關係上移出に當り米穀商は産業組合より不利な立場に置かれ商權が蠲食される虞がある、この際農倉入庫米並に業者の検査料を一律に八錢とするか若し業者の検査料を十錢とすればよとの叫びが起つて来た、これには一面反産運動であると共に他面徴收検査料の實數に即して觀察すれば、かゝる差別待遇は結局農村經濟を逼迫せしめ、その農村經濟の緩和を到底期し難いことが解る。

米穀自治的管理案と縣下米穀商

昭和九年十一月、政府が米穀政策補強策の一つとして米穀自治的管理案を提出して聲明した。案の進出に商權を蠲食されつゝある全國米穀商の、同案實施反對の烽火は猛烈を極め、同案が三月二十三日貴族院に於て、審議未了となる迄の大略四ヶ月間の米穀商反對運動は實に涙ぐましいものがあつた、産業組合は亦その積極的進出を計るため同案の迅速なる實施方促進運動を起すに及んで、社會の注目は

商工——米穀自治的管理案と縣下米穀商

等しく管理案の議會に於ける運命に集められたるかの觀があつた、即ち米穀商と産業組合の同案を繞つての對立はとりも直さず都市中小商業と農村との對立であり、經濟問題としてばかりではなく、社會問題として輿論に於ける青森市並に縣下米穀商の活躍は實に素晴らしいものがあつた、同案反對運動に於ける縣米商の立場は、東北北海道同業者の指導者であつたばかりでなく、全國米穀商聯合會の幹事として參謀術策縦横無盡を極め、直接的原因とも見られる全國米穀商緊急大會の開催が遂に續いて行はれた從業員大會が遂に流血の慘事を見、検査者を出し、審議を遅延せしめたこと等は陰に働く縣米商の重要策の然らざるは、時々の自治管理案審議未了の縣米商功績は如何に偉大なるものであつたかが窮知するところである。

即ち先づ三月八日、仙臺公會堂に於ける東北米穀商大會に於ける出席本縣代表者の同縣知事訪問陳情の緊急動議は同大會の反對氣勢を燃え上がらせ、又押

立てた「血盟突進」打倒暴政の建旗は他縣代表の意表に出でて自熱的喝采を博した、歸青後直ちに同案反對運動の圓滑なる進展を計るため二月十八日は青森市及附近業者を一九とする東青米穀商組合聯合會を明けて十七日に北海道中部同業者大會を旭川に北海道中部同業者大會を催せしめた、又二月八日國技館に開催せられた全國米商大會に先立ち一月廿二日深川正米市場に於て行はれた全國米商大會評議員會には全國出席者二百名中本縣からは四十名の多數を送り本縣の主張貫徹に萬全を期した、全國大會開催後同案の運命尙我に非なりと見て全米聯合會を飛ばし十一月遂に緊急大會開催の頃から農倉並に産米商の實施促進運動が擡頭し米穀商に對抗するに、三月十一日には國技館に於ける米穀商緊急大會に對抗して青山青年會館には全國産業組合大會を開催した、青森縣に於て九日兩日に互り青森、弘前、八

戸三市に農民大會を開催した、大會の際には東青米穀商聯合會對面傳ビラを消費者に配布し、否兩様の運動は血みどろの双曲線を描いた。

然らば自治管理案とは如何なるものかを説明しよう、同案の起草は凡て米穀對策調査會に任せられたのであるが先づ幹事任の骨子は大體次の通りである。

一、政府は毎米穀年度、即ち十一月一日の米穀現在高から過去の消費見込高及び理想的持越高(政府は五百萬石を見込んで居る)を差引いて需給推算をなし、餘剰米がある時は、その餘剰米の範圍内で一定數量を定めて、内地、朝鮮、臺灣に割當てられた米穀を統制する機關を内地、朝鮮、臺灣に一定地區を區域として、米穀生産者地主(朝鮮に於ては舍音を含む)を以て組織する統制組合を設立しこれを以て自治的に統制せしめる。

尙販賣組合、農倉は統制組合の事務を代行することが出来る、貯蔵した米穀は最低價格を

商工—薬工品の移出—雑穀移出

相當程度(一割見當)値上りし... 認められない譯である。... 米商に與ふる影響を考慮する...

薬工品の移出

Table showing medicinal product exports by region (e.g., 北見, 網走, 古平, etc.) with columns for 昭和九年度 and 昭和八年度.

雑穀移出

Table showing miscellaneous grain exports by region (e.g., 北見, 網走, 古平, etc.) with columns for 昭和九年度 and 昭和八年度.

Table of grain export statistics (大豆, 小麦, etc.) comparing 昭和九年度 and 昭和八年度.

林檎の移出検査

昭和九年度に於ける苹果移出検査高は六百七千五百十六箱... 前年度に比較すれば二百八十...

昭和九年度苹果移出品別検査高(箱)

Large table detailing apple export inspection statistics by variety (e.g., 魁, キルソン, etc.) and grade (e.g., 特等, 一等, etc.).





商工—鹽賣上高—青森縣工業試驗場—清酒釀造業

所	九年度	前年比増
青森出張所	六六、二九〇	一五、九〇三
弘前出張所	四四、二九五	二〇、二九五
八戸同	三六、二三八	五五、八三六
黒石同	八四、三〇〇	五、二〇三
五所川原同	一六七、八八七	一四、一三三
三本木同	二四六、四三三	三三、二七九
田名部同	一六、六〇五	二、一四四
三戸同	一三九、五三八	一五、四八一
野邊地同	二二、八六四	五、八九五
軍隊	七三、三九七	三、〇六八
合計	二、四四四、九七三	一、九〇、一三四

鹽賣上高

仙臺地方專賣局青森出張所に管内に於ける昭和九年度中の鹽賣上高は數量一千七百六十九萬五千二百四十七キログラムで金は八十八萬三千四百五圓であつた、之を前年度に比較すれば數量では五十九萬七千七百六十三キログラムで金は四萬六千八百八十圓の著増となつたが之は同所では輸移入鹽中にも臺灣鹽の使用が普及を極力計つたのがその主なる原因である、元賣捌人別に賣上高を見れば次の通り(單位キログラム)

所	九年度	八年度
青森賣捌所	五、三九九	二、六三三
弘前同	二、七四四	一、三二五
西澤同	一、四三八	七、九二一
米澤英造	六、五一	三、七六六
南部賣捌所	三、一三三	一、五七九
三戸同	五、八	二、九八八
管北同	八、七三	二、六二五
山鹿賣捌所	一、二六四	四、九六七
北同	一、六二八	三、七〇〇
合計	一七、六二〇	八、七三三

青森縣工業試驗場

青森縣工業試驗場は大正十一年十月弘前市に設立され、機械部、染色部、化學醸造部、工藝指導部、庶務部は各々地方産業の向上發展に貢献する所甚大なるものがあつた次に事業概要を述べる

◇染色部  
染色技術の改善指導の積極策

家畜保存用 六、八四〇  
獸皮保存用 一、二〇〇  
計 八、〇四〇

清酒釀造業

昭和八年度の本縣清酒釀造はその質に於て益々向上し、全國酒類品評會に於ける入賞振りは新興名釀地としての聲價を示すもので將來は頗る輝かしいものがある、又縣酒造組合では清酒釀造の振はざる北郡、西郡、東郡に指導員を派し實地指導を爲し青森縣の酒釀造のレベルを全縣的に平均して引き上げるべく努めた

郡市別清酒釀造高

郡市	數量	價格
青森市	二、〇一一	二、一六、〇五三
弘前市	六、〇〇七	四、〇〇、五六〇
八戸市	一、四四四	一、二一、九六〇
東郡		

清酒釀造石數累年表

昭和	免許人員	製造場數
四年	九八人	九〇
五年	九七	九三
六年	九三	九三
七年	九三	九〇
八年	九〇	九〇

青森縣酒造組合は調査した清酒釀造石數は七酒造年度(昭和七年十月より八年九月)は五萬九千三百三十五石で八年酒造年度(八年十月より九年九月迄)は六萬三千九百二十三石で増加した

青森縣酒造組合

青森縣酒造組合は支部は東青、弘前、西郡、北郡、二北、八戸の六個所に置き、事務所を縣商工課に置いてゐるが役員は左の通り

- △組合長 宇野善造 △副組合長 福井富治 △東青支部長 西田市三郎、弘前支部長 佐藤清吉、西郡支部長 谷川清繁、北郡

商工

郡市別清酒釀造高—清酒釀造石數累年表—青森縣酒造組合—縣醬油同業組合

縣醬油同業組合

本縣醬油釀造業は凶作が反映して釀造量も減退したが青森縣醬油同業組合では九年には品質を中止、講習會を開催、一方工業組合組織問題が擡頭、相當具體化して來た、同組合の役員

郡市別醬油製造高

郡市	數量	價格
青森市	五、五五六	四、四四、二五
弘前市	一、四四〇	一、二二、六九〇
北郡	八、〇三六	六、九一、八四
南郡	一、〇六二	九〇、二七〇
中郡	一、〇六二	五七、三九〇
西郡	一、二二五	九五、六二五
東郡	四、九三四	三、八九、九二四
合計	五、五五四	五、〇四、八七一

製造場數

郡市	數量	價格
青森市	七六、五九	六、三九、五五
弘前市	七三、六八	六、二一、〇〇〇
北郡	六二、九三三	四、四八、五七〇
南郡	四四、一〇〇	三、五八、八八四
中郡	五九、五九四	五、〇四、八七一

支部長 三橋八之助、二北支部 長盛田喜平治、八戸支部長 駒井庄三郎、評議員 藤田久次郎、佐藤才八、川村東一郎、正井理一郎、長内長五郎、北澤清竹浪繁造、原田耕造、村井松三郎、中島清助、中村重藏、金澤一郎、幹事長 奥寺雄一、幹事 今慶吉、書記 畑信一

郡市別味噌釀造高

本縣味噌釀造業は凶作が反映して釀造量も減退したが青森縣醬油同業組合では九年には品質を中止、講習會を開催、一方工業組合組織問題が擡頭、相當具體化して來た、同組合の役員

- △組合長 宇野善造 △副組合長 福井富治 △東青支部長 西田市三郎、弘前支部長 佐藤清吉、西郡支部長 谷川清繁、北郡

郡市別醬油製造高

郡市	數量	價格
青森市	六、〇〇〇	六、〇〇〇
弘前市	二、八二〇	二、八二〇
北郡	七、七	七、七
南郡	三、二二	三、二二
中郡	四、〇六〇	四、〇六〇
西郡	一、七三四	一、七三四
東郡	一、六七	一、六七
合計	二九、五五四	二九、五五四

製造場數

郡市	數量	價格
青森市	二〇〇	二〇〇
弘前市	七、七	七、七
北郡	三、二二	三、二二
南郡	四、〇六〇	四、〇六〇
中郡	一、七三四	一、七三四
西郡	一、六七	一、六七
東郡	二、二二	二、二二
合計	一、〇五四	一、〇五四

支部長 三橋八之助、二北支部 長盛田喜平治、八戸支部長 駒井庄三郎、評議員 藤田久次郎、佐藤才八、川村東一郎、正井理一郎、長内長五郎、北澤清竹浪繁造、原田耕造、村井松三郎、中島清助、中村重藏、金澤一郎、幹事長 奥寺雄一、幹事 今慶吉、書記 畑信一

郡市別味噌釀造高

本縣味噌釀造業は凶作が反映して釀造量も減退したが青森縣醬油同業組合では九年には品質を中止、講習會を開催、一方工業組合組織問題が擡頭、相當具體化して來た、同組合の役員

- △組合長 宇野善造 △副組合長 福井富治 △東青支部長 西田市三郎、弘前支部長 佐藤清吉、西郡支部長 谷川清繁、北郡

商工—罐詰製造業—青森市の鮭鱈罐詰—青森罐詰製造同業組合—縣下木材業

下北郡	一、一三、六五五	五八、六四〇	四九七	四六九
弘前市	八、四三、三二一	一九〇、八二六	三、三〇〇	二四、八三〇
青森市	二、五五、〇〇〇	五五、〇〇〇	三、一〇〇	三、〇〇〇
八戸市	六〇八、七五三	五九八、八九三	三、九、九一九	三、九、九一九
合計	一、一七、六三三	二、二、一〇三	八、六〇〇	八、六〇〇

**罐詰製造業**

本縣の罐詰製造量は昭和八年に於て百三十七萬八千五百三貫、前年より著しく増加してゐる、郡市別に見ると

製造場数	製造價額
弘前市	二、〇〇〇
青森市	二、五五三、七八〇
八戸市	八三、五七四
西郡	一、〇六〇
北郡	一、六六〇
下北郡	一八、七五〇
計	二、六、八二四

**青森市の鮭鱈罐詰**

昭和九年中に於ける青森市鮭鱈罐詰製造量はレッド二萬八千三百三十六箱、シルバーク一萬九千四百五十五箱、計五萬二千九百九十一箱、製造所別の内訳を示すと左の通りである。

- ◆若井罐詰所  
レッド一八六箱、ピンク一九、四三一、計一九、六一七
- ◆坂上辰蔵  
レッド一三一、シルバーク一八、七九九
- ◆千葉罐詰所  
レッド五五、ピンク四、四二七、計四、四八二
- ◆大東食品株式会社

右の通りで全國四十九製造所のうち大東食品は五位、根市兼次郎氏は九位となつて居り、青森市全體としてもカムチャツカ及び北海道各地中の最高の製造量となつてゐる。

**青森罐詰製造同業組合**

青森市に事務所を置いてゐるが、役員は左の通り  
△組長 千葉傳藏 △副組長 若井由太郎 △顧問 角野七藏 △相談役 坂上五郎兵衛、若井由五郎、林兼商店(丸尾信一) △評議員 根市兼次郎、鈴木力藏、坂上辰蔵、三上圓太郎、山路政一

**縣下木材業**

青森縣は山林國として全國に著名で、山林總面積の約八割は國有林で、營林局が一貫したる施業案で經營してゐるので將來盡くする事を知らざるものがある。本縣産の主要木材を大別すれば、國有林たるひば材が大宗をなし、之に七千石の蓄積を擁し、之に次に南部赤松も莫大なるものがあり、此外從來利用されなかつた潤葉樹が營林局の官營製材所の増設によつて市場に雄飛し、本縣木材業を賑はす事とならう。縣下に初て木材業を營んでゐる者は數百名を算するが製材機を設備し營業してゐる業者は約百名位で動力は電力、水力、瓦斯、蒸氣利用等、總馬力二千五百餘馬力に及んでゐる、主要製材は本縣特産のひば材で、主要工場はひば材の製材によつてよく營業を繼續してゐると云つても過言に非ざるの狀態である、其他南部赤松、杉等、北洋材、米材は殆んど影を没した、尙販路は東京、北陸を主としてゐるが、數年來幾多の方法を以て宣傳した結果全國的に移出されて居り、滿

洲、臺灣等にも鐵道枕木として相當の需要を見てゐる、昭和九年の業界は北洋材の出荷統制による内地市場への入荷減並に外地の輸入激減によつて内地材の獨り舞臺の觀がある所へ、本縣にとつては對岸の函館大火災があつて木材の需要激増し又關西の風水害によつて材價が昂騰した爲に本縣の業界も久方振りて相當の景氣に惠まれた。

**青森縣製材業組合**

大正八年創立、縣下有有力なる製材業を網羅し現在組合員八十名、縣下業界の發達進展に努力し昨年度には内地材、青森杉の規格案を制定ひば材協会のひば材規格と相俟つて縣下生産の製材品全般に互る規格の統一を完成し更に製材品検査規程を定め正量、規格の検査を實施し好成績を擧げてゐる。更に昨年度に於ては組合員有志に依り大湊航空隊建築材料五千石、陸軍造兵廠杉板割二萬五千枚の納材を引受け大湊航空隊材料は完了を告げ、杉板割は納材中である。役員氏名左の如し。

△組長 秋田木材株式會社 青森製材所(谷内福之助) △副組長 弘前挽材會社(吉田三郎兵衛) △評議員 藤田組 青森製材工場 △大

**青森縣ひば材協會**

昭和七年一月創立特産ひば材取扱業者の無統制に依る難局打開に勇往邁進すべく青森營林局の絶大な指導の元に嚴重なる申合をなし業界の統制に努力し創設日淺きに不尙非常なる効果を擧げ其の統制の目的を達成し、昭和九年度の業績を擧ぐれば、協會の共同販賣事業を見ると九年度に於て鐵道ひば材の内納入済のものは二十一萬七千六百五十八挺で此の價格七十三萬八千五百七十七圓、官公衙其他納入した建築用材一萬七千九百四十二石、金額十六萬六千五百八十四圓に達した。更に特産ひば材宣傳ポスターを全國都市に於ては材需要府縣主要都市町村關係官公衙、材木商、土木建築業者へ配布し、長崎市開催の國際産業觀光博覽會にはひば材製品四十九點を出品する等事

業上業績の向上見るべきものがあつた。尙協會は昭和八年度以降各種積立金を蓄積してゐるが九年度末現在左の如くである。

森永製菓東北販賣會社では青森地方の需要量の多い所から青森市に製菓工場を設ける事になり、浦町驛前に九月四日より着工(總工費八萬二千八百八十八圓)、十一月十一日より操業を開始した、同工場はビスケット類の製造工場で一日六百貫の製造能力がある。

**鐵興社青森工場設置**

東京市に本社を置き、全國に六工場を持つ株式會社鐵興社で青森市浦町磨芥燒却場附近に第七工場を設置する事になり九月完成、操業開始したが、敷地は五千坪(内建物敷地九百坪)鋼材

**青森市卸賣物價**

青森市内に於ける主なる卸賣物價の累年比較は左の通りで昭和九年の物價を八年度に比較すれば調査商品三十品のうち騰貴した商品は梗白米を始め十三點、大豆の騰貴商品は梗白米、豚肉、緑綿、石炭等、下落商品も大豆、鰯節、牛肉等、保合商品は醬油、茶の二品で九年度の青森市内卸賣物價は大體昭和八年度と大差なかつた。

**商工—青森縣製材業組合—青森市卸賣物價**

青森縣ひば材協會—鐵興社青森工場設置—森永製菓青森工場

青森市物價表 (青森商工會議所調査)

Table of commodity prices in Aomori City from 1914 to 1927. Columns include commodity names (e.g., rice, oil, sugar), units, and prices for each year.

産業

本縣産業概観

本縣は本州の北端に位置する為、氣候比較的寒冷で、一年間の三分の一は積雪に蔽はれ、天恵頗る薄いけれども、面積は六百二十四方里餘にして、三面繞らすに海を以てし、海岸線の延長百七十餘里に達し、内には千古の森林、豊饒なる津輕平野、廣漠たる三本木平野を有し、外には太平洋、日本海の二海洋に臨んで、農、林、工業、畜産等著し、農業、工業、林業、畜産等著し、い發展を示して、居り、殊に水産にあつては、沿海、遠洋漁業の發展は著しく、縣産鮭鱈鱈鱈の貿易品として、世界市場に價値を占め、津輕地方の林業、青森市を中心とするヒバ材等の、その聲價全國に冠たるものがある、又津輕平野の米作は北海道の市場を歴し、

東京方面に進出してゐる、然し、概して本縣は寒冷の地なるが、故に屢々冷害凶作の打撃を受け、而も之に對する對策は未だ十分徹底普及されざる憾あるが、故に冷害を克服する爲には、一層の改善振興を圖る要がある、而して其生産額を見る迄は、常に一億圓を突破してゐたのであるが、昭和大正末期に至る迄は、常に一億圓を突破してゐたのであるが、昭和の初頭に至り、九千餘圓臺となり、同三、四年は又一億圓臺を示した、其後は物價低落等の關係から減少傾向となり、六年の如きは凶作の關係で、五千餘圓臺に低下し、七年に至り、八千餘圓臺に復し、更に八年度は豊作に依り、再び一億圓臺を示し、九十年三萬四千餘圓に達したが、九年度は又復冷害凶作に見舞れたので、相當の減少は免れぬ模様である。

二十ヶ年増産計畫

昭和九年の冷害凶作に遭遇し、東北六縣は、數度の六縣知事會議に於て、凶作の一時救済の外、恒久的施設を以て、東北地方の更生を圖らねばならぬとなし、案は二十ヶ年増産計畫の概括的案として、其後右計畫の第一、二次十ヶ年増産計畫とし、五年の同一標準に於て計數し、十年の月の地方官會議を機に、六年提出した、而して、青森縣より提出した、右十ヶ年計畫は、左の通りで、十年四月十三日の課長會議で決定したものである、即ち現産額四千八百萬圓を十ヶ年後に二億四千八百萬圓とするものである。

八年度總生産額

本縣に於ける昭和八年度總生産額は、一億六千三百八十七萬三千圓で、農産物は四千六百七十三萬圓、林産物は一千九百四十九萬圓、畜産物は七百六十九萬圓、工業生産物は七百六十九萬圓、礦産物は七百六十九萬圓、其他は七百六十九萬圓である。

本縣郡市別生産物總額 (昭和八年)

Table showing total production by municipality in Aomori Prefecture for 1923. Columns include municipality names (e.g., Aomori City, Aburatsubo, etc.) and total production values for various categories like agriculture, industry, and livestock.



管區別	一等米	二等米	三等米	四等米	五等米	計	等外米	檢査總數	受檢者數
東	八、三三八	六、四二五	二、八〇七	一、九七九	一、一八〇	一、九七九	一、九七九	八、七三三	五、九七四
中	四、八五三	三、五九七	一、九七九	一、一八〇	一、一八〇	一、九七九	一、九七九	七、七三三	三、三〇四
西	三、五九七	二、八〇七	一、九七九	一、一八〇	一、一八〇	一、九七九	一、九七九	四、八五三	二、一〇五
南	二、八〇七	一、九七九	一、一八〇	一、一八〇	一、一八〇	一、九七九	一、九七九	三、五九七	一、一八〇
計	一九、六七六	一四、三〇八	七、七三三	五、一八〇	三、五九七	一九、六七六	一九、六七六	二四、九	一〇、五七〇

### 昭和九年米實收高比較表

郡市別	本年	前年	増減
東	一、五九七	一、五九七	〇
中	一、五九七	一、五九七	〇
西	一、五九七	一、五九七	〇
南	一、五九七	一、五九七	〇
北	一、五九七	一、五九七	〇
計	一、五九七	一、五九七	〇

### 町村別内譯 (本社調査)

町村名	本年	前年	増減
東	一、五九七	一、五九七	〇
中	一、五九七	一、五九七	〇
西	一、五九七	一、五九七	〇
南	一、五九七	一、五九七	〇
北	一、五九七	一、五九七	〇
計	一、五九七	一、五九七	〇

### 町村別内譯 (印八減收ヲ表ス)

町村名	本年	前年	増減
東	一、五九七	一、五九七	〇
中	一、五九七	一、五九七	〇
西	一、五九七	一、五九七	〇
南	一、五九七	一、五九七	〇
北	一、五九七	一、五九七	〇
計	一、五九七	一、五九七	〇

### 産米検査数量等級別調 (昭和八年産米年度)

管區別	一等米	二等米	三等米	四等米	五等米	計	等外米	檢査總數	受檢者數
東	八、三三八	六、四二五	二、八〇七	一、九七九	一、一八〇	一、九七九	一、九七九	八、七三三	五、九七四
中	四、八五三	三、五九七	一、九七九	一、一八〇	一、一八〇	一、九七九	一、九七九	七、七三三	三、三〇四
西	三、五九七	二、八〇七	一、九七九	一、一八〇	一、一八〇	一、九七九	一、九七九	四、八五三	二、一〇五
南	二、八〇七	一、九七九	一、一八〇	一、一八〇	一、一八〇	一、九七九	一、九七九	三、五九七	一、一八〇
北	一、九七九	一、一八〇	一、一八〇	一、一八〇	一、一八〇	一、九七九	一、九七九	二、八〇七	一、一八〇
計	一九、六七六	一四、三〇八	七、七三三	五、一八〇	三、五九七	一九、六七六	一九、六七六	二四、九	一〇、五七〇

### 産米検査数量等級別調

管區別	一等米	二等米	三等米	四等米	五等米	計	等外米	檢査總數	受檢者數
東	八、三三八	六、四二五	二、八〇七	一、九七九	一、一八〇	一、九七九	一、九七九	八、七三三	五、九七四
中	四、八五三	三、五九七	一、九七九	一、一八〇	一、一八〇	一、九七九	一、九七九	七、七三三	三、三〇四
西	三、五九七	二、八〇七	一、九七九	一、一八〇	一、一八〇	一、九七九	一、九七九	四、八五三	二、一〇五
南	二、八〇七	一、九七九	一、一八〇	一、一八〇	一、一八〇	一、九七九	一、九七九	三、五九七	一、一八〇
北	一、九七九	一、一八〇	一、一八〇	一、一八〇	一、一八〇	一、九七九	一、九七九	二、八〇七	一、一八〇
計	一九、六七六	一四、三〇八	七、七三三	五、一八〇	三、五九七	一九、六七六	一九、六七六	二四、九	一〇、五七〇

管區別	一等米	二等米	三等米	四等米	五等米	計	等外米	檢査總數	受檢者數
東	八、三三八	六、四二五	二、八〇七	一、九七九	一、一八〇	一、九七九	一、九七九	八、七三三	五、九七四
中	四、八五三	三、五九七	一、九七九	一、一八〇	一、一八〇	一、九七九	一、九七九	七、七三三	三、三〇四
西	三、五九七	二、八〇七	一、九七九	一、一八〇	一、一八〇	一、九七九	一、九七九	四、八五三	二、一〇五
南	二、八〇七	一、九七九	一、一八〇	一、一八〇	一、一八〇	一、九七九	一、九七九	三、五九七	一、一八〇
北	一、九七九	一、一八〇	一、一八〇	一、一八〇	一、一八〇	一、九七九	一、九七九	二、八〇七	一、一八〇
計	一九、六七六	一四、三〇八	七、七三三	五、一八〇	三、五九七	一九、六七六	一九、六七六	二四、九	一〇、五七〇





園藝農産物果實 (昭和九年)
Table with columns for product types (e.g., 芋, 蒟蒻, 根), quantities, and prices. Includes a total '計' row at the bottom.

郡市別
Table showing prices for various crops (e.g., 梅, 桃, 櫻桃, 李, 日本梨, 西洋梨, 生柿, 葡萄, 榴槤) across different prefectures (e.g., 昭八, 三戸, 下北, 上北, 南, 中, 西, 東, 八戸, 青森, 弘前, 市).

菜種の栽培普及

菜種油は工業用として需要年々増加し居るが近年に至り鐵精錬に極めて重要な油である事...

較すれば左の通り。
昭五 昭六 昭七 昭八 昭九
同 同 同 同 同
九 八 七 六 五

農事試験場

年東郡新城村に初めて設置され田畑作物の栽培試験を主として行つて来たが、大正二年現在の南郡黒石町(元郡立農學校跡)に移轉し、其の間開墾試験、米麥雜穀等の品種改良並に原種圃、果樹試験、貯蔵加工試験、施肥標準調査、技術練習生の養成、温室試験、蔬菜改良採種試験等の事業擴張を漸次行ひ今日に至つた。十年度は五月下旬更新の場員敷名を新採用して、試験事業を追増する筈であるが、既に決定せる九、十年度の同場に於ける事業は左の通りである。

を以て主として早生種及耐肥性の優良品種を育成せんとす
同五戸分場
大正元年一月三戸郡八戸町に設置せられ八戸分場と稱し主として種藝に關する諸試験に従事したりしが、大正十一年四月五日町に移轉し從前の試験を繼承す。外型大正十二年より雜穀は小麥原種圃、昭和三年度には園藝試験、昭和五年度には陸稻原種圃等擴張せられた。昭和九年年度事業は左の通りである。

九年度事業
◇種藝部 △水稻、品種に關する試験、豊凶考照試験、耕種栽培に關する試験、水田綠肥に關する試験、大豆、馬鈴薯、小麥、菜種其他重要畑作物に關する試験、優良品種の普及を圖るため水稻原種圃及重要畑作物の原種圃を經營し、この生産種苗は町村及町村農會原種圃として無償配布し、以て其の普及を圖りつつある。△委託試験 縣内十六ヶ所に對し水稻及畑作物の委託試験を行ひ品種適否及稻熱病に關する試験を施行しつゝある。

△小麥の萎縮と品種との關係試験
△稻苗腐敗病に關する調査
△病害虫に關する調査
研究
を加へ、新規事業として左の如きものを行ふことになつた。△西郡木造町及下北郡田名部町に試驗地を新設し、専門の職員一名を置いて當地方の田畑作物の冷害防止の試驗地を新設し、専門職員五名を以て田畑作物の育成及栽培に關する試験研究を行ふ。△昭和九年の冷害被害地を夫々田四町歩、畑二町歩の試作地を設け、水稻及畑作物の適用品種の檢定及び同地方の改良上必要な試験を行ふ。△九年の冷害被害地は一般に田畑作物の優良品種を改善する爲に三町八反歩、畑二町六反歩の原種圃を新設し、優良品種の普及を圖らんとす。△畑作物の改良上地力の増進を圖るに必要なる綠肥採種圃一町歩を新設し、優良品種の普及を圖らんとす。△冷害被害地外の大小豆の改良を圖るため種配付を行ひ、歩を設置し優良品種の配付を行ひ、此の普及を圖らんとす。△稻作の改良上優良なる新品種を育成するため供試反別六反歩

二二五五



法と發病との關係試験、稻熱病と排水時期との關係試験、品種比較試験並風土感應測定連絡試験、品種豫備試験、人工交配並純系淘汰、獎勵品種決定試験、品種保存栽培、調査研究事項（水稻葉數調査、水田利用差に關する調査、泥負蟲驅除に關する調査、水稻運植に關する調査、本田除草時期に關する調査、肥料施用方法に關する調査）水稻原種栽培及配布、B普通畑作に關する試験、陸稻に關する試験、原種比較試験、品種比較試験、品種豫備試験、品種保存、農林省指定陸稻試驗地育成新品種比較試験、陸稻風土感應測定試験、陸稻追肥試験、陸稻早害豫防試験、食鹽醬油粕施用法試験、調査研究に關する事項（石灰窒素使用法に關する調査）大豆に關する試験、原種比較、品種比較、品種豫備、豐凶考照、大豆播種法と摘心に關する、大豆選種に關する各試験、品種保存、大豆心喰蟲被害粒大豆中耕に關する調査、△小豆に關する試験、△稗及粟に關する試験、△馬鈴薯に關する試験、品種比較並追肥試験、畦幅株間本數試験、有機質及無機質肥料の單用並配合に關する試験、馬鈴薯粗皮病豫防並に褐色心腐病豫防試

處の結果として一畝二千九百二十六萬三千餘貫、六百六十一萬を收めた。

蘋果收穫高 (昭和九年)

郡市別	植付段別	樹數	收穫高	價	格
弘前市	町	113,000	4,000,000	9,000	圓
青森市	町	11,100	1,712,500	6,900	圓
八戸市	町	151,300	1,997,300	4,230	圓
東八戸郡	町	93,700	1,444,400	2,790	圓
西八戸郡	町	93,700	1,444,400	2,790	圓
中八戸郡	町	93,700	1,444,400	2,790	圓
南八戸郡	町	93,700	1,444,400	2,790	圓
北八戸郡	町	93,700	1,444,400	2,790	圓
上北郡	町	93,700	1,444,400	2,790	圓
下北郡	町	93,700	1,444,400	2,790	圓
三戸郡	町	93,700	1,444,400	2,790	圓
昭和八年	町	2,279,200	28,792,000	12,636	圓

林檎加工品の研究

本縣の林檎生産額は年々増大し全国的にも冠たるものがあるがそれに伴つて屑林檎も非常に多く而も屑林檎は移出品としては全く無價値なもので従來は捨値で處分されてゐたものである。従つて此の屑林檎の處分に付ては各方面に於て種々考究されてゐるが最近屑林檎の加工研究が盛んになり既に立派に完成したのもあつて之等の加工研究の

青森縣農會

農會法改正後の最初の農會總代選舉は三月二十四日三ヶ町村農會中四月一日に二十一ヶ町村を

農會總代選舉

農會法改正後の最初の農會總代選舉は三月二十四日三ヶ町村農會中四月一日に二十一ヶ町村を

青森縣農會

青森縣農會は青森市大字大野字長島にあり農村指導の最高團體である、十年度豫算總額は五萬一千八百七圓にして本年度施行せんとする事業は次の通り

肥料

本縣の林檎は全国的に名譽を博してゐるだけあり當業者不斷の努力は優良品を全國市場に供給し縣また試験場その他研究指導機關を充實し専ら改善發達に資してゐるので氣候のため或は病蟲害の被害の爲その年に依つて豊凶を免れずと雖依然として他の企及し得ざる好成绩を收めてゐる、而も縣管検査を實施して以來市場に於ける信用一層高まり、出荷統制施設と相俟つて益々販賣にも順調を來した、今收穫高を見ると昭和三年六百七十八萬七千餘貫、五百五十萬圓を算したが翌四年は五百萬圓を割り、五年には四百萬圓を一寸出ただけで六年には三百十九萬圓臺に下る結果を見、當業者の失望少なからざるものあつたが、それに屈せず七年度には四百十四萬圓を擧げ更に八年を受けたがそれに拘らず千五百二十八萬餘貫、五百十三萬二千餘圓となり昭和九年度に至り暴風雨の打撃を受けたが當業者の善

肥料

農家と肥料は經濟上頗る重要

なる關係を有するが本縣にあつては津輕方面は殆んど飽和状態にあり施肥の合理化が緊要とされ、南部方面では大豆粕施用の合理化が第一の要點と見られてゐる、南部方面は津輕方面に比較し肥料施用は未だ合理化されてゐない観がある、即ち肥料施用の歩みは肥料知識に乏しき場合、単用肥料を施すことより進んで調合肥料を使用するやうにな

り更に進んで理想としては単用肥料を配合施肥することにあつて、縣ではこの方針に依つて施肥の方針となし津輕地方はこの理想に近づきつつあるも、南部方面は調合肥料時代にある、要するに農家の苦痛とするところは肥料資金の調達である關係から、縣では堆肥の普及奨励に力を注ぎ、又緑肥の使用を指導してゐるが、堆肥は相當普及されたが縁

肥は思はしい成績を擧ぐるまでになつて居らぬ、而して凶作明けの十年度は自給肥料に著しい不足を來してゐるので、縣では緑肥に依る自給肥料の増産計畫に主力を注ぎ、又堆肥の改良増産を計り、以て恒久的に肥料の不足を補ふべき第一歩を踏み出す事になつた、即ち八年中の実績に徴するも、緑肥は百十六町歩に徴されただけである、人糞尿、厩

肥及び堆肥家畜糞類、草木灰、葉糞類等生産肥料の消費高は二億五千三百四十六萬五千餘貫、價格四百五萬三千六百二十五圓である、又販賣肥料消費高は魚肥類六十三萬三千餘圓、大豆粕六十二萬四千餘圓、磷酸肥料類四十八萬四千餘圓、石灰窒素三十二萬九千餘圓合計二百八十五萬六千餘圓である。

販賣肥料消費高 (昭和八年)

肥料種類	弘前	青森	八戸	東郡	西郡	中郡	南郡	北郡	上北	下北	三戸	計
魚肥	九〇	二四六	五、一六〇	七、八七三	二、七六六	七六、五三三	二〇三、四九四	四七、一三一	九六、〇五九	五、一〇三	一〇三、六九九	六三三、〇九三
磷酸肥料	六六	六四四	一六、三六四	四、四二二	六六、九八一	八三、二〇四	三三、七六六	一四八、〇八九	九、九三三	八三、七七八	四八四、三〇〇	四、一六七
大豆粕	四〇〇	二、四八〇	七、四〇〇	一三、五九三	一八、四五一	五七、四七五	二七、三三〇	四九、九八三	二六四、二七五	五、五六六	六三四、四三三	三、七三〇
油粕	一〇〇	一、一五〇	三、五〇〇	一、二二二	四、四二二	四、四二二	九、九八三	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇
硫酸安母尼亞	一〇〇	一、一五〇	三、五〇〇	一、二二二	四、四二二	四、四二二	九、九八三	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇
石灰窒素	二四〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇
加合肥料	六〇〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇
調合肥料	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇
其他	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇
計	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇

生産肥料消費額 (昭和八年)

郡市別	数量	價格	数量	價格	数量	價格	数量	價格	数量	價格	数量	價格
弘前市	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇
青森市	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇
八戸市	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇
東郡	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇
西郡	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇
中郡	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇
南郡	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇
北郡	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇
上北郡	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇
下北郡	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇
三戸郡	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇
計	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇

肥料製造高 (昭和八年)

肥料種類	数量	價格	数量	價格	数量	價格	数量	價格	数量	價格
魚肥	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇
磷酸肥料	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇
大豆粕	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇
油粕	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇
硫酸安母尼亞	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇
石灰窒素	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇
加合肥料	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇
調合肥料	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇
其他	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇
計	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇	一、一五〇



蠶桑多收穫競技會——青森縣蠶桑多收穫競技會審査成績

蠶桑多收穫競技會

本社主催青森縣蠶業組合後授の蠶桑多收穫競技會は本社一萬五千號を記念して昭和九年春蠶より開催した、参加者は五十名で小林審査長以下審査に當

り其の結果五戸町平七兵衛氏は反當生絲量二貫七百六十二匁をあげ、本會の目標たる二貫八百匁に今一息の成績をあげた事は、縣養蠶業の將來に大なる光明を與へたものである、而してこれが褒賞授與式は安井内務部

勝旗を授與其他副賞の授與あり山田會長式辭、黒木全國養蠶業組合聯合會長、安井縣養蠶業組長、縣養蠶會社福岡工場の祝辭、受賞者代表平氏の答辭あり四時閉式した審査成績左の通り

青森縣蠶桑多收穫競技會審査成績

Table with columns: 組合名, 参加者氏名, 桑園反別, 段當收葉量, 蠶品種名, 蟻量, 上滿, 總收滿, 段當收滿量, 上滿, 總收滿, 段當收滿量, 絲量, 絲歩, 對一時間綵絲量, 位順. Rows list various participants and their performance metrics.

Table with columns: 産業, 青森縣蠶桑多收穫競技會審査成績. Lists participants from various locations like 西目野, 浦野, 鳥目, etc., with their respective scores and rankings.



産業

九年度冷害救済地關係農業土木事業費割當... 青森縣耕地整理協會の活動

二六六

右の二年量開墾事業は昭和七年九月から始まり十年三月を以て全部終了した、この開田總面積は二八三八〇二七開畑總面積は一、〇三一八四、〇七で總事業費は四四、一四八、〇八三圓である。

九年度冷害救済地關係農業土木事業費割當種類別

Table showing agricultural and civil works expenses for 1938, categorized by project type like '事業の種類' and '事業費'.

九年度冷害救済地關係農業土木事業費割當

Table showing regional distribution of expenses for 1938 across districts like 東郷郡, 西郷郡, etc.

十年度冷害救済地關係農業土木事業費割當種類別

Table showing agricultural and civil works expenses for 1939, categorized by project type.

十年度冷害救済地關係農業土木事業費割當

Table showing regional distribution of expenses for 1939 across districts.

青森縣耕地整理協會の活動

九年度の冷害凶作に付き協會は特に九月二十八日の縣下耕地

事業者大會並第五回總會に際し全縣下各町村長の參加を求め、積極的の開墾助成、用排水幹線改良事業及凶作對策としての耕地擴張改良事業の恒久並應急の施設を縣並に政府に要望するのとを決議し、大いに氣勢を揚げ、の實行委員二十五名を設けて、事務次官、山崎農林大臣の來縣を機として耕地改良擴張事業の重要なることを力説し、政府の援助を求め、一方、政府の十年度豫算計上に際しては東北五縣耕地協會及帝國耕地協會と連絡をとつて、耕地事業の助成を望むに目覚しい活躍をなした。

林業

本縣はその名の如く森林縣である、林野面積六十七萬町歩にしてそのうち約四割は未利用の状態に置かれてあるが、森林地帯には千古斧鉞を入れざるを得ない美林がある、津輕ヒベ林の如きは日本三大美林の一に數へられ優良材を年々多量に産し、國家財政涵養の資に供せられて伐採せられる雑木も少なくないが御料林も國有林も伐採跡地に造林適地に對し年々造林植栽を行つておるのであるが、また山下村民を潤はすこと少くない、本縣下の御料地は九百五十筆、三萬二千六百九十九町歩で、内林地は二萬三千八百二十四町歩、山林一萬八千五百餘の植栽を行ひ、薪炭材一萬七千六百四十九石、國有林は供用林三十九萬九千七百六十二ヘクタール、保安林一萬七千四百六十二ヘクタール、部分林三千七百八十七ヘクタールで立木及副産物賣拂代は三十九萬三千四百五十圓、斫伐製品賣拂代は三十三萬二千六百六圓となつてゐる、又公私有林の伐採は三千六百三十町歩に互り百六十六萬四千六百六圓となつてゐる。

縣行造林施行狀況調 (反以下省略)

Large table showing forestry implementation status by town (町) and year (年) from 1934 to 1939, including columns for '計' (Total) and '植栽面積' (Planting Area).

炭窯構築補助交付

時局巨災救済農業土木事業中昭和九年度炭窯構築補助として本縣に對し農林省より割當てられた八千六百七十町歩を左の通り八千六百七十町歩を割當交付した。

Table showing the number of personnel (人員) and amounts (金額) for charcoal kiln construction subsidies across various towns.

國有保安林

青森縣林務局管内の國有保安林は昭和九年末現在に於て二百四十一個所、面積三萬四千四百九十三町歩で七年末現在に比較すると面積では五十六町歩の増加となつた、このうち青森縣内の國有保安林は六十一個所一萬一千五百九十七町歩でそのうち砂防林は六割五分の最高で防風林、防

Table showing changes in forest types like '魚附林', '防砂林', '魚源涵養' between 1938 and 1939.

木炭縣營検査問題

縣では林務検査實施に次いで木炭の縣營検査を斷行し規格の統一、販路擴充の爲め遺憾なきを期すべく大體の方針を定め、まず中央市場に多量の木炭を移出し居る三戸郡木炭同業組合に交渉したところ同組合としては既に検査を實行し相當成績を挙げ居るを以て縣營検査を實施すれば二重の検査となるべくその必要を認めずと反對の意を表明したので縣營木炭検査も此處に

産業 - 縣行造林施行狀況調 - 國有保安林 - 木炭縣營検査問題 - 炭窯構築補助交付

二六七

計	林用種										合計	
	造樹	樹皮	實子	樹皮	草蓆	茸	葵	炭類	薇	草		芋類
弘前市	44											
八戸市	2,045											
東郡	2,045											
西郡	1,755											
中郡	1,755											
南郡	1,755											
北郡	1,755											
上北郡	1,755											
下北郡	1,755											
三戸郡	1,755											
合計	11,110											

計	林用種										合計	
	造樹	樹皮	實子	樹皮	草蓆	茸	葵	炭類	薇	草		芋類
八戸市	8,350											
東郡	8,350											
西郡	8,350											
中郡	8,350											
南郡	8,350											
北郡	8,350											
上北郡	8,350											
下北郡	8,350											
三戸郡	8,350											
合計	50,100											

國有林野立木及副産物賣拂 (昭和八年)

計	林用種										合計	
	造樹	樹皮	實子	樹皮	草蓆	茸	葵	炭類	薇	草		芋類
八戸市	10,862											
東郡	10,862											
西郡	10,862											
中郡	10,862											
南郡	10,862											
北郡	10,862											
上北郡	10,862											
下北郡	10,862											
三戸郡	10,862											
合計	65,418											

國有林野立木及副産物賣拂 (昭和八年)

計	林用種										合計	
	造樹	樹皮	實子	樹皮	草蓆	茸	葵	炭類	薇	草		芋類
八戸市	10,862											
東郡	10,862											
西郡	10,862											
中郡	10,862											
南郡	10,862											
北郡	10,862											
上北郡	10,862											
下北郡	10,862											
三戸郡	10,862											
合計	65,418											

青森營林局成績

Table with 2 columns: 類別 (Category) and 合計 (Total). Rows include 薪炭材, 薪炭材, 薪炭材, 薪炭材, 薪炭材, 薪炭材, 薪炭材, 薪炭材, 薪炭材, 薪炭材.

御料地伐採 (昭和八年)

一、國有林に屬する分△九年度更新面積六、七七六ha此經費總額一八一、六一七圓△將來の事業、年々約七、〇〇〇を更新する見込△十年度經費豫算二一九、三三四圓

分△九年度撫育面積五、〇九四方△經費總額二三、一四五圓
八、國有海岸砂防設備に屬する分△九年度補修事業費四一、四八二圓

八一圓で事業分量は左の通り
薪炭材 三三、四九二立方米
薪炭材 二、八六八立方米
薪炭材 七、二九〇立方米

Table with 2 columns: 類別 (Category) and 合計 (Total). Rows include 鐵道新設, 鐵道同, 鐵道同, 鐵道同, 鐵道同, 鐵道同, 鐵道同, 鐵道同, 鐵道同, 鐵道同.

青森縣山林會

青森縣山林會は縣廳農務課内に事務所を置き林業全般に互に獎勵指導を行つてゐるが十年度に於ては

工業

本縣の工業は材料の豊富なりと努力また充分なるに依り發達すべき條件を具備すると雖も事實はこれと相反し進歩遅々たるものがあるが、昭和八年より軍需工業の旺盛、經濟活況の影響が漸次本縣にも浸透し活況を呈して來た、之を産額から見ると(單位千圓)

に至り經濟界の好轉に依り再び増加の傾向を示し昭和八年に至つては從來の最高であつた大正十三年の三千五百八十八萬五千圓を遙かに突破し本縣最初の記録三千四百四十九萬三千圓を示してゐる、八年度の主な工業産品を摘出すれば(單位千圓)

帝室林野局東京支局野邊地出張所

上北郡野邊地町にあり上北下北兩郡及び縣下各地に散在する御料地の管理經營と未立木地の植栽事業が重要事業となつてゐるが九年度に於ける事業は植栽面積一、〇五七ヘクタール、手入面積三、九四二ヘクタール、間伐

面積一、四六五ヘクタール、徑路延長三四、七七三米、此の所要經費九七、八二七圓、收入方面では立木處分材積六、〇三一立方米、田畑貸地面積一、五七〇町歩、此の收入二〇、〇二五圓である、十年度豫算は歳出九七、〇〇〇圓歳入一八、〇〇〇圓でその計畫の主なるものは植栽面積七六四ヘクタール、手入面積四、九五六ヘクタール、間伐面積一〇三四ヘクタール、徑路延長六四、〇〇〇米である、又凶作救済事業として薪炭材無償下附四四八立方米一九、二五六、貸地料減免額は九年度一年分で一四、四四五圓、土地拂下代延納額九、十兩年度分で六〇、九五〇圓、間伐面積一四三ヘクタール、造林準備地積面積四、〇七四ヘクタールである、尙未立木地の植栽事業は昭和十一年度を以て大體終了する筈で、完了の曉は造林面積一五、七〇〇町歩となり、將來は之が手入間伐の事業を行ふ事になつてゐる、而して植栽樹種は主に松類で十年後には毎年約千五百町歩を開伐する事となつて居り、之より生ずる用材は毎年十五萬石以上になる見込であるが目下津輕地方に於ける苹果箱の資材不足を將來は多少緩和出来るものと見られてゐる。

帝室林野局東京支局野邊地出張所

右の通りで昭和四年頃迄漸増傾向を示してゐた工業産物は四年以降漸減してゐるが昭和七年





の通りである。産業者

△海外方面  
△投石施設個所三十ヶ所、割當面積七萬四千坪、石三百七十萬五千貫に對し面積八萬六千九百五十坪石五百五十八萬八千七百貫實施。  
△海苔、コンクリート面築設施設個所三ヶ所、割當面積七百五十坪に對し一千六百五十五坪實施。  
△築磯施設個所五ヶ所、割當船十五隻に對し二十二隻實施。  
△陸奥灣方面  
△帆立貝施設個所十二ヶ所、割當面積十三萬八千坪に對し二十三萬九千八百坪實施、此の精算額八千四百圓で稚貝四千一百

萬七千個蒔付。  
△赤皿貝施設個所十一ヶ所、割當面積二萬二千坪、石三十三萬貫に對し面積三萬三千九百坪、石百二十三萬四千六百貫實施、此の精算額五千四百九十五圓。  
△築磯施設個所八ヶ所、割當面積二千三百七十七坪、船三十隻に對し面積二千三百八十坪、船二十九隻實施、此の精算額六千二百五十六圓。  
△十年度計畫 冷害救済事業費として、投石築磯事業五萬一千圓（國庫補助二萬五千五百圓）割當られたが縣では之を増殖五ヶ所計畫の第二年度事業として外海四十ヶ所三萬圓、灣内二十六ヶ

ヶ所二萬一千圓を割當て外海の方は四十組合に左の如く割當を決定した、尙灣内の方は一括して陸奥灣漁業組合聯合會に交付し同會では二十六組合に割當て決定した。

五〇△奥平部七五〇△袋月七五〇△大泊七五〇△月屋七五〇△横磯七五〇△森木六〇〇△北金ヶ澤六〇〇△風合七五〇△差八〇〇△小泊七五〇△大久喜七五〇△小舟渡七五〇△泊七五〇△計二六、六五〇

△岩崎六〇〇△黒崎外二ヶ字六〇〇△大間越六〇〇△計一、八〇〇

△深浦七五〇△大蛇八〇〇△計一五五〇△合計三〇、〇〇〇

水産業者

(昭和九年末現在)

郡市別	本業				副業				計			
	漁撈	養殖	製造	製造	漁撈	養殖	製造	製造	漁撈	養殖	製造	製造
青森市	一五五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
弘前市	九三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
八戸市	一、九三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
東郷郡	一、九三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
西郷郡	一、九三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
中郷郡	一、九三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
南郷郡	一、九三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
合計	一、九三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

昭和三十八年

郡市別	本業				副業				計			
	漁撈	養殖	製造	製造	漁撈	養殖	製造	製造	漁撈	養殖	製造	製造
青森市	四五四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
弘前市	五五四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
八戸市	三、四四三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
東郷郡	一、四四三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
西郷郡	一、四四三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
中郷郡	一、四四三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
南郷郡	一、四四三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
北郷郡	一、四四三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
下北郡	一、四四三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
上北郡	一、四四三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
合計	一、四四三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

水産業の成績 (昭和八年)

郡市別	本業				副業				計			
	漁撈	養殖	製造	製造	漁撈	養殖	製造	製造	漁撈	養殖	製造	製造
青森市	一、三五八、三七一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
弘前市	三、八三八、九六六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
八戸市	一、〇六八、九一八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
東郷郡	七〇三、〇九六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
西郷郡	三、七四五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
中郷郡	一、〇二六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
南郷郡	二六、一三九	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
北郷郡	七六〇、〇一八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
下北郡	二、一五七、五六二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
上北郡	二、一五七、五六二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
合計	一〇、一三九、五〇三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

主要海産物 (昭和八年)

鮭	八九七、五九〇 円
鱈	六、五二九 円
鮪	三、四九九 円
柔魚	一、〇四一、八九九 円
鮑	五五四、二六七 円
帆立	二七、八〇三 円
海鼠	二、七二五 円
鯨	一 円
昆布	三、五八、三四七 円
恵胡	七六、〇六〇 円
石花菜	五、五七五 円

水産業の成績—主要海産物

二七五

Table of main aquatic products and their prices by region (Shohei 8th year). Columns include regions like Iwate, Aomori, Ibaraki, Chiba, etc., and rows list various products like fish, shellfish, and their market prices.

青森丸竣工
縣水産會が十六萬七千圓の建設費を以て東京市石川島造船所に依頼した遠洋漁業指導船は昭和九年七月廿一日起工、十一月二十日進水式を挙行し青森丸と命名、その翌日より機装にかかり新湯デーセルに於て機關の設備をなし十二月二十四、五の兩日試運轉を行った結果極めて良好で同二十七日縣で一切の引渡手續を了し、昭和十年一月十日より三浦三崎を根據地に小笠原諸島、伊豆七島を中心として二月二十杯船漁場の調査を行ひ三月二十

大畑分場所屬指導
縣立水産試験場では豫て下北郡沿岸、津輕海峡の沿岸漁業指導のため大畑分場所屬の試験船建造の計畫を樹て縣水産會では一萬七千圓で十九噸五十馬力の小型指導船を建造する豫定であつたところその後十九噸では餘り小過ぎると云ふので種々考慮した結果四十噸馬力に計畫を變更し建造費も二萬五千圓に増額と決定した、本船は十年七月頃迄に完成の見込みであるがこの指導船は津輕海峡の海洋調査並に漁況調査をなし從來不振であつた下北郡の沿岸漁業獎勵に努めるものである。

漁業資金保證
漁業振興策として縣では十年度から向ふ三ヶ年間に漁船運搬船建造、冷蔵庫、貯水庫、共同倉庫、共同販賣所、共同製造場等の建設に對し低利資金を融通し五十萬圓迄は縣で保證する旨昭和九年の通常縣會で決議したが貸付方法並に償還方法は左の如くで初年度は約三十萬圓を貸付する豫定である。一、年利六分以内で二ヶ年据置十ヶ年々賦償還とす

青森縣水産試驗場
記事務行ふがこれ等に使用する指導船は青森丸(本場)東奥丸(本場)瑞鷗丸(深浦分場)の他に新に新船を建造してこれを大畑

小河原沼増殖計畫
上北郡小河原沼漁業組合聯合會では小河原沼に公魚(ワカサギ)鰍、鮒の増殖を圖るべく五年計畫を樹て縣水産試験場で之の援助を與へる事になつたが此の増殖計畫は主として公魚の増殖で現在十九個よりない孵化槽

青森縣水産試驗場
記事務行ふがこれ等に使用する指導船は青森丸(本場)東奥丸(本場)瑞鷗丸(深浦分場)の他に新に新船を建造してこれを大畑

産業—縣立水産試験場陸奥灣分場建設

分場に配属することになつてゐる。
(イ) 鮭釣漁業
(ロ) 鮭釣漁業
(ハ) 鮭釣漁業
(ニ) 鮭釣漁業
(ホ) 鮭釣漁業
(ヘ) 鮭釣漁業
(ト) 鮭釣漁業
(チ) 鮭釣漁業
(リ) 鮭釣漁業
(ニ) 鮭釣漁業
(ホ) 鮭釣漁業
(ヘ) 鮭釣漁業
(ト) 鮭釣漁業
(チ) 鮭釣漁業
(リ) 鮭釣漁業

陸奥灣漁業組合聯合會
陸奥灣漁業組合聯合會では昭和九年度から五年計画を以て
陸奥灣内の増殖計画を實施し、
九年度は二萬四千圓の經費を以て
二十七組合總面積十六萬坪に
對し、帆立貝、赤血貝、海鼠、磯
魚を豫定通り施行したが、第二
年度増殖計画の昭和十年は經費二
萬三千四百圓に依り、二十七組合
十四萬一千四百五十坪に前年同
様の魚貝類を増殖する計を
立て、尙縣に牡蠣、甘海苔、蛤
の技術的試みに委託して、東郡
の増殖試験を實施し、右計の側
面的援助をなさしめる事になつ

左記十點を増加して施行す、
(イ) 鮭釣漁業
(ロ) 鮭釣漁業
(ハ) 鮭釣漁業
(ニ) 鮭釣漁業
(ホ) 鮭釣漁業
(ヘ) 鮭釣漁業
(ト) 鮭釣漁業
(チ) 鮭釣漁業
(リ) 鮭釣漁業
(ニ) 鮭釣漁業
(ホ) 鮭釣漁業
(ヘ) 鮭釣漁業
(ト) 鮭釣漁業
(チ) 鮭釣漁業
(リ) 鮭釣漁業

縣立水産試験場
陸奥灣分場建設
縣では陸奥灣漁業者からも要
望されてゐた水産試験場陸奥灣
分場を一萬五千圓の豫算を以て
建設する事になり、分場敷地は青
森市合浦公園の東側隣接地(猫
塚東側)一十坪と決定、該用地
を所有者大坂金助氏より向ふ十
年間無償で、借受ける事となつ
た、而して縣では經常費の八千
圓だけを負擔する事になつて居
り、其他の建築費設備費一萬五千
圓は青森市、市水産會東郡及上
北郡水産會、内漁業組合等一般
の寄附とした、其後建物に於て
建坪二十圓位高くなり設備費は
一萬七千圓を要する事となつた
が、寄附の成績は良好で一萬七千
圓集まり四月八日農林大臣から
分場設立認可の指令に接したの
で、縣では直ちに準備に着手、五
月着工する運びとなつた、建物
は本館八十一坪五合、附屬建築
物三十七坪二合五合、九月から
事業開始の豫定である。

青森縣水産會

青森縣水産會昭和十年年度の事
業は前年度と同じく
△會報發行△船員及船匠講習
△漁業組合理事者養成講習△
漁村經濟更正促進△漁業組合
員制定△郡市水産會事業施設
獎勵△水産増殖振興、製品改
善指導△適種漁業調査△水産
技術員協議會△販路擴張宣傳
△視察△褒賞△救恤
等の外新規事業として漁獲物並
製品の取引配給を改善するため
當業者の實情を調査し、改善設
を講ずる配給組織調査、漁村の
災害に依る救濟並常年備荒貯蓄
等の共済組織の缺陷に對する方
策の研究として漁村共済組織調
査を行ふべく豫算二萬一千二百
二十九圓を計上し、又十年度救難
船(指導船)建造特別會計二萬三
千八百五十圓を可決した。

陸奥灣漁業組合聯合會

陸奥灣漁業組合聯合會では昭和九年
度から五年計画を以て
陸奥灣内の増殖計画を實施し、
九年度は二萬四千圓の經費を以て
二十七組合總面積十六萬坪に
對し、帆立貝、赤血貝、海鼠、磯
魚を豫定通り施行したが、第二
年度増殖計画の昭和十年は經費二
萬三千四百圓に依り、二十七組合
十四萬一千四百五十坪に前年同
様の魚貝類を増殖する計を
立て、尙縣に牡蠣、甘海苔、蛤
の技術的試みに委託して、東郡
の増殖試験を實施し、右計の側
面的援助をなさしめる事になつ

畜産業

本縣は馬の青森縣として名聲
を博しつゝあるだけあり、馬産
に付ては最も重要な位置を占
め、幾多の優良馬を産出し、斯界に

馬牛豚頭數 (昭和九年)

Table with columns for 郡市別 (Municipalities), 飼養 (Rearing), 總頭數 (Total Headcount), 生産數 (Production), 戸數 (Household Count). Rows include 弘前市 (Hiogo City) and 産業 (Industry) for 青森縣水産會 (Aomori Prefecture Fisheries Association), 陸奥灣漁業組合聯合會 (Ryūō Bay Fisheries Association), and 畜産業 (Livestock Industry) for 馬牛豚頭數 (Horse, Cattle, Pig Headcount).

大なる貢獻を爲し來つた、尤も
本縣の産馬は古き歴史を有し、
北の野、南部馬發祥の地として
馬政制度の如き早くより他の範
たるものがあつた、廢藩置縣後
も此の制度を大體に於て踏襲し
之に新味を加へ、専ら優良馬の産
出に努めたる結果、著名なる種
牝馬を多數に産し、競馬界に馳
名を送り、又軍馬の供給地とし
て、頗る重要な役割を持つに至つ
た、從つて縣では馬産に關する
出費を厭はず、優良馬の充實に努
めてゐる、又産馬に適する地は
産牛にも適するので、縣では産牛
の獎勵助長を爲して來たが、一
時大正十四年頃北海道方面の需
要に伴つてホルスタイン種の乳
用牛が盛んであつたが、之は經
済的方面に於ても思はしくなく、
爲め乳用牛は生乳用に局限し、
寧ろ役肉兼用牛に力を注いでゐ
る、而して此の役肉兼用牛にあ
つても從來の短角牛は飼養地方
は本縣、岩手、北海道の一部に

限られてゐる關係上之が優良な
種牝牛を高價に英國より輸入
せねばならぬ爲め寧ろ中國地方
等一般的に飼養せらるる改良和
種牛の飼養獎勵をなしてゐる、
現在の比率は乳用牛一、短角牛
七、改良和種牛二の割合となつ
てゐるが、縣では將來乳用牛一、
短角牛四、改良和種牛五の割合
にすべく計畫を樹てゐる、養
豚は市價に從つて、増減は容易
であり、大牧野の要もなく又そ
の堆肥は價格も昂騰し農家の副
業として頗る有利なものなので
主として産馬産牛に進歩してゐ
ない津輕方面に獎勵を爲してゐ
るが、農家も亦養豚の有利なるを
認めて飼養する事が漸次増加し
てゐるので、現在約一萬三千頭
に過ぎぬが、近い中に五萬頭に達
するものと見てゐる、其他綿
羊、養鶏、養兔等農家の副業と
して改善獎勵に努めてゐるので
本縣の畜産界は面目を一新する
のも近き將來であらう。

昭和九年二歳駒羅賣市場成績

市場別	頭數	價格	平均	前年平均	比較
青森市	三〇〇	三三〇	一一一	一一〇	五
八戸市	七六二	八〇八	一〇六	一〇五	五
東郡	三、九四九	三、五〇〇	一一三	一一二	二
中郡	四、八七七	三、五七〇	一一三	一一二	二
南郡	三、一五五	三、二七〇	一一〇	一一〇	〇
北郡	四、八三三	三、二七〇	一一〇	一一〇	〇
上郡	七、六〇〇	三、二七〇	一一〇	一一〇	〇
下郡	六、八七三	三、二七〇	一一〇	一一〇	〇
三戸市	九、四八〇	三、二七〇	一一〇	一一〇	〇
和計	三六、二二九	三、二七〇	一一〇	一一〇	〇

昭和九年二歳駒羅賣市場成績

市場別	頭數	價格	平均	前年平均	比較
中郡	二七	五、五〇〇	二〇三・八一	一九七・二七	一六・五四増
南郡	二七	三、〇三三	一一一・三〇	一一一・九二	一三九・六減
西郡	二七	二、八三三	一〇三・〇一	八五・九元	一七・六三増
東郡	二七	一、四〇〇	一一四・三七	一一三・四一	九四・四減
平原郡	一五二	一、四、五五六	九六・四〇	八四・三七	一四・九九増
田部	四二	三、八二五	九三・一七	八四・三七	八・八〇増
野邊	二二六	二〇、七三六	九三・九五	五・三三増	五・四一増
七戸	一、三六	一、七、三三〇	一一一・〇四	一〇五・六三	五・四一増
三木	一、三〇	一、六、七三六	一三三・五七	一三三・六〇	八・〇三減
五戸	五、六七	八、五三九	一五〇・六九	一四三・七六	一四・三三減
八戸	一、三六二	二〇、七三九	一五二・二八	一三九・八三	一一・四五増
本計	三、三三三	三、三三三	一〇六・二〇	一〇二・二五	三・九五減
計	六、〇五五	六、一六三	一一三・七九	一一四・六二	一・七七増

官廳購買

組別	頭數	價格	平均
軍農青組	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
森林	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
馬省縣合	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
他	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

牧野改良冷害救濟事業

九年度は冷害に依る凶作再来の爲め農村經濟窮迫は極度に達した。縣では之等の窮迫農民を救済するため冷害救濟牧野改良事業を実施する事になり補助額十一萬四千三百二十三圓を交付して總經費十三萬六千五百五圓を以て放牧地、採草地に對し、隔障物の建造、障害物の除去、牧舎の建造、排水溝の設置、地形整理等をなした。特に農民救済の目的に副ふ爲め、勞銀歩合の多い種類を選び、その約九割を障害物除去、牧道、地形整理、排水溝及土壘の設置に充當し、事業費の中、勞賃十一萬七千九百九十圓、所要延人員十四萬六千六百六十圓、材料費一萬三千四百六十圓となつてゐる。而して實施の結果、九年度に於ては補助總額は十一萬四千餘圓の中完了したものは五萬四千五百圓で五萬八千九百七十七圓は十年度に繰越した。之も農繁期前迄には完了する豫定である。

馬牧野改良事業

本縣馬牧野改良事業、昭和九年度の事業は放牧地九ヶ所採草地二ヶ所に對し、隔障物を設け、障害物を除去し、牧道、水飲場を造らし、しめこの經費一萬三千八百八十圓に對し、五千圓の補助を交付したが、殊に注目すべき施設は模範牧野の施設で、七戸産馬畜産組合が野邊地、大字有戸字向田雲雀放牧地を購入し、之を縣が模範牧野に指定したが、その結果は縣馬産の爲め注目されてゐる。

家畜保險事業の概況

本縣に於ける家畜保險組合は現在十組合にして、九年末現在加入頭數二萬三千五百二十七頭、牛一萬六千餘頭、達し、全國府縣中で、千六百餘頭に次いで第二位の加入頭數を有し、實施以來、四年で漸くその緒に着いたばかりである。この計畫以上に進展を見てゐる。四、五年後に於ける發展は著しいものであらうと期待されてゐる。農林省では、斯る保險制度は、獨り畜産經營上のみならず、農業或は林業等凡ゆる産業經營上必要と認め、その先驅として、畜産保險制度の完成を期して、昭和九年に於ては、九年度に於ては、農林省は、凶作救濟事業として、家畜保險の附加保險料相當額の補助をなし、又縣では、加入獎勵金として、九千圓、衛生施設費と

家畜保險組合事業成績 (昭和九年度)

組合別	事業開始年	加入頭數	保險金額	保險料
本計	一九二九年	五、五五三	四、二七〇	一〇、三三九
八戸	一九二九年	五、七一九	四、八五〇	一一、五二四
三木	一九二九年	三、九四一	二、二七〇	四、八四七
五戸	一九二九年	七、九六〇	二、三三五	六、一〇六
北戸	一九二九年	三、三三三	一、四〇〇	三、九五四
廣戸	一九二九年	三、二七〇	一、四〇〇	二、〇八二
青郡	一九二九年	四、六九〇	一、〇〇〇	四、三六六
南郡	一九二九年	四、〇三三	一、三〇〇	四、四〇〇
東郡	一九二九年	六、六六八	一、三〇〇	四、四〇〇
七戸	一九二九年	六、六六八	一、三〇〇	四、四〇〇

傳貧成績

本縣に於ける傳貧馬の成績は、豫防對策にも拘らず依然として、豫防對策に於ても、昭和九年は、二百九十三頭、前年に比し、九頭増加し、又流産總頭數は、千五百五十七頭、前年に比し、百三十五頭減少し、本年は、受胎率低下した爲め、受胎頭數對流産率、前年の一九・七%に比し、本年は、二〇・三%に比し、頭數百分率に於ては、二〇・三%となり、前年の一九・七%に比し、

○六%の増加を示してゐるが、傳染性のものに於ては、豫防注射の效に依り、其の數漸減して、十頭となり、前年の七十頭に比し、六十頭を減じ、流産總頭數に對する百分率に於ては、一・〇%に對し、前年の四・七%に對し、強で、前年の四・七%に對し、三・七%の減少を見てゐる。而して、九年度迄のところでは、好成績を見られなかつたが、縣では、十年度に於ては、豫防注射等、豫防對策の效果に依り、相當の好成績を示すものと見てゐる。尙昭和四年以降、傳貧馬の發生頭數は、左の

産業 牧野改良冷害救濟事業 馬牧野改良事業 家畜事業保險の概況 傳貧成績

産業—傳貧馬發生頭數調—九年度競馬一着馬—種馬種牛共進會成績  
通りであるが、殺処分が開—十二月末日迄の分である、又昭和九年の發生頭數の増加は主として硫酸アトロピンの皮下注射に見られてゐる。

傳貧馬發生頭數調

組合別	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年
北青	1	1	1	1	1	1
内地	1	1	1	1	1	1
野地	1	1	1	1	1	1
田部	1	1	1	1	1	1
七名	1	1	1	1	1	1
三木	1	1	1	1	1	1
五戸	1	1	1	1	1	1
八戸	1	1	1	1	1	1
南計	1	1	1	1	1	1
備考	1	1	1	1	1	1

九年度競馬一着馬

第六十回春季競馬(北郡金木町野野競馬場に於て七月十二日より二日間)

競走種別	名	稱	距離	速度	騎手
内國産馬新馬騎乗速歩競走	ア	モリツツバキ	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	ハ	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	シ	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	カ	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	ヒ	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	ツ	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	ア	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	ト	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	チ	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	タ	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	チ	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	キ	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	ズ	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	イ	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次

種馬種牛共進會成績

第三十一回縣種馬並に第十五回縣種牛共進會は昭和九年七月二十日より田名部産馬畜産組合事務所にて開催、出陳頭數馬六十頭、牛五十頭で二十三日褒賞授與式を舉行したが入賞馬牛は左の通り

第一等賞馬	第二等賞馬	第三等賞馬
▲一 産安グロアラブ 栗毛三歳	▲二 産安グロアラブ 栗毛三歳	▲三 産安グロアラブ 栗毛三歳
▲四 産安グロアラブ 栗毛三歳	▲五 産安グロアラブ 栗毛三歳	▲六 産安グロアラブ 栗毛三歳
▲七 産安グロアラブ 栗毛三歳	▲八 産安グロアラブ 栗毛三歳	▲九 産安グロアラブ 栗毛三歳
▲十 産安グロアラブ 栗毛三歳	▲十一 産安グロアラブ 栗毛三歳	▲十二 産安グロアラブ 栗毛三歳
▲十三 産安グロアラブ 栗毛三歳	▲十四 産安グロアラブ 栗毛三歳	▲十五 産安グロアラブ 栗毛三歳

第六十一回秋季競馬(三戸郡館村に於て九月七日より三日間)

競走種別	名	稱	距離	速度	騎手
内國産馬新馬騎乗速歩競走	ア	モリツツバキ	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	ハ	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	シ	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	カ	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	ヒ	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	ツ	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	ア	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	ト	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	チ	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	タ	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	チ	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	キ	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	ズ	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	イ	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次

競走種別	名	稱	距離	速度	騎手
内國産馬新馬騎乗速歩競走	ア	モリツツバキ	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	ハ	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	シ	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	カ	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	ヒ	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	ツ	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	ア	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	ト	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	チ	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	タ	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	チ	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	キ	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	ズ	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次
内國産馬新馬騎乗速歩競走	イ	トル	三、二〇〇米	七分四〇秒	高杉忠次

産業——九年度競馬一着馬一種馬種牛共進會成績——養兔

Table of horse racing results including names like 吉之助, 三戸, and 佐藤, with columns for race type and time.

Table of rabbit raising statistics (養兔) for various municipalities like 青森, 弘前, 八戸, and 八戸市, showing counts and prices.

Table of sheep raising statistics (山羊) for municipalities like 青森, 弘前, 八戸, and 八戸市, showing counts and prices.

Table of chicken raising statistics (養鶏) for municipalities like 青森, 弘前, 八戸, and 八戸市, showing counts and prices.

Table of egg production statistics (産卵) for municipalities like 青森, 弘前, 八戸, and 八戸市, showing counts and prices.

産卵共進會成績 縣養鶏組合聯合會は昭和九年七月十六日から十日役場に於て開催、十月十八日金が舉行された、受賞鶏は左の通合主催第七回青森縣産卵共進會月十三日迄九日開北郡金木町木町演武場に於て、褒賞授與式





産業 種雛(初生雛)拂下數(二ヶ月雛)拂下數 獣疫調査所七戸支所 青森縣産馬畜産組合聯合會

鶏場で北海道及奥羽六縣を區域として昭和二年青森市内八重田に創設されたが其の事業は愈々

擴充されつゝある、昭和九年度事業概要は左の如くである。

(昭和十年三月末現在)

種別	雄	雌	雛	計
單冠白色レグホーン	四羽	一羽	一羽	六羽
種別	名	計	古	屋
横斑プリマ	二	二	二	六
白色ワイヤ	一	一	一	三
單冠ロッド	一	一	一	三
アイランド	一	一	一	三
レッド	一	一	一	三
黑色オー	一	一	一	三
ピントン	一	一	一	三
名古屋	一	一	一	三
計	二	二	二	六

### 獸疫調査所七戸支所

農林省の直轄に屬し全國唯一の支所として昭和四年八月事業を開始したのであるが、其の事業は馬の蕃殖障害特に傳染性流産に關する調査を續行中であり又農村經濟更生施設として馬の傳染性流産豫防液の配布をなし

### 青森縣産馬畜産組合聯合會

事務所を青森縣廳農務課内に産馬畜産組合を統一して産馬事業振興に關する一般の事業を行つてゐるが十年年度の事業としては

△産馬共進會 △家畜市場の改善 △家畜保險の普及促進 △家畜衛生の向上 △牧野講話會開催 △馬産獎勵 △牧野及び共同運動場助成 △競馬會に關する

### 青森競馬場問題

縣産馬畜産組合聯合會では青森競馬を名實共に聯合會で經營する事に決し(従來は青森競馬俱樂部の手で開催されてゐた)が、經營するに當つて現在の競馬場を買収するか或は新に建設するかの問題が起り、結局出來得るならば現在の競馬場を買収したいと云ふ事に意見の一致を見、競馬俱樂部と交渉を開始したが、九年度は競馬の開催のためには至らなかつた、即ち聯合會としての經營が成立したため、十一年の交渉も妥協を見出さず、聯合會に對し現在の競馬場の所有主である、板柳銀行ではその所有地九千坪を四萬六千坪でなければ絕對譲渡せず土地を貸す事も斷つたのみならず同じく所有主たる若松圓太郎氏も自己所有地だけで十二萬圓でなければ譲渡せぬ事を明白にしたので買収交渉は完全に破裂し、聯合會では直ちに新競馬場の物色を始め一月二十九日小林知事は幸畑

### 種雛(二ヶ月雛)拂下數 (昭和九年度)

種別	甲級	乙級	計
單冠白色レグホーン	七羽	一羽	八羽
横斑プリマ	一羽	一羽	二羽
白色ワイヤ	一羽	一羽	二羽
單冠ロッド	一羽	一羽	二羽
アイランド	一羽	一羽	二羽
レッド	一羽	一羽	二羽
黑色オー	一羽	一羽	二羽
ピントン	一羽	一羽	二羽
名古屋	一羽	一羽	二羽
計	七羽	一羽	八羽

### 種雛(初生雛)拂下數 (昭和九年度)

種別	甲級	乙級	計
單冠白色レグホーン	九羽	一羽	一〇羽
横斑プリマ	一羽	一羽	二羽
白色ワイヤ	一羽	一羽	二羽
單冠ロッド	一羽	一羽	二羽
アイランド	一羽	一羽	二羽
レッド	一羽	一羽	二羽
黑色オー	一羽	一羽	二羽
ピントン	一羽	一羽	二羽
名古屋	一羽	一羽	二羽
計	九羽	一羽	一〇羽

### 種卵拂下數 (昭和九年度)

種別	甲級	乙級	計
單冠白色レグホーン	七	一	八
横斑プリマ	一	一	二
白色ワイヤ	一	一	二
單冠ロッド	一	一	二
アイランド	一	一	二
レッド	一	一	二
黑色オー	一	一	二
ピントン	一	一	二
名古屋	一	一	二
計	七	一	八

地方別	種別	甲級	乙級	計
北青岩宮秋山 北海道 青森縣 岩手縣 宮城縣 秋田縣 山形縣 福島縣	單冠白色レグホーン	九	一	一〇
	横斑プリマ	一	一	二
	白色ワイヤ	一	一	二
	單冠ロッド	一	一	二
	アイランド	一	一	二
	レッド	一	一	二
	黑色オー	一	一	二
	ピントン	一	一	二
	名古屋	一	一	二
	計	九	一	一〇

事項等 十年年度の豫算は一萬七千五百三十八圓である。

青森縣産牛畜産組合聯合會

青森縣廳農務課内に事務所を置き畜牛の改良養殖を圖るため縣内の産牛畜産七組合を統轄し

て組織したもので十年年度豫算は一千七百七十六圓であるが主なる事業としては

△畜牛共進會 牛肉普及消費宣傳 △畜牛品評會 △去勢の獎勵 △畜牛肥育施設 △畜牛肥育講習會の開催 △肥育牛肉普及消費宣傳 △東京に於て十月頃開催の肉畜博覽會に出品

事務所を青森縣廳農務課内に置き養豚獎勵に關する一般事業を行つてゐるが養豚事業の進展を促進するものがあつて、近年の共進會を開催して改良發達に努めてゐる本年は東京に開催

種卵拂下數 青森縣産牛畜産組合聯合會 青森縣養豚組合聯合會

産業——鑛産業——探掘試験鑛區——石村土石及鑛水

陸軍墓地附近の候補地を檢分した、其後新城村其他の方面にも候補地が現はれたが、結局最初に知事の檢分した幸畑附近に設置する事となり、三月六日地主山下丑太郎(代理中村菊三)と正式に買収假契約を結び兩者の調印を了した、場所は幸畑陸軍墓地から約十六町南方(青森から九キロ八)の原野(横内村大字大矢澤及び田茂木野)で買収面積は二十六町歩である、尙四月初め正式契約をなし直ちに工事に着手七月中旬全部竣工する筈で四月二十七日第一回委員會が開催されたが春競馬は大體八月三、四、五、六の四日間開催される模様である、青森競馬會參與委員は左の通り

小泉辰之助、小笠原八十美、金澤慶藏、杉山久之丞、小原平右衛門、福山眞兆、中村菊三、山内亮

探掘試験鑛區

昭和八年度の本縣探掘鑛區數及び坪數を鑛種別に見ると金銀銅鉛亜鉛は最も多く八區三百二十一萬四千二百九十一坪でこれに次ぐは金銀銅鉛亜鉛硫化鐵の五區二百萬六千七百二十九坪

坪、銀銅鉛亜鉛の四區百八萬六千九百三十一坪である、區數の最も多いのは硫黃の十區八十三萬八千三百四十三坪で滿庵は六區七十九萬五千二百二十六坪、銅のみのものは八區七十一萬四千三百二十二坪銀銅のみのものは三萬五千四百九十八坪を算し其全部を合し總計五十七區一十萬三千三百八十五坪となつてゐるが郡別に見れば左の通りである

郡別	坪數
東郡	一、七六、〇〇〇
西郡	九八二、八〇三
中郡	二、八五九、八二六
南郡	五五二、五三二
北郡	九六、三〇〇
上北郡	一、五七
下北郡	二、八五九、八二六
計	一〇、四九〇、〇〇〇

鑛産業

本縣の鑛産業は依然として不振の域を脱せず、僅かに石村土石の採取に依つて金額が掲げられてゐるに過ぎない、従つて探掘鑛區も五十七區千二百三十一萬二千三百八十五坪試掘鑛區も百四區五千四百九十七萬坪だけ

郡別	数量	價格
東郡	二、六六四	一、二二六
八戸郡	四、三〇一	四、一五五
青森郡	一、六五〇	五、三三五
弘前郡	一、二〇〇	九、二〇九
花崗石	五、四三〇、〇〇〇	一、一六、三三〇
安山岩	一、一六、三三〇	七、六〇〇
凝灰石	二、〇〇〇	二、〇〇〇
砂岩	二、〇〇〇	二、〇〇〇
砂利	二、〇〇〇	二、〇〇〇
硅砂	二、〇〇〇	二、〇〇〇
浮石砂	二、〇〇〇	二、〇〇〇
陶石及土	二、〇〇〇	二、〇〇〇
粘土	二、〇〇〇	二、〇〇〇
火山灰	二、〇〇〇	二、〇〇〇
石灰岩	二、〇〇〇	二、〇〇〇

郡別	数量	價格
西郡	二、六六四	一、二二六
中郡	四、三〇一	四、一五五
南郡	一、六五〇	五、三三五
北郡	一、二〇〇	九、二〇九
上北郡	五、四三〇、〇〇〇	一、一六、三三〇
下北郡	一、一六、三三〇	七、六〇〇
三戸郡	二、〇〇〇	二、〇〇〇
計	二、〇〇〇	二、〇〇〇
昭和七	二、〇〇〇	二、〇〇〇
昭和六	二、〇〇〇	二、〇〇〇

副業

本縣の副業は縣當局の指導獎勵と農山漁村の自覺とに依り漸次進展を見つゝあるが、農工品木通蔓細工の如く本業化されたものもあるも必ずしも本業と見らるべきでなく、農工品の如きは農家の重要な副業として將來一層指導の必要を認められてゐる、この外干菊、干柿、筍、割箸、果樹袋、荳炭俵、木工藝品、湯葉、澱粉、麻織物、凍豆腐の如きは農家の副業として適切な

副業獎勵方畫は左の通りである

副業獎勵計畫

- 昭和十年度に於ける本縣副業獎勵計畫は左の如く決定した。
- △竹細工獎勵(實用的竹細工傳習會、土産品用竹細工傳習會)
- △養兔獎勵(屠殺並乾皮指導會)
- △木工獎勵(土産品向實用木工傳習會、木工器具共同設備補助、木通蔓細工研究費補助)

農村工業化

農林省では新規事業として十年計畫を實施する事になつたので、縣でもその計畫に従つて五ヶ所の工場に縣下の共同作業場を分割包含せしめ所謂五プロックを造る計畫で、事業の主體を農林省が希望する新なる産業組合の

産業——副業——副業獎勵計畫——農村工業化

昭和九年度農工品種別生産検査高—産業組合

設置に依つて行はしめるか、縣が未だ決定を見ずに居るが、製販聯の一事業とするか或は産作したる粗製品を五ヶ所の共同組合聯合會を組織して行はし工場に適實に集め精製品としてめるか更に聯合會ならざる組合市場に出す仕組みでこれは八月の共同私用とするか主體の形式—までに實行されるが費用は六縣

昭和九年度農工品種別生産検査高 (單位個)

品別	検査總數	特等	一等	二等	外
大豆	一、八〇四	一、八〇四	一、八〇四	一、八〇四	一、八〇四
小麦	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇
...	...	...	...	...	...

に四十一萬圓、本縣に約六萬圓支出することになつてゐる、五ヶ所の共同作業所設置豫定地及び、これに配屬する町村左の通り

- △三本木町(附近七ヶ町村)
- △八戸市(三戸郡全部)△黒石町(南郡全部)△東津輕郡平館村(附近七ヶ町村)△下北郡大湊町(附近五ヶ町村)

産業組合

積年の經濟不況に加ふるに凶作水害及び銀行の破綻に依り本縣下は各方面とも多大の打撃を受けたがこの間に於ける産業組合の活動に依り苦痛を緩和することを得たので縣下全般に産業組合の眞價が認識されるに至つた、産業組合は昭和九年に於て擴充計畫の第二年を迎へたが、縣當局は勿論、産業組合中央會青森支會、信用組合聯合會、購買販賣組合聯合會は協同してその目的を達成すべく指導に努力に努めた、先づ組合法の改正に伴ふ所の組織の變更に依る信用の向上を督勵し昭和七年末僅かに六組合を數へたる保證責任組合は八年末に於て九十七組合となり九年末には更に百二十九組合となり總數の六割に達し又農事實行組合加入と未設町村に於ける産業組合設立獎勵には關係官並職員總動員にて之に當り、縣下數十ヶ所に協議會を開催して多大の効果を收め又本縣に於

品別	検査總數	特等	一等	二等	外
大豆	一、八〇四	一、八〇四	一、八〇四	一、八〇四	一、八〇四
小麦	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇
...	...	...	...	...	...

餘圓を増し貯金額は五百四十四萬六千餘圓となり七十萬六千餘圓を増し借入金は二十二萬二千餘圓、貸付金は四萬七千餘圓を増し、又販賣高は五十七萬五千餘圓購買高は五十一萬六千餘圓増加した、産業組合の現勢は以上の如くであるが、九年度内に新設された者は十二組合、存立期間滿了に依り解散したるもの十四組合である、結局未設町村は三十七を算し内近く設立の機運にあるものは十ヶ町村にして目下申請手續中のものは一である、又本縣に於ける利用組合としての醫療組合の發達は著しく組合員の増加と利用料の著増は共に注目すべきものがあつた、尙販賣高の激増は縣信聯並に郡販兩聯合會の積極的進出と中央金庫特種資金の融通に依り所屬組合に於ける資金の活用は著しく販賣事業を助長せしめた。

産業組合の現勢

縣下産業組合の昭和九年末に於ける現勢左の通り

昭和	昭和	増減
九年末	八年末	
組合數	七、一七〇	二〇六
組合員數	一、七〇〇	一七六
貯蓄總額	八、七五三	一、〇六一
借入金總額	二、四八三	一、〇六一
貸付總額	一、四八三	一、〇六一
...	...	...

て年産數百萬圓を算する重要物産果の病害と暴風被害に依る減收に際しては中央金庫に仰ぐ及び購入資金を中央金庫に仰ぐべく協議會を開催する等關係者

の努力は組合の業績を向上せしめてゐる、一方不良組合を整理し全般的に互つて堅實なる發達を遂げしむべく努力した結果總組合數に於て八年度末より一を減

じ二百五となつたが、内容は益々堅實となり總組合數二百五中百七十組合に就て調査に依るも出資總額は九年末に於て四百九十六萬四千餘圓となり九萬一千

二九二

産業組合現在数

産業組合中央會	1,710,139	1,940,911	455,969
信用事業	230,421	59,880	170,541
販賣事業	374,463	52,933	1,191,621
購買事業			33,973
利用事業			2,940

産業組合現在数

信用事業	230,421	59,880	170,541
販賣事業	374,463	52,933	1,191,621
購買事業			33,973
利用事業			2,940

貯金並銀行預金 (単位千圓)

九年末	1,544,496	5,719
八年末	4,739	706
増加	510	199

縣販購聯の内容

△所在地 青森市古川字柳川十五ノ十五

△設立 昭和五年九月二十五日

△事業開始 昭和六年一月四日

△所屬組合数

購買事業

縣下購買組合は百七十組合で主として肥料及農薬品を取扱つてゐるが、昭和九年度に於けるその取扱額は二百三十四萬四千六百餘圓の増増を示してゐる。六千餘圓の増増を示してゐる。縣販購聯組合も肥料に主力を注ぎ昭和九年四月末現在で肥料の取扱額は八十七萬七千餘圓、農具三萬五千餘圓、拂下米三十七

信用事業

永年の經濟界不況に依り貸付金の固定は著しく組合の活動に障害を來し今日に及んだが、特融資金の融通に依り之が運轉資金として事業の進展を畫策し、一面縣信用所屬組合の絶對的系統機關利用の途を確立し、爾來組合事業の擴大に資する所少なくなかつた、銀行等の異状突發以來組合信用の向上したことは争はれぬ事實で九年度末組合貯金は五百四十四萬六千餘圓に達し前年末に比し一割餘また縣信聯貯金は九年度末七十一萬九千餘圓に達し前年末の五十二萬圓に比すれば之亦三割八分の増加を示し漸次好成绩を示してゐる。

販賣事業

本縣組合中販賣事業を行ふもの百六十組合で九年度の取扱高は二百九十六萬九千餘圓で取扱物は、米、苹果、小麥、馬鈴薯、木炭等はその主なるものである。縣販賣聯合會はその使命を果すべく着々とその陣容を整へ、先づ苹果、米、小麥等の販賣統制に努力し昭和九年度の取扱高は四月末現在で、百三萬三千餘圓、苹果は百一十二萬六千餘圓、馬鈴薯は十四萬七千餘圓に上り販賣取扱總額は二百七十八萬八千餘圓で前年比二十五萬五千餘圓の増増を示した。

利用事業

利用事業組合は百四十七組合あるが、即ち九年度の利用料は前年度に比し十六萬二千餘圓を増加し五十四萬一千餘圓となつたがその内四十八萬六千餘圓は醫務事業組合の收入利用料である、九年度末に於ける醫務組合の状況をみると八組合の組合員は三萬四千七百五十五名で本院八、分院二、町村診療所十七で益々發達の傾向を示してゐる。

縣販購聯の内容

△販賣品目

米、小麥、馬鈴薯、苹果、木炭、農薬、肥料、農産品
--------------------------

△取扱額、取扱高

年度	取扱額	取扱高
昭和五年	1,231,269	5,210,233
昭和六年	1,418,338	4,418,764
昭和七年	1,841,335	3,258,373
昭和八年	2,476,135	3,451,620
昭和九年	2,788,987	5,628,299

産業組合青年聯盟

本縣産業組合青年聯盟は昭和九年五月二十五日結成式を挙げたがその目的とするところは産業組合精神の普及宣傳、産業組合事業計畫參與又その計畫遂行に對し援助するものである。

産業組合の政治的進出

本縣の産業組合中央會青森支會では中央會と同じく政治不干

他雑収入委託監査料等合計一萬六千五百六十圓を以て左の事業を行ふことになつたが、殊に産業組合講習所は經營者養成の目的を以て繼續的に行ふ筈である。

△主任指導員設置△部會設立

指導員△産業講習所△青年講習會△監査事務講習會△簿記講習會△農業倉庫講習會△産業講習會△農業講習會△青年及婦人講習會△産業講習會△會議△漁村産業組合講習會△不振組合更生講習會△部會及同職員協議會△實地指導△擴充五ヶ年計畫實施△聯合運動の促進△教育運動の助成△諸印刷の仲介斡旋△各種参考資料の編纂

尙支會事務分掌左の通り

△總務部 星支會囑託主事、須藤主事、工藤普及主事△事業計畫部 須藤主事、中川原主事△主事 須藤主事、中川原主事△第一部 須藤主事、中川原主事△指導部 須藤主事、中川原主事△調査部 野呂主事、小笠主事△庶務部 渡邊主事、野呂主事△事務部 野呂主事、小笠主事△書記部 野呂主事、小笠主事△監査部 野呂主事、小笠主事

産業——負債整理組合

負債整理組合現況

農村は非常な苦境に立ち、救済を叫び苦痛を訴へてゐる。殊に九年に於ては農産物の不作で、入は益々減少し、此の結果負債は益々増加してゐるが、現在農家の負債総額は四十五億圓と稱せられ、之に山漁村の負債を加へると五十五億圓に上り、日本全農家負債の一戸當り平均は約一千圓で、これが爲めに支拂ふ利子は年に六億圓、一戸當り平均百十圓に達してゐるので、之を放任すれば、農山漁村の自滅を招く結果となるので、之を救済緩和すべく昭和七年の臨時議會に於て農村負債整理組合法案可決さ

府資金配分決定数は十七組合、此の額二十五萬三千八百圓、起債許可組合十五組合（九ヶ町、村）此の額二十二萬八千圓、政府資金供給決定数二組合（一ヶ町、村）此の額三萬一千圓である。青森縣負債整理協會 縣内に於ける負債整理組合の普及發達を目的を以て縣では負債整理協會を組織する事になつたが、之が組織は昭和十年三月三十日、青森市産業組合館に於て開催、安田統制課長、神主事、佐々木主事、各負債整理組合長、關係町村長等約三十名出席し役員は左の如く決定  
 △會長 安井經濟部長△副會長 安田統制課長、山内亮△理事 神主事、菊池權太郎（北部梅澤村沖組合）長内長五郎

(西郡稻垣村福富組合)阿保勇之進(南郡田舎館村八反田組合)加藤喜久衛(中郡和徳村委員會)町屋定家(上北郡浦野館村委員會)  
 尙昭和十年年度豫算は收支共四百七十五圓で同會の事業は左の通りである。  
 一、負債整理組合設立の獎勵斡旋をなすこと  
 二、負債整理事業に關する指導を爲すこと  
 三、負債整理事業に關する調査並研究を爲すこと  
 四、負債整理事業に關する講習會講話會及展覽會等の開催を爲すこと  
 五、其他目的達成上必要な事業を爲すこと

負債整理組合

組合名	郡町村大字名	地區内戸數	組合員數	地區内戸數組合員數百分比	負債總額	一戸當負債額	設日認可年月日
保證責任沖負債整理組合	北郡梅澤村大字	一〇三	七	一〇〇	三〇,〇〇〇	四七	昭八・二・八
保證責任瀨良負債整理組合	北郡梅澤村大字	一〇二	七	一〇〇	六九,八六〇	九四	昭八・二・一
保證責任正法負債整理組合	三戸郡上長苗代村大字	二〇	三	一〇〇	一〇,〇〇〇	一八七	昭九・一・四
保證責任下繁田負債整理組合	西郡稻垣村大字	二〇	三	一〇〇	七九,三〇〇	一,五二三	昭九・二・三
保證責任福田負債整理組合	中郡豐田村大字	一〇	三	一〇〇	三三,三三三	七五二	昭九・二・三
保證責任境富負債整理組合	中郡豐田村大字	一〇	三	一〇〇	七三,七七八	七六	昭九・二・三
保證責任福富負債整理組合	西郡稻垣村大字	一〇	三	一〇〇	六三,〇〇〇	九四〇	昭九・二・三
保證責任善提寺負債整理組合	上北郡浦野館村大字	三	三	一〇〇	一五,〇〇〇	七四	昭九・二・五
保證責任橫町負債整理組合	東郡油川町大字	三	三	一〇〇	一五,〇〇一	六八	昭九・二・五
保證責任小島負債整理組合	東郡油川町大字	三	三	一〇〇	四三,八五〇	一,二八	昭九・二・〇
保證責任八反田負債整理組合	南郡田舎館村大字	三	三	一〇〇	一六,五〇〇	二,一一〇	昭九・二・六
保證責任尾上道町負債整理組合	南郡田舎館村大字	三	三	一〇〇	七四,四二四	一,一〇四	昭九・二・六
保證責任十文字負債整理組合	南郡田舎館村大字	三	三	一〇〇	一八,八七三	六七四	同
保證責任津賀野百田負債整理組合	中郡和徳村大字	三	三	一〇〇	一六,五五七	一,三三	同
保證責任江花澤負債整理組合	三戸郡島守村大字	三	三	一〇〇	二一,〇〇〇	八〇七	同
保證責任鶴ヶ岡負債整理組合	北郡三好村大字	三	三	一〇〇	七,六八四	一,〇七	昭九・三・九
保證責任家調負債整理組合	西郡稻垣村大字	三	三	一〇〇	四四,〇〇〇	一,〇三	昭九・三・九
保證責任森田負債整理組合	西郡森田村大字	三	三	一〇〇	八,一一二	一,三九	昭九・三・九
保證責任濱名負債整理組合	東郡今別村大字	三	三	一〇〇	二,一五五	五八一	昭九・三・九
保證責任羽田負債整理組合	東郡油川町大字	三	三	一〇〇	二,四五六	五八六	昭九・三・九
保證責任沼崎負債整理組合	西郡稻垣村大字	三	三	一〇〇	六〇,六九〇	九三〇	昭九・三・九
保證責任五所川原負債整理組合	北郡五所川原町大字	三	三	一〇〇	二六,〇〇〇	九三〇	昭九・三・三
保證責任千原負債整理組合	北郡稻垣村大字	三	三	一〇〇	六,三三八	六九二	昭九・三・三

町村經濟更生指導

昭和十年に於ける經濟更生に關する施設指導方針は左の如く決定された。  
 ◇獎勵施設計畫  
 (一) 專任職員設置(豫算一、九三〇圓)  
 農林主事一名を前年度に引續き設置し七年度、八年度、九年度指定の八十ヶ町村の經濟更生計畫の實行に十年度に於て新たに指定する町村(三十ヶ町村の豫定)の計畫樹立の指導獎勵の任に當らしめ以て

經濟更生の實を擧げんとす。更に冷害對策として指定以外に町村に對して此際更生計畫を樹立せしむる方針なるを以て之が指導に當らしむ。  
 (二) 諸會議(豫算五九八圓)  
 1 委員會  
 本縣經濟更生委員會を開催し經濟更生計畫樹立町村の指定及計畫の審議に縣產業統制計畫の調査研究其他經濟更生に關する諸般の審議を爲し以て農山村經濟更生の達成に努めんとす。  
 2 協議會  
 幹事協議會、各種團體聯合協議會、各農會關係者協議會、指定町村協議會等を開催し町村經濟更生に關する諸般の打合せを爲すと共に各種團體の連絡統制に資せんとす。  
 (三) 町村經濟更正計畫樹立助成(豫算三、〇〇〇圓)  
 本年度に於て新に縣下三九ヶ町村を指定して經濟更生計畫を樹立せしめ之に要する費用に對し一ヶ町村百圓宛を交付助成せんとす。  
 (四) 團體活動助成(豫算八、五〇〇圓)  
 1 町村農會技術員助成  
 本年度に於て新に指定する三十ヶ町村に於ける經濟更生計畫樹立の爲め町村農會技術員の活動を要する諸經費(旅費、手当等)に對し一ヶ町村農會に對し二百圓宛を交付助成せんとす。  
 2 郡農會助成  
 郡達會に對し各町村經濟更生計畫樹立に之が實行に關し指導獎勵を然しむる爲め一郡農會に對し三百圓を交付助成せんとす。  
 3 縣經濟更生會助成  
 二九七

産業——農山漁村漁業經濟更生計畫樹立指定町村

各種團體は緊密なる連絡の下に其機能を充分發揮せしむるは經濟更生運動の最も重要な事項なり故に之等を統制する縣を區域とせる縣經濟更生會の活動に俟つべきもの多きを以て百圓を交付助成せんとす。

(五) 實行指導の督勵(豫算一、四〇〇圓)

農山漁村の經濟更生は産業及經濟は勿論其他各段の事項全般に互り其關係範圍極めて廣汎にして之が総合的、有機的に連絡せしめ各方面の施設が総合的に完成することに依りて其効果を收め得るものなるを以て縣に於ける係職員を以て計畫實行指導班を組織し調査、視察、指導を総合的に行ひ其徹底を期せんとす。

(六) 産業統制上必要な調査(豫算五〇〇圓)

農山漁村の經濟更生の實行は其農山漁村民の自奮自勵によること勿論なりと雖も縣に於ける産業施設の之に相伴はざるべからざるものなるを以て縣の産業統制計畫上必要な各種の調査を爲し其の實情に則したる適切な指導施設の資たらしめんとす。

(七) 共同施設の獎勵(豫算六、〇〇〇圓)

農業經營改善に付ては主として共同作業の氣運を強化するに對し建設費並に設備費に對し三分の一以内の補助を爲し其普及に努めんとす。

(八) 自給肥料の改良増殖(豫算六、〇〇〇圓)

農家の經濟上自給肥料の改良増殖は極めて重大なる關係を有するを以て前年に引き続き左の施設を然し普及徹底に努めんとす。

(九) 増産指導督勵委員の設置(豫算三三〇圓)

指導督勵委員の協議會を開催し一人平均一圓の實費を支給せんとす。

(十) 優良事績の表彰(豫算五〇〇圓)

優良實行組合に對し一組合二〇圓、二十五組合に對し表彰金を交付せんとす。

農山漁村經濟更生計畫樹立指定町村

昭七年度より昭七年度(昭和七年度) 昭七年度指定 昭七年度指定 昭七年度指定

昭七年度指定

昭七年度指定 昭七年度指定 昭七年度指定

昭八年度指定

昭八年度指定 昭八年度指定 昭八年度指定

昭九年度指定

昭九年度指定 昭九年度指定 昭九年度指定

昭七年度指定

昭七年度指定 昭七年度指定 昭七年度指定

昭八年度指定

昭八年度指定 昭八年度指定 昭八年度指定

營林局經濟更生計畫

青森營林局では昭和九年度の冷害凶作を契機として、國有林關係農山村の經濟更生計畫に乗出す事となり、九年十二月經濟更生部を組織し着々事業進捗中であるがその更生計畫内容は林道開設、森林を資源とせる産業並に副業の指導獎勵、木炭販賣統制、山菜の販賣獎勵、現金收入の増大計畫、樹實林造成、製炭原料資金としての現品貯金獎勵等であるが、之が指定町は左の三順位に分けてある。

Table with columns for village names and financial data. Includes sections for '自作農創設維持資金貸付審査委員會' and '九年度自作農創設維持資金貸付額'.

Table with columns for village names and financial data. Includes sections for '昭七年度指定', '昭八年度指定', and '昭九年度指定'.

二九八 昭七年度指定 昭八年度指定 昭九年度指定



Table of military divisions (師管表) for divisions 5 through 8, listing various prefectures and cities under their jurisdiction.

Table of military divisions (師管表) for divisions 9 through 10, listing various prefectures and cities under their jurisdiction.

Table of military divisions (師管表) for division 11, listing various prefectures and cities under their jurisdiction.

Table of military divisions (師管表) for divisions 12 through 15, listing various prefectures and cities under their jurisdiction.

陸軍常備團隊配備表 (昭和十年四月) (現在調査)

Table of military units (師團司令部) for the 1st Division (第一師團), listing various units and their locations.

Table of military units (師團司令部) for the 2nd, 3rd, 4th, and 6th Divisions, listing various units and their locations.

軍事—陸軍常備團隊配備表





軍事—陸軍主要職員

Table of military personnel including ranks (大將, 中將, 少將), names (荒木貞夫, 中村孝太郎), and various military units (陸軍大臣, 陸軍省, 陸軍第一師團).

○海軍 (昭和十年四月現在)

Table of naval personnel including ranks (大將, 中將, 少將), names (大角岑生, 山本三郎), and various naval units (海軍大臣, 海軍省, 海軍第一艦隊).

大湊要港部

大湊要港部は下北郡大湊町にあり明治三十八年十二月十二日開設されたが本縣及び帝國の北方海岸及海面を管轄區域として重大な任務を司り、北洋漁業の保護に當つてゐる。昭和七年驅逐隊、防備隊が配置され、昭和八年には航空隊が新設された。四機の他報國青森號及北海道號が所屬してゐる。四驅逐隊の他に特務艦大泊、防備隊には蘆崎の威力が活躍してゐるが近來海軍が愈々加はると共に國防上極めて重要視されてゐる。

五大海軍國の艦艇隻數と噸數

Table comparing ship counts and tonnage for five major naval powers: 日本 (Japan), 英國 (Great Britain), 美國 (USA), 法國 (France), and 蘇俄 (USSR).

Table listing specific naval vessels such as 航空母艦 (Aircraft carrier), 甲級巡洋艦 (Type A cruiser), 乙級巡洋艦 (Type B cruiser), 潛水艦 (Submarine), and 補助艦 (Auxiliary ship), including their names and tonnage.

國	獨	佛	英	國
約二十五萬 (佛國側の情報に依れば約三十五萬)	約五十六萬	約三十四萬		
正規軍 警隊約十五萬	在本國軍約三十五萬五千 在海外軍約二十萬五千	地方軍 現在約十七萬 法定數約十三萬二千七百	正規軍 約十四萬一千五百 外に在印度約五萬八千	護國軍 臨時規定額最 小限二十五萬 現在約十八萬六千
騎步兵 三七師團	步兵 騎兵 外に騎兵五團 師團及騎兵團約六	騎步兵 防騎空 十騎空 四師團 三旅團	在印度 騎兵五團 正規軍將印度人 加ふし	騎兵 四師團 (基幹部隊のみ現在す)
獨逸警隊は編制、裝備、訓練の程度は勿論、特に裝甲自動車等は、國際聯盟に於ては之を軍隊に準じて取扱つてゐる。	本表の外左の部隊がある。 一、空軍三師團と獨立一旅團(人員約三萬) 二、北亞弗利加に不正規補助兵約一萬 三、憲兵及遊動憲兵約四萬	愛南新印濠加及本 計西蘭阿蘭度洲陀有植民地の外空軍約三萬二千及海外自治領を有してゐる。記兵力(土民軍等を含む)	本表の外空軍約三萬二千及海外自治領を有してゐる。記兵力(土民軍等を含む)	三、別に編成豫備軍約十二萬を有してゐる。

列國陸軍軍備一覽

國名	區分	總數	平時	內	兵	員	譯	主要部隊數	摘	要
米		約三十二萬	正規軍	法定數約二十九萬八千 現在數約十三萬五千 法定數四十二萬五千	騎步兵 九師團 三師團 (一部未完成)			一、正規軍中步兵各約一師團は比律賓、布哇及巴奈馬に駐屯してゐる。 二、護國軍法定數は一九二三年臨時最 小限二十五萬と規定せられたが、未 六年迄に其實現を期したが未完成で	約二十三萬は一年を通じて在營人員最も多き場合に於ける兵力である。尙本數には幹部隊補生及短期現役兵を含んでゐない。 本表の外多數の土匪團ありて軍隊と略々同様の實力を有し、軍隊に改編せらるゝこと屢々であるが、其兵力は固より算定するを得ない。	
邦		約百四十萬	護送軍隊	約九萬	騎兵 正規兵 五十師團 獨立旅團約四			本表の外空軍陸上部隊約二萬三千を有する。		
蘇		約二百萬	正規軍及民兵	約五十四萬	騎兵 正規兵 三十師團					
國民華中		約二百萬	中央政府及各軍閥に屬し正規軍と認むべきもの	約二百萬	騎兵 正規兵 四十師團 騎兵 十二旅團					
本日		約二十三萬			十七師團					

軍事—我が國陸海軍費及總豫算に對する割合—列國陸軍軍備一覽

日	約一、九〇〇
米	六〇五、六四五
英	五八、一八四
佛	五五、一四七
伊	二七〇、九四九
總計	七五九、九三〇

我が國陸海軍費及總豫算に對する割合

日	一、八二、五五
米	一、七二、九二四
英	五九、七二八
佛	五七、四八一
伊	一四七

昭和九年末調

昭六年	四〇七
昭七年	六〇七
昭八年	八五二
昭九年	九四二
英	一〇二

約二三〇八

米	二八%
獨逸	二二%
佛	二二%
伊	二二%
日	二二%

伊國
約三十五萬
本國軍約三十五萬
植民地軍約五萬
步兵團三十師團 アルプス旅團三師團
本表の外空軍約二萬四千を有し、又義勇兵の如くである。約一十二萬六千。約三十九萬五千。約三十九萬五千。約三十六萬をを含む。

列國新兵器整備一覽

國名	飛行機數	中隊數	豫算	高射砲	戰車及機械化部隊
蘇聯	約一千一機	飛行機六中隊 偵察機一隊	詳	一聯隊と一隊	獨立機械化部隊 獨立戰車大隊 獨立戰車中隊 獨立狙擊師團の少くも三分の一及び若千以上
米邦	約三千二百機	飛行機七六中隊 偵察機二隊 飛機學校(教導隊) 飛機船(勤務)	詳	砲七聯隊 外に高射機砲關銃門	戰車旅團一 戰車大隊(輕戰車大隊) 戰車中隊(舊裝甲自動車) 戰車中隊(四中隊)
日本	約一千機	飛行機二六中隊 偵察機二隊	詳	獨立聯隊約十箇 獨立大隊約十箇	戰車中隊 戰車中隊 戰車中隊
獨	約三千機 (のものは屬所省空航)	飛行機陸上部隊 一三三中隊 偵察機一隊 偵察機一隊 偵察機一隊	詳	砲四聯隊と三隊 一六〇門	輕戰車聯隊(六中隊) 獨立戰車大隊 植民地軍の戰車中隊 裝甲自動車中隊 其他豫備戰車約三五〇輛

國名	飛行機數	中隊數	豫算	高射砲	戰車及機械化部隊
英國	約五千機 (のものは屬所省軍空)	飛行機八四中隊 偵察機二隊 偵察機二隊 偵察機二隊 偵察機二隊	詳	砲大正規軍高射砲二	戰車旅團一 戰車大隊(輕戰車大隊) 戰車中隊(舊裝甲自動車) 戰車中隊(四中隊)
佛國	約三千機 (のものは屬所省空航)	飛行機陸上部隊 一三三中隊 偵察機一隊 偵察機一隊 偵察機一隊	詳	砲四聯隊と三隊 一六〇門	輕戰車聯隊(六中隊) 獨立戰車大隊 植民地軍の戰車中隊 裝甲自動車中隊 其他豫備戰車約三五〇輛
獨	約四千五百機 (のものは屬所省軍空)	飛行機八四中隊 偵察機二隊 偵察機二隊 偵察機二隊 偵察機二隊	詳	砲四聯隊と三隊 一六〇門	輕戰車聯隊(六中隊) 獨立戰車大隊 植民地軍の戰車中隊 裝甲自動車中隊 其他豫備戰車約三五〇輛



軍事——昭和九年度本縣壯丁入營者

Table listing names and locations for military service in the third district (東郡). Columns include names like 是川, 阿部, 豐川, etc., and locations like 是川町, 阿部町, etc.

第三徵募區(東郡)

Table listing names and locations for military service in the fourth district (西、北郡). Columns include names like 西平, 小湊, 油川, etc., and locations like 西平町, 小湊町, etc.

第四徵募區(西、北郡)

Table listing names and locations for military service in the fifth district (中、南郡). Columns include names like 櫻井, 山中, 豐澤, etc., and locations like 櫻井町, 山中町, etc.

軍事——昭和九年度本縣壯丁入營者

Table listing names and locations for military service in the first district (東郡). Columns include names like 武田, 岩崎, 鳴澤, etc., and locations like 武田村, 岩崎村, etc.

第五徵募區(中、南郡)

Table listing names and locations for military service in the sixth district (東郡). Columns include names like 藤田, 岡元, 齋藤, etc., and locations like 藤田村, 岡元村, etc.

三一五

Table listing names and locations for military service in the seventh district (東郡). Columns include names like 喜良, 中村, 大谷, etc., and locations like 喜良村, 中村村, etc.

Table listing military recruits by village and name. Columns include village names (e.g., 山形村, 大杉村) and names (e.g., 渡邊直男, 齋藤秀三). Includes sub-sections for '野砲兵第八聯隊' and '第六徵募區'.

Table listing military recruits by village and name. Columns include village names (e.g., 弘中野町, 八中野町) and names (e.g., 伊藤則治, 南山貞雄). Includes sub-sections for '野砲兵第八聯隊' and '第四徵募區'.

Table listing military recruits for various units including 常盤村, 野澤村, 金田村, 和徳村, 藤代村, etc. Columns include names, locations, and unit numbers.

Table listing military recruits for units such as 輜重兵第八大隊 and 騎兵第八聯隊. Includes names, locations, and unit numbers.

Table listing military recruits for units like 輜重兵第八大隊 and 歩兵第三十一聯隊. Includes names, locations, and unit numbers.





Table listing military units and personnel. Columns include unit names like '電信第三大隊', '步兵第二十五聯隊', and '獨立守備隊', along with names of individuals such as '大森清三郎', '久保清三郎', and '佐藤慶八郎'.

Table listing military units and personnel. Columns include unit names like '步兵第二十六聯隊', '步兵第七大隊', '横須賀海兵團', and '横須賀海兵團 (航空兵)', along with names of individuals such as '石村正太郎', '遠藤定七郎', and '山田順一郎'.

軍事——昭和九年度本縣壯丁入營者

軍事——昭和九年度本縣壯丁入營者

川内町	德田 秀三	川邊 正規	三澤村	澤上 豊太郎	相馬 國衛	三二四
野邊地町	杉上 喜一郎	藤崎町	風間 浦村	八戸	板柳町	
第二徵募區	下館 吉次郎	中野 末吉	小笠原 利榮	八戸市	前田 義永	
第三徵募區	鈴木 正雄	中野 末吉	豊巻 徳治	八戸市	佐藤 英三	
第四徵募區	鈴木 正雄	中野 末吉	工藤 千代治	八戸市	米谷 敏次	
第五徵募區	鈴木 正雄	中野 末吉	大光寺村	八戸市	福眞 吉次	
第六徵募區	鈴木 正雄	中野 末吉	須藤 八郎	八戸市	金澤 敏雄	
第七徵募區	鈴木 正雄	中野 末吉	須藤 八郎	八戸市	福眞 吉次	
第八徵募區	鈴木 正雄	中野 末吉	須藤 八郎	八戸市	福眞 吉次	

九年度壯丁成績調査表 (昭和九年度)

郡市	受檢壯丁	甲種	第一乙種	第二乙種	丙種	丁種	戊種	平均身長	平均體重
東 郡	九七六	二六八	二二八	一九七	三三七	六〇二	一	一、六〇四	五六、二四
西 郡	九〇七	二〇四	二二二	二〇〇	三三四	六〇二	一	一、五九六	五五、一〇
中 郡	七六〇	二〇四	二二二	二〇〇	三三四	六〇二	一	一、五九六	五五、一〇
南 郡	九四二	二〇四	二二二	二〇〇	三三四	六〇二	一	一、五九六	五五、一〇
北 郡	九四二	二〇四	二二二	二〇〇	三三四	六〇二	一	一、五九六	五五、一〇
東 郡	九七六	二六八	二二八	一九七	三三七	六〇二	一	一、六〇四	五六、二四
西 郡	九〇七	二〇四	二二二	二〇〇	三三四	六〇二	一	一、五九六	五五、一〇
中 郡	七六〇	二〇四	二二二	二〇〇	三三四	六〇二	一	一、五九六	五五、一〇
南 郡	九四二	二〇四	二二二	二〇〇	三三四	六〇二	一	一、五九六	五五、一〇
北 郡	九四二	二〇四	二二二	二〇〇	三三四	六〇二	一	一、五九六	五五、一〇
計	九、四四四	二、五五六	二、七二二	二、〇〇三	三、三三三	六、〇〇〇	一	一、五九八	五五、二二

トヲホム並花柳病患者調査表

郡市	受檢壯丁	トヲホム	花柳病	平均身長	平均體重
東 郡	九七六	二二二	二〇〇	一、六〇四	五六、二四
西 郡	九〇七	二〇四	二〇〇	一、五九六	五五、一〇
中 郡	七六〇	二〇四	二〇〇	一、五九六	五五、一〇
南 郡	九四二	二〇四	二〇〇	一、五九六	五五、一〇
北 郡	九四二	二〇四	二〇〇	一、五九六	五五、一〇
計	九、四四四	二、五五六	二、〇〇三	一、五九八	五五、二二

軍事——九年度壯丁成績調査表——トヲホム並花柳病患者調査表

三二五

軍 壯丁教育程度調査表—九年度入營壯丁歸郷者調査—海軍志願兵検査成績

◇壯丁教育程度調査表

郡市	検査在學中人員	延期者	卒高小卒尋小卒退學算	卒尋中途算	卒尋無算
東 郡	七六六	五〇	四〇三	二七五	一六
西 郡	七六三	五〇	四〇三	二七五	一六
中 郡	七六一	四〇	三九一	二七〇	一六
南 郡	七〇九	四〇	三九一	二七〇	一六
北 郡	七〇九	四〇	三九一	二七〇	一六
上 郡	七〇九	四〇	三九一	二七〇	一六
下 郡	七〇九	四〇	三九一	二七〇	一六
三 郡	七〇九	四〇	三九一	二七〇	一六
青 森 市	七〇九	四〇	三九一	二七〇	一六
弘 前 市	七〇九	四〇	三九一	二七〇	一六
八 戸 市	七〇九	四〇	三九一	二七〇	一六
計	八、九三九	四〇	三、九一〇	二、七〇〇	一六

◇九年度入營壯丁歸郷者調査

郡市	即日歸郷者	その他の事故者
東 郡	二八	一
西 郡	二八	一
中 郡	二八	一
南 郡	二八	一
北 郡	二八	一
上 郡	二八	一
下 郡	二八	一
三 郡	二八	一
青 森 市	二八	一
弘 前 市	二八	一
八 戸 市	二八	一
計	二八	一

◇海軍志願兵検査成績 (昭和十年)

郡市	受検人員	合格者	同率
東 郡	昭九 昭十	昭九 昭十	昭九% 昭十%
西 郡	昭九 昭十	昭九 昭十	昭九% 昭十%
中 郡	昭九 昭十	昭九 昭十	昭九% 昭十%
南 郡	昭九 昭十	昭九 昭十	昭九% 昭十%
北 郡	昭九 昭十	昭九 昭十	昭九% 昭十%
上 郡	昭九 昭十	昭九 昭十	昭九% 昭十%
下 郡	昭九 昭十	昭九 昭十	昭九% 昭十%
三 郡	昭九 昭十	昭九 昭十	昭九% 昭十%
青 森 市	昭九 昭十	昭九 昭十	昭九% 昭十%
弘 前 市	昭九 昭十	昭九 昭十	昭九% 昭十%
八 戸 市	昭九 昭十	昭九 昭十	昭九% 昭十%
計	昭九 昭十	昭九 昭十	昭九% 昭十%

備考 八年度計 守五六一一  
この中花柳病患者は一三名、胸部疾患二八名が一番数を占めてゐる

◇青年訓練成績調査表

郡市	年次	検査人員	終了見込		その他		入所せざる者	
			實數	百分比	實數	百分比	實數	百分比
東 郡	九八年	八〇三	二九一	三六・二	二七一	四〇・四	二四一	三〇・〇
西 郡	九八年	七〇〇	二八七	四一・〇	二二一	三一・七	二〇三	二九・〇
中 郡	九八年	六〇〇	二〇〇	三三・三	一八〇	三〇・〇	一八〇	三〇・〇
南 郡	九八年	五〇〇	一五〇	三〇・〇	一四〇	二八・〇	一五〇	三〇・〇
北 郡	九八年	四〇〇	一〇〇	二五・〇	一〇〇	二五・〇	一〇〇	二五・〇
上 郡	九八年	三〇〇	七〇	二三・三	七〇	二三・三	七〇	二三・三
下 郡	九八年	二〇〇	五〇	二五・〇	五〇	二五・〇	五〇	二五・〇
三 郡	九八年	一〇〇	二〇	二〇・〇	二〇	二〇・〇	二〇	二〇・〇
青 森 市	九八年	九八	二〇	二〇・四	二〇	二〇・四	二〇	二〇・四
弘 前 市	九八年	九八	二〇	二〇・四	二〇	二〇・四	二〇	二〇・四
八 戸 市	九八年	九八	二〇	二〇・四	二〇	二〇・四	二〇	二〇・四
計	九八年	九八	二〇	二〇・四	二〇	二〇・四	二〇	二〇・四

◇昭和九年度軍事救護費調 (十年度三月末現在)

郡市別	戸數	人員	生活扶助		醫療		埋葬		備考	
			金額	戸數	人員	金額	戸數	人員	金額	備考
東 郡	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	備考
西 郡	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	備考
中 郡	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	備考
南 郡	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	備考
北 郡	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	備考
上 郡	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	備考
下 郡	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	備考
三 郡	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	備考
青 森 市	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	備考
弘 前 市	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	備考
八 戸 市	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	備考
計	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	一、九三〇	備考

備考 右は本籍地に於て受検したる本籍者にして入所者は一・五パーセント、終了見込者は一・三パーセントの増加である。

軍事 滿洲事變戦傷病者内地還送者調 第一次幹部候補生合格者 帝國在郷軍人會本縣支部長、副長及分會長一覽表

滿洲事變戦傷病者内地還送者調 (昭和九年四月末)

Table showing statistics of wounded soldiers and those sent home from Manchuria. Columns include: 内譯 (Internal Translation), 治療者 (Treated), 死亡者 (Deceased), 事故者 (Accidents), 加療中の者 (Under treatment). Rows list counts for various categories like '戦傷に依るもの' (Due to combat wounds) and '凍傷に依るもの' (Due to frostbite).

九年度幹部候補生數

昭和九年度から陸軍省では從來の納金制一年志願兵制度を廢して徴兵に依る幹部候補生制度を規定したが之に依れば志願者全部が幹部候補生になるとは限らず一年間を通じて數回の試験に於て合格者が決定される。これは甲種は軍曹で乙種は伍長で除隊するものである。

Table showing the number of candidates for the 9th year. Columns: 甲種 (Type A), 乙種 (Type B), 計 (Total). Rows: 歩兵五聯隊 (Infantry 5th Division), 歩兵三聯隊 (Infantry 3rd Division), 騎兵八聯隊 (Cavalry 8th Division), 野砲八聯隊 (Artillery 8th Division), 輜重八大隊 (Supply 8th Regiment).

十年度本縣各部隊第一次幹部候補生合格者

Table listing names and ranks of candidates for the 10th year. Columns: 連隊 (Battalion), 隊員名 (Name), 階級 (Rank). Rows include: 歩兵第五聯隊 (Infantry 5th Division), 歩兵第三十一聯隊 (Infantry 31st Division), 騎兵第八聯隊 (Cavalry 8th Division).

帝國在郷軍人會本縣支部長、副長及分會長一覽表 (昭和十年四月末現在)
有勳章所持者 軍事功勞表彰者 功勞表彰者

Table listing names and ranks of officers and members of the Imperial Home Army Association. Columns: 支隊長 (Branch Chief), 支隊副長 (Branch Vice-Chief), 支隊副官 (Branch Sub-officer).

Main table listing names and ranks of military personnel from various divisions and regiments. Columns: 市聯合 (City Union), 第一 (1st), 第二 (2nd), 第三 (3rd), 第四 (4th), 第五 (5th), 第六 (6th), 第七 (7th), 第八 (8th), 第九 (9th), 第十 (10th), 第十一 (11th), 第十二 (12th), 第十三 (13th), 第十四 (14th), 第十五 (15th), 第十六 (16th), 第十七 (17th), 第十八 (18th), 第十九 (19th), 第二十 (20th).

軍事 帝國在郷軍人會青森支部長、副長及分會長一覽表

軍事 帝國在郷軍人會青森支部長、副長及分會長一覽表

Table listing military personnel and their ranks across various locations like 郡聯合, 小泊村, 野澤村, etc.

本縣の主なる軍事記録

Text describing military records and events in the county, including mentions of 第八師團 and 第九師團.

海軍部

Text related to the Navy Department, mentioning 青森市聯合分會 and 海軍部長.

團應援の下に郷軍、警察、消防... 中等學校生徒、青訓を首め非戦... 團員救護班その他全市民總動員...

出動實戦談を聴取して十二日退... 縣した。 滿洲襲撃三周年記念演習... 和六年九月十八日柳條溝爆破事...

ひは燈火管制をなし下北一帯は... 壯烈なる戦場と化した。 敵機を退けて二十七日午前十時... 終了した。

數參加を見たが雨の中の各地を轉... 戦激戦に激戦を重ねて十七日午... 前八時半津代平の拂曉戦を以て...

切られた、連日の演習に疲勞の色を見せず各將兵は學生隊と共に白熱戦を交へて二十四日午前七時三十分高館山麓平石探掘場の戦闘を最後に閉戦した。秋期演習終了後二十四日午前十一時半から弘前練兵場に於て参加精銳八千名の凱旋後最初の大観兵式を舉行した。

徒並に青訓生と連合して午前十時から青森競馬場を中心に白雪を蹴つて壯烈なる記念演習を舉行、同十一時半終了後、分列行進をなし、同所で軍民合同で野戰式祝宴を張つた。

昭和十年三月十日は日露戦勝三十周年記念である、この日我が國は一國を擧げてこの戦勝を祝し併せて非常時局に於ける國民の對内的、對外的認識を深めると共に、明日の日本に處するの覺悟を新にした、而して東京に於ては長くも大元帥陛下の行幸を仰いで靖國神社境内に日露戦勝三十周年記念祝賀會が催された、この他各地方に於ては軍隊、市町村、その他公共團體、學校等が協力して大々的な行事をなした。今を去る三十年前十二萬人の犠牲と十五億の軍事費を費し、國運を倍して戦つたこの日は文字通り全國津々浦々に非常時色彩で塗りつぶされ我が國萬年の礎は築かれた。

と共一大壯觀を呈した、この他の行事は△祝賀會(出征軍人家族招待)△感謝會(傷痍軍人遺模擬動員)弘前市 午前十一時半から弘前市軍部共同主催の下に市公會堂に於て東京からの放送に従つて戦勝記念祝賀會を開催、正午聖壽萬歳三唱、後陸軍記念日歌を高唱して終了、市内各學校では記念講演會が行はれた。

日露戦争出征軍人戦没者及遺家族戸數調

Table with columns for location (e.g., 弘前市, 青森市, 八戸市) and counts for military personnel and families.

日露戦争出征軍人戦没者及遺家族戸數調 (續)

Continuation of the table from the previous section, listing more locations and counts.

日露戦勝三十周年記念

日露戦勝三十周年記念、昭和十年三月十日は日露戦勝三十周年記念である、この日我が國は一國を擧げてこの戦勝を祝し併せて非常時局に於ける國民の對内的、對外的認識を深めると共に、明日の日本に處するの覺悟を新にした、而して東京に於ては長くも大元帥陛下の行幸を仰いで靖國神社境内に日露戦勝三十周年記念祝賀會が催された、この他各地方に於ては軍隊、市町村、その他公共團體、學校等が協力して大々的な行事をなした。今を去る三十年前十二萬人の犠牲と十五億の軍事費を費し、國運を倍して戦つたこの日は文字通り全國津々浦々に非常時色彩で塗りつぶされ我が國萬年の礎は築かれた。

日露戦役生還者

日露戦役生還者、帝國在郷軍人會で調査の結果日露戦役出征陸軍軍人百萬人に對し現在生存者は内地、朝鮮、臺灣、滿洲、支那各地を通じて四十三萬五千五百三十三名、この中陸軍は四十一萬七千七百三十八人である。





### 社寺宗教 寺院及住職數

（昭和九年度末現在）

宗派	寺院	住職
天台宗	一〇	一三
真言宗	一	一
淨土宗	一	一
曹洞宗	一	一
臨濟宗	一	一
時宗	一	一
日蓮宗	一	一
法華宗	一	一
計	一六	一九

### 神道 神佛道教會所

（昭和九年度末現在）

宗派	教會所	信徒數
天理教	一	一〇
大本教	一	一〇
天國教	一	一〇
神道	一	一〇
計	四	四〇

### 基督教會

（昭和九年度末現在）

宗派	教會	信徒數
日本基督教	一	一〇
日本聖公會	一	一〇
東洋宣教會	一	一〇
基督教救世軍	一	一〇
計	四	四〇

### 長慶天皇御陵新説

人皇第九十八代長慶天皇の御陵として、現在全國に幾多の参考地が挙げられ、其數全國で二百二十三個所となつて居り、本縣に於ても中郡相馬村紙漉澤並に三戸郡向村久井岳山中の崩御の地として前記の他南郡浪岡、中郡相馬村楢盛山が數へられてゐるが、昭和九年末から三戸郡七戸町舊長福寺説が新説の由來は、同年八月七日町新説の由來は、同年八月七日町住吉神社御本尊御開帳式執行の際、應永三年三月南部政光公長福寺建立の棟書が発見されたこと、長谷寺御陵説をとつてゐた北川村神職阿保氏に調査を依頼、阿保氏は以來數ヶ月、長慶天皇の御陵墓を證據付ける幾多の参考品に付調査研究の結果、七戸町字見町地内長福寺跡に住吉神社（通稱見町觀音）を中心とし、靈陵式御陵神域（高さ六十メートル、地積約三十六萬坪）を認め

### 氏子總代人選舉規定改正

比清米給閉）  
（終つて二拍手、再拜する、斯くして心身を至誠純眞の境地におき左の拜詞を白すのである）  
何々神社乃大前（神棚を拜する時は神床乃大前）爾何處乃某白須、國家乎穩爾家内安全爾守里給比幸閉給閉

### 津輕家菩提寺維持問題

津輕伯耆家では、同家の財政的見地から、年々同家より弘前の關係寺並に墓地のために支出する維持金補助金の多額なるに省みて、豫て之を整理する意圖であつたが、同家々令毛内靖胤氏は昭和十年二月廿日津輕厚志會理事長小林剛氏を招致し、嚴秘の中に次の成案内容を傳へた

- (一) 弘前市各寺院に於ける御墓は全部取拂ひ東京津梁院に一纏めにする。
- (二) 御遺髪、瓜等も全部津梁院に引揚げる。
- (三) 弘前市各寺院に於ける御位牌は全部之を廢棄する。
- (四) 御遺骸は全部高麗神社廟所に合葬する。
- (五) 御遺骸は尚御木像は高麗神社に移置する。而して右は弘前市西茂森町にある舊津輕藩主の菩提寺であり、爲信公の御木像、御歴

### 大衆的な被詞と拜詞を定む

敬神崇祖なるべき日本國民がその拜神の際の詞が區々である上に、全然口を開かずして拜することあるのは、敬神思想がその本然に目覺めつゝある今日、遺憾なことであるとして、昭和九年一月縣神職會支部長會議に於て、矢野神職會長、木村副會長、各郡市支部長協議の結果、大衆に比較的平易な、しかも人心に親しみ易い被詞拜詞を決定した。即ち

（先づ手を洗ひ口を漱ぎ襟を正して神前に一揖再拜し拍手を二つして左の被詞を白すのである）

被戸乃大神等諸乃罪穢乎被比給

### 社寺宗教 大衆的な被詞と拜詞を定む

社寺宗教 大衆的な被詞と拜詞を定む 氏子總代人選舉規定改正 津輕家菩提寺維持問題 三三七

### 津輕家菩提寺維持問題

代の御位牌、寶物を藏し、靈廟を有する長勝寺維持を中止することをも表明するので、勢ひ弘前市市民の感情を刺戟し三月に入り、毛内氏案を暴案として之が實現を阻止する運動が開された。即ち前記津輕厚志會津輕仰徳會は急遽夫々協議を重ね、長勝寺、報恩寺、革秀寺の三寺を伯耆家で維持出来なければ、一般より義金を募つても維持したいと云ふに大勢傾き、石郷岡弘前市長も與論に従ひ阻止運動に参加し、問題は一般化した。津輕家では事の進展に驚き幾分狼狽の氣味で、三月中旬毛内家令は今回の整理案の本旨は要するに津輕家の財政状態からして同家が祖先の靈をよく祀りたい意圖から出づるものなるを表明し、前案の内容については否定的な態度を示すと云ふがあつた。而してその後津輕報恩會關係寺に於ても阻止と對策に關し協議したが、石郷岡市長は二月十六日仰徳會及厚志會代表者と意見交換の際、津輕家にて既定方針不變更の場合毎年千圓位市費から出しても維持する意圖を表明、市會内議會の賛成を得ると共に、市長は市會及前記津輕厚志、仰徳、報恩各會より

委員を以て今次の問題の協議會を設立具案形成に當らしめることとなつた。前記協議會は九日市役所に開會、(一)菩提寺經營、(二)伯家は今後金銭上迷惑をかけぬこと、(三)御木像御位牌は寺へ寄附を願ふこと、(四)修理は應急的に當ること、(五)市より支出する年額一十萬圓は十年間基金に繰入れること、及五ヶ年計畫で維持基金五萬圓を募ること、につき意見の一致を見た。斯くして成案を携へて石郷岡市長は上京、五月一日東京に於て津輕家家令、家扶、家政委員及地方の前記各會代表と會合の席上對策を提示、同三日當伯備は地方側の申し出を受諾されたので、四日麻布津輕家に於て前記關係者の今後の具體的方針に關する懇談の結果、菩提寺維持は地方側が之に當り、菩提寺維持問題に就て伯家に果及ぼさざる事となり地方側で基本財産五萬圓造成のこと、而して之が造成方法に關しては菩提寺維持會を組織(厚志會と別個に)して地方篤志家の寄附を仰ぎこれに當ること一致し三ヶ月に亘る菩提寺問題は漸く解決を見た。

### 第三次文化教團弘前支部發會

弘前市佛教關係有志は、大乘佛教を原理とする第三次文化教團の支部を弘前市に設けることとなり、昭和九年二月四日、同教團主今成慈孝老師を迎へて同市西茂森町禪林宗徳寺に發會式を舉行了。同團弘前支部役員は支部長黒瀧精一師、幹事(寺院側)親音普門會、弘前曹洞宗青年會(一般)永山源之丞他九名である。

### 本縣と曹洞宗管長選舉

競争激甚を極めた曹洞宗新宗意による第一回管長選舉は、昭和十年三月廿一日六、三〇七票

### 弘前曹洞宗議員選舉紛擾

全國曹洞宗々會議員は四ヶ年毎に改選が行はれ、本縣と秋田縣は一選舉區を形成し二名を選出することになつてゐるが、昭和九年四月六日はその改選期に當る。而して來るべき改選期に對し現宗會議員弘前市西茂森町常源寺住職谷山了玄師は再び立候補を聲明した處、同市内三十三ヶ寺中長勝寺他二十六寺は、從來同市曹洞宗禪林會會長である谷山師に對する感情の行き違ひから同師を擁護する組織、事々に對立し來つた關係上、谷山師の立候補に反對を唱へ秋田縣及縣内寺院有志の賛成を得て正傳寺住職長谷川達全師を立候補せしめ運動を開始したので、茲に兩派は完全に對立、各方面に政治運動の裏面工作を見るに至つた。殊に禪林共和會派は有力な闘争を進行せしめて谷山師に對して盛んに妨害運動をなし、競争激甚の結果如何は一般に注目されてゐた。他方本縣と選舉區を同じうする秋田縣よりは土崎町若龍寺住職佐藤實英、由利郡慶祥寺住職矢萩賢宗の兩師候補者として出馬したが、五月十五日共和會派の推す長谷川達全師は俄然立候補の決意を齎し、秋田の佐藤師の軍門に降り兩者の妥協が成つたので、自然長谷川師は立候補辞退の形となつた。從つて谷山師は形勢益々不利となり、當選の見込が全く失はれたので、遂に候補辞退の聲明を發し、今期の改選は、秋田縣より禪林を誇る弘前市は全滅と

### 佛教青年道場開設

いふ結果を齎した。

### 小中野了源寺問題

昭和九年春八戸市小中野了源寺では寺境共有墓地を新設することとなり縣に申請したが、縣では認可しないので、同寺住職中村月堂師他十一名は單に共有墓地として再申請した處、同町宇沖野六番地一反五畝二歩に對し縣では認可指令書を發した。然るに同方面は、八戸市都市計畫によれば工業地域の中心部に當り、馬淵川護岸改修工事實現の曉は重要な工業地帯となるので、墓地設定は將來の進展を阻止するものであるとして神田市長は縣當局に認可指令の取消を迫り、他方寺側へ位置變更方を申請した。斯くの如くしてこの問題は何れにも解決されず宙に迷つたまま、約半ヶ年を経過したが八戸警察署では之を遺憾とし、兩者の調停に當つた結果、將來の改葬等の場合を考慮して當分の改葬せぬことを條件に紳士協約成立し、九年十一月十六日縣の認可指令書は了源寺中村住職に交付となり、紛糾の問題も解決を見た。

### 青森日本基督教會獨立

社寺宗教—小中野了源寺問題—

青森市長島日本基督教會青森教團は明治二十四年十月創立以來最新(米町二丁目)次で大工町、更に現在地に移轉)銳意教勢の擴張に努めつゝあつたが、昭和九年三月數ヶ年に亘る同教團一同の協力奮起にかゝる同教團の自給自立に信念を得たので、青森日本基督教會と改稱獨立することとなり、同十三日教會建設並に牧師、長老任職式を舉行、初代牧師は中山眞平氏と決定した。

### 日本基督教會弘前教會建設

弘前市は明治初年以來基督教傳統の地である。而してその宗派について見ればメソヂスト派が優勢であつた處、日本基督教會が新設されることとなり、昭和九年四月廿九日の天長節を卜して、同市代官町九十四番地の新築教會に創立記念禮拜が行はれた。同教會の初代牧師は同市出身武田榮七氏(名舊家武田甚左衛門氏の次男東北學院出身)である。

### 加奈陀童貞女來青

青森市濱町の天主教會に加奈陀より童貞女五名が來青して幼稚園、女學校經營其他社會事業的施設に従事すると云ふこと

### 主要なる社寺新設

海津美神社落成 青森市龍神講會員は會員の貯蓄により善知鳥神社境内の沼に、漁神を祀る海津美神社を新築、昭和九年六月

社寺宗教

社寺宗教——主要なる社寺新改築——高増敬神會設立——津輕名蹟維持會設立——高照神社及四廟所——維持保存を計るを以て目的とす

安除去の目的を以て、縣スキー場前平聯盟では南郡大鷗スキー場前平スロープにスキー神社（工費五百圓）を建立することになり、昭和十年一月十四日御室上げ式を行ひ直ちに着工、同二十四日神社に素盞鳥尊、大山津見神、五十猛命を奉齋し鎮座祭竝に山神祭を舉行した。

教育

小學校教育の動向

本縣の小學校教育は之まで全国的に個人、打算的、利己的な教法を施し此の精神が兒童にも培養されて居た處へ、打續く凶作で各方面の同情援助を受けるに及んで此の現象が具體的、社会的な姿となつて顯現されて來たのは争はれない、此の事實に直面して教育界は今更なる驚異の眼を見はり之が救済に乗り出し教壇上の具體的奮みとして如何にすれば協同社會精神を涵養して弊害を矯正し得るか

部だけでは目的を遂行し得ず、産業方面、自治機關と呼應すること緊要で、大いに小學校當局の社会的活動が要望されて來て居る。事實上、社會的活動が展開されて居る、唯、小學校當局が社會的活動をなすに於ては兎角、政治的關係に誤解される虞があり、此の點さへ眞に理解されて小學校の社會的活動が圓滑に進みさへすれば小學校教育の躍進は勿論、延いて本縣の産業的、自治的進展が企圖される譯である。

昭和九年度末三月の小學校教員異動は昭和十年三月三十一日に一齊に發表となつたが、其概數は、轉任三百三十名、休職四十九名、(内専攻科入學四十三名)退職二十一名、他縣出向二名であつた、而して今回の異動は必要程度に留めたことは言ふまでもなく、教育界の情勢に鑑み刷新すべき部面に就ては上北郡、中郡の如く相當思ひ切つて廣範圍

昭和九年度末三月の小學校教員異動は昭和十年三月三十一日に一齊に發表となつたが、其概數は、轉任三百三十名、休職四十九名、(内専攻科入學四十三名)退職二十一名、他縣出向二名であつた、而して今回の異動は必要程度に留めたことは言ふまでもなく、教育界の情勢に鑑み刷新すべき部面に就ては上北郡、中郡の如く相當思ひ切つて廣範圍

Table with columns for districts (東郡, 西郡, 中郡) and school types (校長異動, 校長調導, 校長調導). It lists specific names and counts for each category.

津輕名蹟維持會設立 津輕伯爵家菩提寺問題は、菩提寺其他關係舊蹟維持基金造成の維持會組織を以て解決されたが、即ち津輕名蹟維持會として誕生、六月十八日弘前市役所に委員會を開會、趣旨書、會則を決定、愈々資金募集の活動を開始することとなつた。同維持會々則は左の通り。

高照神社及四廟所 維持保存を計るを以て目的とす 第三條 本會は前條の目的を達する爲現財團法人津輕厚志會及弘前市と協力して、津輕舊領關係者(禪林三十三ヶ寺並各宗寺院を含む)其他縣内外一般篤志者より廣く基金を募集するものとす、前項募集基金の豫定額を五萬圓とし、之が募集期間を五ヶ年とす、基金寄附者を以て本會の會員とす、寄附金は一圓を一口とし一人にして幾口にても募集に應ずることを得、但し五口以上を寄附應募者は年賦拂と爲すを妨げず、寄附金は便宜上弘前市収入役に保管を囑託す

當局の指導に遵ひ施行するものとす 第六條 本會に左の役員を置く但し役員は無報酬とす、會長一名、副會長一名、幹事若干名、評議員若干名、會長には弘前市長、副會長には市助役を以て之に充つ、幹事及評議員は會長之を囑託す、本會に顧問を置くことを得、顧問は會長之を囑託す

Table with columns for districts (南郡, 北郡, 上北郡, 下北郡, 青森市, 弘前市) and school types (校長異動, 校長調導, 校長調導). It lists specific names and counts for each category.

津輕名蹟維持會設立 津輕伯爵家菩提寺問題は、菩提寺其他關係舊蹟維持基金造成の維持會組織を以て解決されたが、即ち津輕名蹟維持會として誕生、六月十八日弘前市役所に委員會を開會、趣旨書、會則を決定、愈々資金募集の活動を開始することとなつた。同維持會々則は左の通り。

高照神社及四廟所 維持保存を計るを以て目的とす 第三條 本會は前條の目的を達する爲現財團法人津輕厚志會及弘前市と協力して、津輕舊領關係者(禪林三十三ヶ寺並各宗寺院を含む)其他縣内外一般篤志者より廣く基金を募集するものとす、前項募集基金の豫定額を五萬圓とし、之が募集期間を五ヶ年とす、基金寄附者を以て本會の會員とす、寄附金は一圓を一口とし一人にして幾口にても募集に應ずることを得、但し五口以上を寄附應募者は年賦拂と爲すを妨げず、寄附金は便宜上弘前市収入役に保管を囑託す

當局の指導に遵ひ施行するものとす 第六條 本會に左の役員を置く但し役員は無報酬とす、會長一名、副會長一名、幹事若干名、評議員若干名、會長には弘前市長、副會長には市助役を以て之に充つ、幹事及評議員は會長之を囑託す、本會に顧問を置くことを得、顧問は會長之を囑託す

Table with columns for districts (南郡, 北郡, 上北郡, 下北郡, 青森市, 弘前市) and school types (校長異動, 校長調導, 校長調導). It lists specific names and counts for each category.

教育—小學教育—小學校學級增加—義務教育費本縣割當—小學校教員定期増俸—

岩淵視學 上北郡  
此の擔任郡市の決定は教育課長並に學務部長だけの相談で行つたもので例年ならば四月五日頃に發表となるのであるが三浦視學の轉出を考慮して居た爲め斯くの如く延滞したものであり五月廿二日付、三浦視學の後任には師範學校教諭木村美根三氏を抜擢し主任視學たらしめた。

小學校學級増加

昭和十年度より小學校の學級は著しく増加し増減を差引き結局、左の通り六十學級の増加となり之だけ教員の需要も殖えた譯である。

東郡	四	西郡	二
中郡	二	南郡	一
北郡	六	上北郡	三
下北郡	九	三戸郡	七
青森市	七	弘前市	二
八戸市	七	弘前市	二

義務教育費本縣割當

義務教育費國庫負擔法による本縣への昭和九年度交付金は昭和八年度に於て百六十二萬四千五百六十八圓で之が教員一人當りの金額は二百圓十五錢、兒童一人當り金額は四圓九十一錢であつたが昭和九年度は總金額百

六十八萬二千二百九十八圓で教員一人當り百九十三圓九十六錢、兒童一人當り四圓八十五錢

法第三條前段による交付金	七九、六六六
法第三條後段による交付金	三九〇、四三三
臨時補助法による交付金	一六九、六六五
特別市町村交付金	一三〇、七四
特別市町村交付金	二七〇、一三九
特別市町村交付金	一、六三、二九

小學校教員定期増俸

昭和四年から八年まで中止となつて居た小學校教員の増俸は八年三月から復活し三月、九月の二度に互り實施し昭和十年三月の増俸で全教員に一週りするまでになり今後は普通の期間(平均三ヶ年間)の經過によつて順次増俸が實施すべく昭和九年九月並に十年三月の増俸關係者数は左の通りで最低二圓以上、十圓程度までの増俸で福音を傳へて居る。

東郡	三	西郡	二
中郡	二	南郡	一
北郡	六	上北郡	三
下北郡	九	三戸郡	七
青森市	七	弘前市	二
八戸市	七	弘前市	二

青森市 三、五二  
八戸市 一、四八  
計 三、五二

小學校教員の俸給は町村財政の難のため支拂延滞が多く由々しい問題として憂慮されて居り縣でも斯る不祥事の發生を極力防止するに努めつゝあるが昭和九年十一月三十日現在による各町村の俸給延滞は

今別	一	大平	一
一本	一	西内	一
大平	一	大戸	一
大戸	一	中瀬	一
中瀬	一	大和	一
大和	一	四所	一
四所	一	甲地	一
甲地	一	六ヶ所	一
六ヶ所	一	六戸	一
六戸	一	大湊	一
大湊	一	川内	一
川内	一	脇野	一
脇野	一	計	一
計	一	以上の如く十四ヶ町村、一萬二千六百三圓の巨額が支拂延滞となつて居る、此延滞の理由は町村税の滞納による小學校の教	

員の俸給の殆ど八割近い額が義務教育費として交付されて居るに拘らず尙且つ斯くの如き状況にあるので縣では其の後、支拂の特に不良なる今別、四和、六ヶ所、甲地の各村には義務教育費を縣廳教育課の係員が持參し其の立會の下に學校教員に支拂はしめる強硬手段に出でる處があり漸次、延滞も少くなり現在では二ヶ月に亘る延滞は殆どないものの如くである。

缺食兒童

昭和九年度に於ける小學校缺食兒童に對する給食狀況を見るに縣下の小學校總數四百二十二校の内、給食を實施の小學校は三百十八校であり其の間に不詳

昭和九年六月	三、九一	給食費	九、八五六
昭和九年三月	六、六二八	給食費	一四、五八一
昭和十年二月	二、八四八	給食費	四、三三三
同 三月	九、二七	給食費	九、二七

縣下小學校一覽

(記入なきは回答なきものなり)

三市名	學校數	教員數	學級數	生徒數	學校費
弘前市	七	一七〇	一七〇	六、九四一	一、〇七三、〇八八
青森市	九	二四三	二四三	一三、五五九	一、〇八八、六六三
八戸市	二	一〇〇	一〇〇	九、二五九	一、〇三三、〇九三
町村名	學校數	教員數	學級數	生徒數	學校費
大湊町	一	一八	一八	七〇〇	一、〇八〇、一五八
川内町	一	三三	三三	一、〇〇〇	一、〇八〇、一五八
油川町	一	二二	二二	七〇〇	一、〇八〇、一五八
小湊町	一	二二	二二	七〇〇	一、〇八〇、一五八

町村名	學校數	教員數	學級數	生徒數	學校費
大湊町	一	一八	一八	七〇〇	一、〇八〇、一五八
川内町	一	三三	三三	一、〇〇〇	一、〇八〇、一五八
油川町	一	二二	二二	七〇〇	一、〇八〇、一五八
小湊町	一	二二	二二	七〇〇	一、〇八〇、一五八

町村名	學校數	教員數	學級數	生徒數	學校費
東平内村	五	一三	一三	五〇〇	一、〇八〇、一五八
西平内村	五	一三	一三	五〇〇	一、〇八〇、一五八
野内村	三	七	七	三〇〇	一、〇八〇、一五八
東嶽村	一	二	二	一〇〇	一、〇八〇、一五八
原別館村	一	二	二	一〇〇	一、〇八〇、一五八
濱井村	一	二	二	一〇〇	一、〇八〇、一五八
横内村	一	二	二	一〇〇	一、〇八〇、一五八
三内村	一	二	二	一〇〇	一、〇八〇、一五八
今別村	一	二	二	一〇〇	一、〇八〇、一五八
一本木村	一	二	二	一〇〇	一、〇八〇、一五八
平館村	一	二	二	一〇〇	一、〇八〇、一五八
蟹田村	一	二	二	一〇〇	一、〇八〇、一五八
蓬田村	一	二	二	一〇〇	一、〇八〇、一五八
後田村	一	二	二	一〇〇	一、〇八〇、一五八
奥内村	一	二	二	一〇〇	一、〇八〇、一五八
新内村	一	二	二	一〇〇	一、〇八〇、一五八
瀧内村	一	二	二	一〇〇	一、〇八〇、一五八
高川村	一	二	二	一〇〇	一、〇八〇、一五八
荒野村	一	二	二	一〇〇	一、〇八〇、一五八
大川村	一	二	二	一〇〇	一、〇八〇、一五八
野川村	一	二	二	一〇〇	一、〇八〇、一五八

教育—小學教育—缺食兒童—縣下小學校一覽